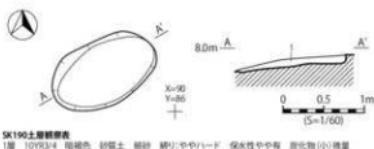


第190号土坑 (SK190, 図III-2-1-157)

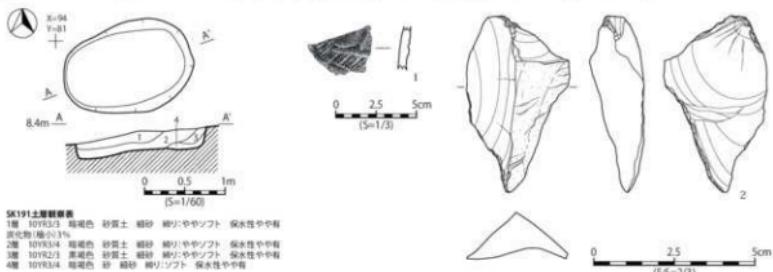
【類型】II Bb【位置・確認】グリッド X=92,Y=86に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 136.5cm、短径 80.8cm、深さ 26.5cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-65.8°-E である。【堆積土】1 層確認され、自然堆積層であると考えられる。【出土遺物】特になし。【時期】時期を特定できる遺物が出土していないため、不明である。



図III-2-1-157 SK190

第191号土坑 (SK191, 図III-2-1-158)

【類型】II Bb【位置・確認】グリッド X=94,Y=82 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 163.3cm、短径 113.3cm、深さ 47.1cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-70.5°-E である。【堆積土】4 層確認され、暗褐色土と黒褐色土が互層を成す自然堆積層である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、4 群の精製深鉢 (1)、頁岩製の微細剥離のある剝片 (2) が出土している (図III-2-1-159)。【時期】出土土器から 4 群以降であると考えられる。

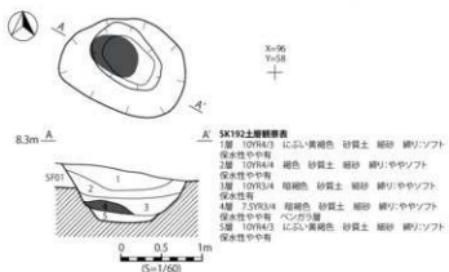


図III-2-1-158 SK191

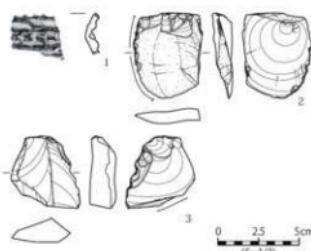
図III-2-1-159 SK191 出土遺物

第192号土坑 (SK192 (墓), 図III-2-1-160)

【類型】II Bb【位置・確認】グリッド X=98,Y=56 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SF01



図III-2-1-160 SK192



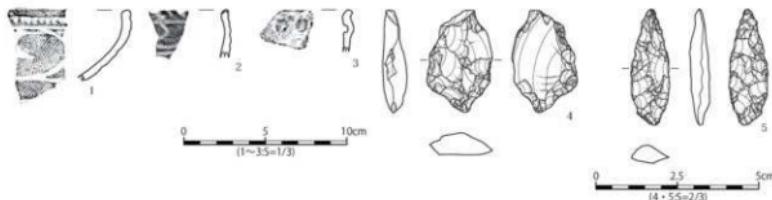
図III-2-1-161 SK192 出土遺物

と重複関係にあり、SF01 よりも新しい。【規模・形状】長径 156.3cm、短径 117.1cm、深さ 72.0cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-83.6°-W である。【堆積土】5 層確認され、下層からベンガラが検出された。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、5 群の精製鉢（1）、頁岩製のスクレイパー（2・3）が出土している（図III-2-1-161）。【時期】出土土器から 5 群以降であると考えられる。

第194号土坑 (SK194, 図III-2-1-162)

【類型】II Bb 【位置・確認】グリッド X=98,Y=82 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SP441 と重複関係にあり、SP441 よりも古い。【規模・形状】長径 148.5cm、短径 60.5cm、深さ 58.2cm を測る楕円形を呈し、長軸方位

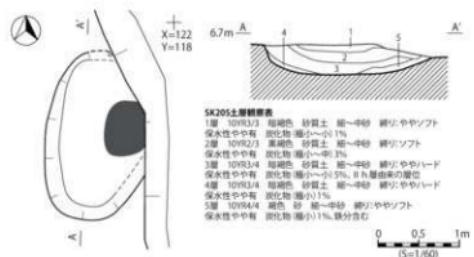
は N-79.2°-E である。【堆積土】3 層確認され、遺物包含層からの流入土であると考えられる。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 6 群の精製浅鉢（1）、4 群の精製深鉢（2）、9a 群の北海道系の粗製深鉢（3）が出土しており、石器では頁岩製の石鏃未成品（4）、石鏃（5）が出土している（図III-1-163）。【時期】出土土器から 6 群以降であると考えられる。



図III-2-1-162 SK194

第205号土坑 (SK205) (墓), 図III-2-1-164

【類型】II Bb 【位置・確認】グリッド X=122,Y=118 に位置し、II h 層で確認された。【重複】なし。【規模・形状】一部掘削により消滅しているが、残存する長径 209.6cm、短径 125.6cm、深さ 45.1cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-11.3°-E である。【堆積土】5 層確認され、暗褐色土と黒褐色土が互層を成す自然堆積層であり、中央西側の床面よりベンガラが検出された。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として 3 群の注口土器（1）、2c 群の深鉢（2・3）、2b 群の深鉢（4）が出土している（図III-2-1-165）。【時期】出土土器から 3 群以降であると



図III-2-1-164 SK205

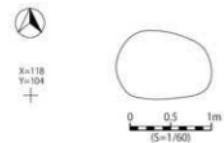
考えられる。



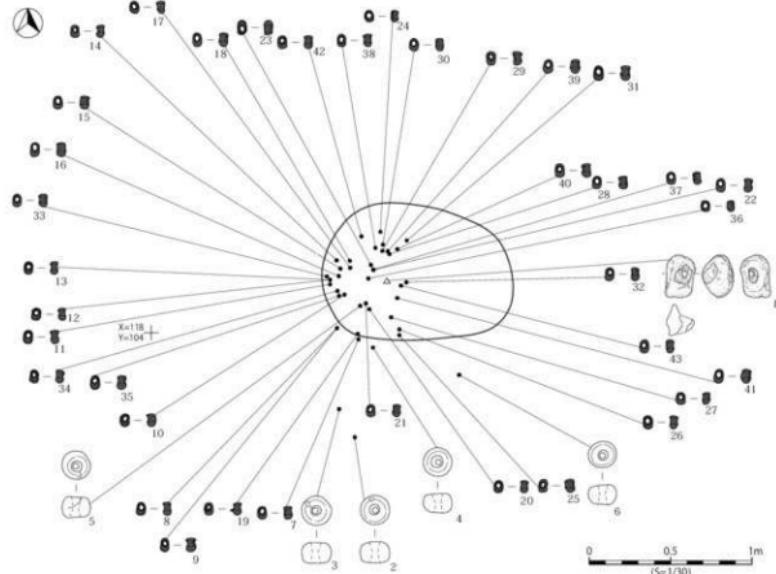
図III-2-1-165 SK205出土遺物

第206号土坑 (SK206) (墓), 図III-2-1-166

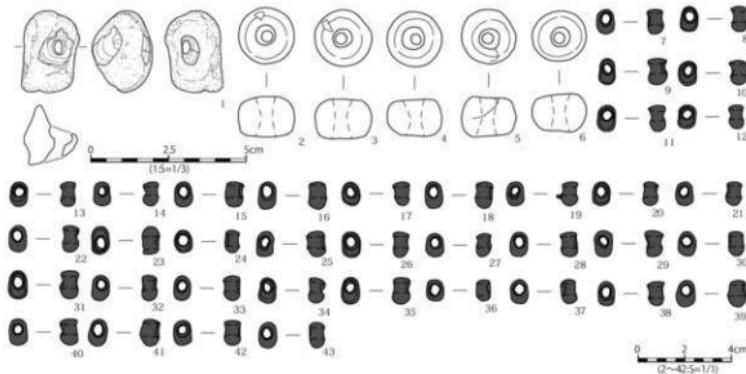
【類型】II Bb【位置・確認】グリッド X=120, Y=108 に位置し、II h 層で確認された。【重複】なし。【規模・形状】上部が削平されており、床面のみ残存しているが、残存する長径 118.3cm、短径 84.5cm を測る椭円形を呈し、長軸方位は N-82.0°-W である。【堆積土】床面のみで確認できなかった。【出土遺物】副葬品として緑色凝灰岩製の自然石である有孔石(1)、緑色凝灰岩製の丸玉(2～6)、赤色顔料が塗布された小型土製垂飾(7～43)が出土している(図 III-2-1-167・168)。【時期】時期を特定できる遺物が出土していないため、不明である。



図III-2-1-166 SK206



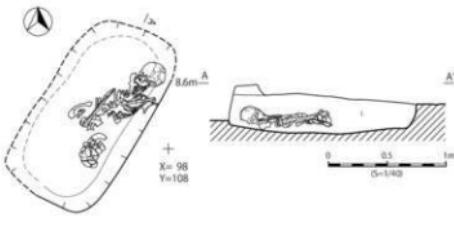
図III-2-1-167 SK206遺物出土状況



図III-2-1-168 SK206 出土遺物

第217号土坑 (SK217 (墓), 図III-2-1-169)

【類型】II Bb 【位置・確認】グリッド X=98,Y=110 に位置し、II g 層で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 168.7cm、短径 85.5cm、深さ 33.3cm を測る楕円形を呈し、頭位は N-34.6°-E である。【堆積土】1 層確認され、黒褐色を呈する遺物包含層からの流入土である。【出土遺物】壯

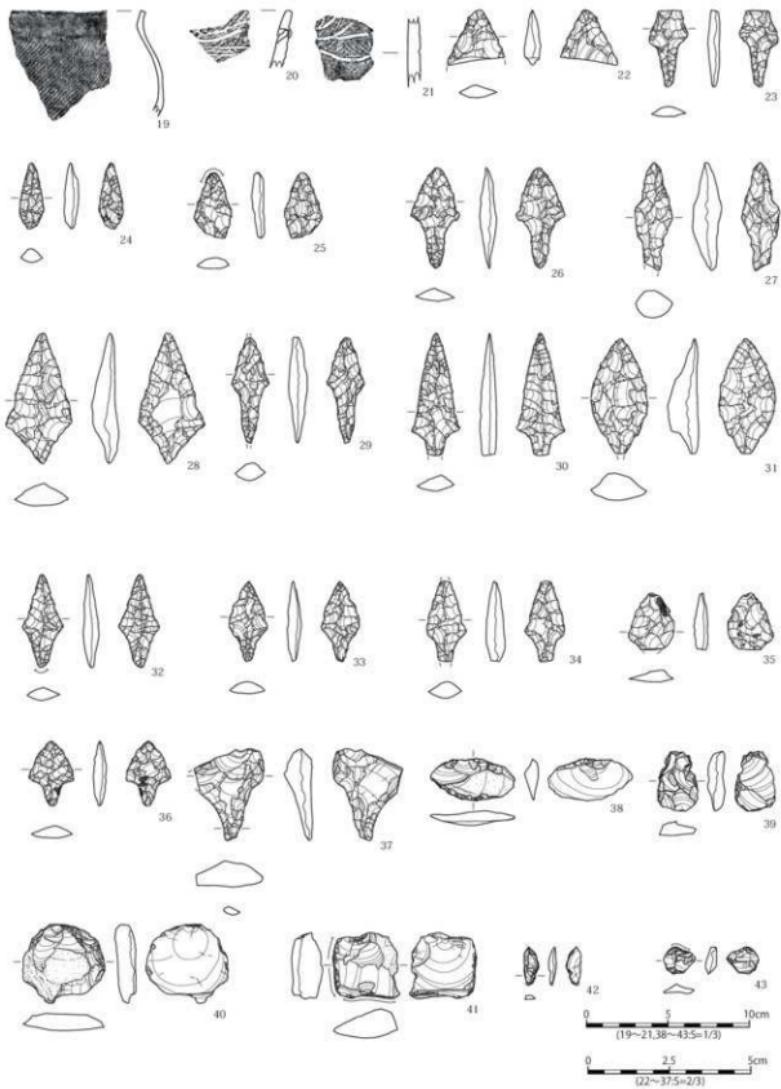


図III-2-1-169 SK217

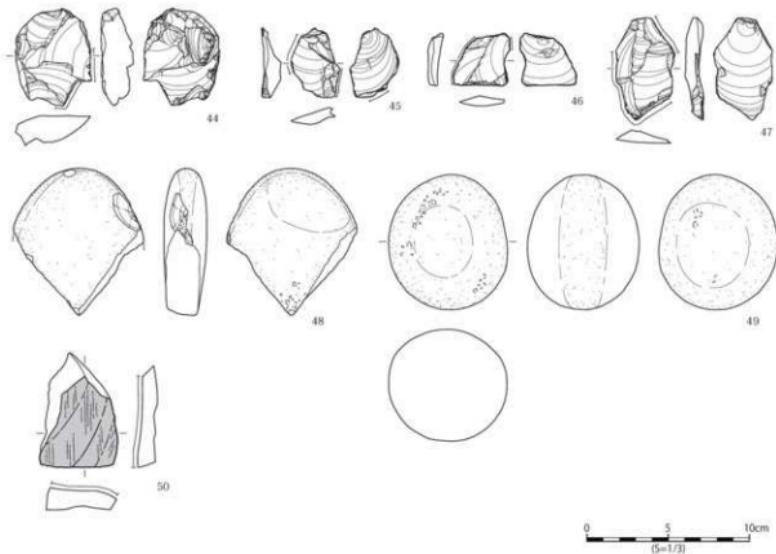
年年代の女性の横臥屈葬人骨が出土している（詳細は第5章第4節参照）。遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 7 群の精製壺（1）、5 群の精製鉢（2）、4-5 群の精製鉢（5）、4



図III-2-1-170 SK217 出土遺物 (1)



图III-2-171 SK217出土遗物(2)



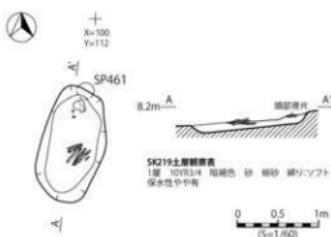
図III-2-1-172 SK217 出土遺物（2）

群の深鉢（3・6～13）、鉢（14）、注口土器（4・15）、3群の深鉢（16～18）、晩期の粗製壺（19）、2b群の深鉢（20・21）が出土している。石器では頁岩製の石鎌（22～35）、石錐（37）、スクレイパー（38～42）、微細剥離のある刺片（44～47）、メノウ製の石鎌（36）、スクレイパー（43）、玄武岩製の敲石（48）、安山岩製の磨石（49）、砂岩製の砥石（50）が出土している（図III-2-1-170～172）。【時期】出土土器から7群以降であると考えられる。

第219号土坑（SK219（墓）, 図III-2-1-173）

【類型】II Bb 【位置・確認】グリッド X=100, Y=112 に位置し、II h 層で確認された。

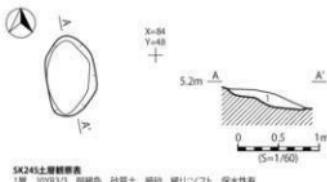
【重複】SP461 と重複関係にあり SP461 よりも新しい。【規模・形状】長径 139.1cm、短径 79.4cm、深さ 12.3cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-16.5°-E である。【堆積土】1 層確認され。【出土遺物】壮年年代の性別不明の人骨（詳細は第5章第4節参照。）が出土している。【時期】時期を特定できる遺物が出土していないため、不明である。



図III-2-1-173 SK219

第245号土坑(SK245、図III-2-1-174)

【類型】 II Bb 【位置・確認】 グリッド X=84,Y=48 に位置し、II h 層で確認された。【重複】 なし。【規模・形状】 長径 98.2cm、短径 61.1cm、深さ 28.6cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-2.0°-W である。【堆積土】 1 層確認され、遺物包含層からの流入土である。【出土遺物】 特になし。【時期】 時期を特定できる遺物が出土していないため、不明である。

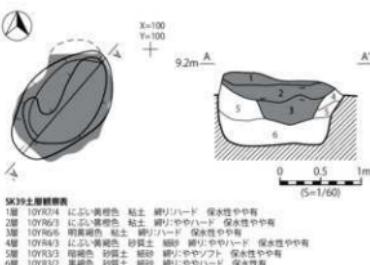


図III-2-1-174 SK245

(2) 半裁調査

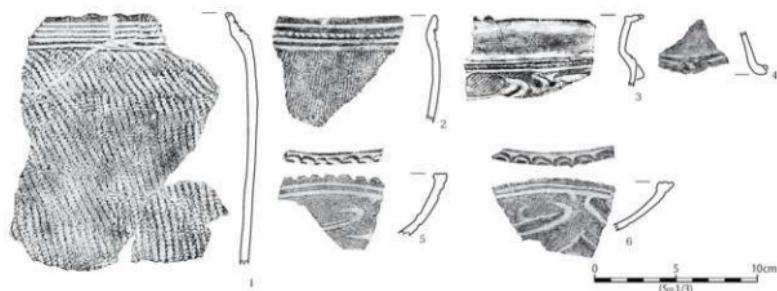
第39号土坑(SK39(墓)、図III-2-1-175)

【類型】 II Ab 【位置・確認】 グリッド X=100,Y=100 に位置し、地山直上で確認された。【重複】 なし。【規模・形状】 長径 156.5cm、短径 98.3cm、深さ 91.3cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-37.0°-E である。【堆積土】 6 層確認され、上層はマウンドを形成する人為的粘土層であり、下層は遺物包含層からの流入土であると考えられる。【出土遺物】 遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、7 群の半精製深鉢(1)、精製鉢(2~4・8)、精製浅鉢(5~7)、精製壺(9)、6 群の精製鉢(10~13)、精製浅鉢(14~15)、5 群の精製鉢(16~18)、注口土器(19)、4 群の精製深鉢(20~22)、3 群の精製深鉢(23・24)、晩期の粗製壺(25)が出土している。

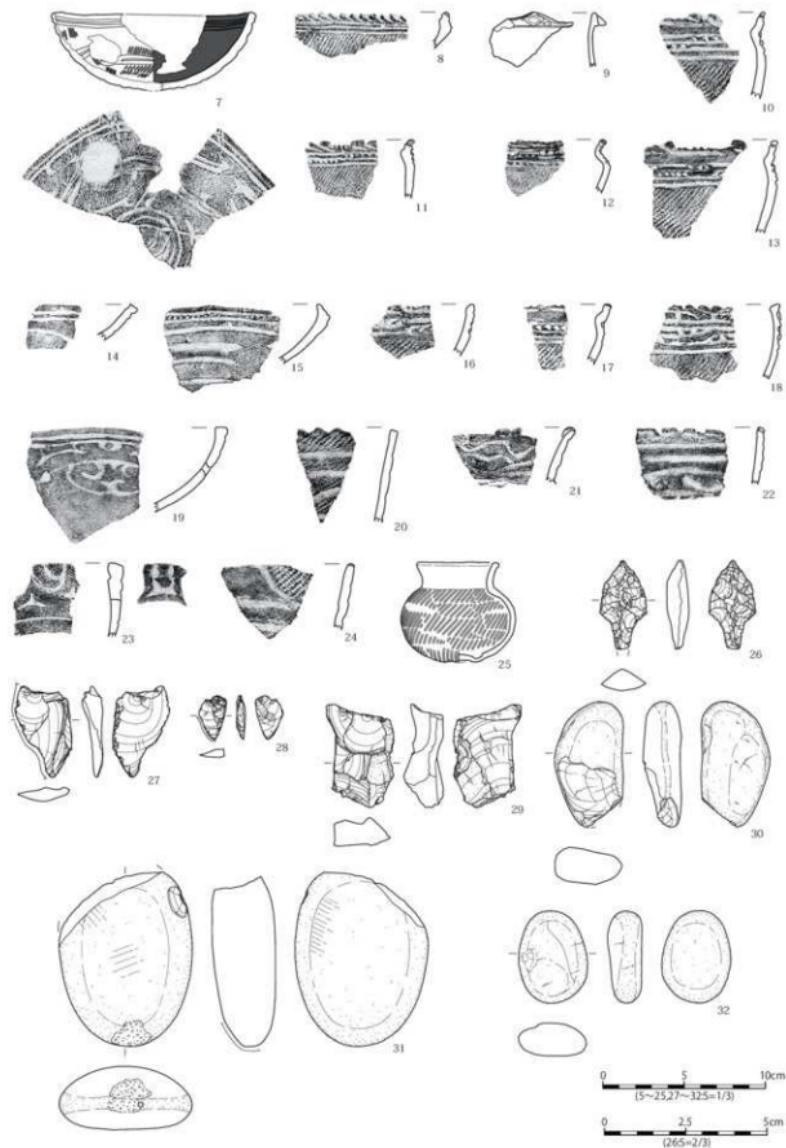


図III-2-1-175 SK39

鉢(14~15)、5 群の精製鉢(16~18)、注口土器(19)、4 群の精製深鉢(20~22)、3 群の精製深鉢(23・24)、晩期の粗製壺(25)が出土している。石器では頁岩製の石鏃(26)、スクレイパー(27)、石核(29)、敲石(30)、黒曜石製のスクレイパー(28)、玄武岩製の敲石(31)、メノウの原石(32)が出土している(図III-2-1-176・177)。【時期】 出土土器から 7 群以降であると考えられる。



図III-2-1-176 SK39 出土遺物 (1)



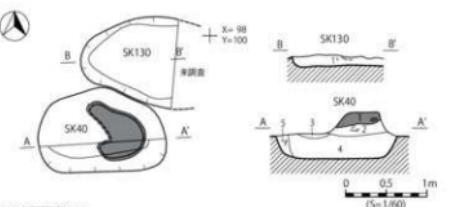
図III-2-1-177 SK39 出土遺物（2）

第40・130号土坑(SK40(墓)・

130、図III-2-1-178)

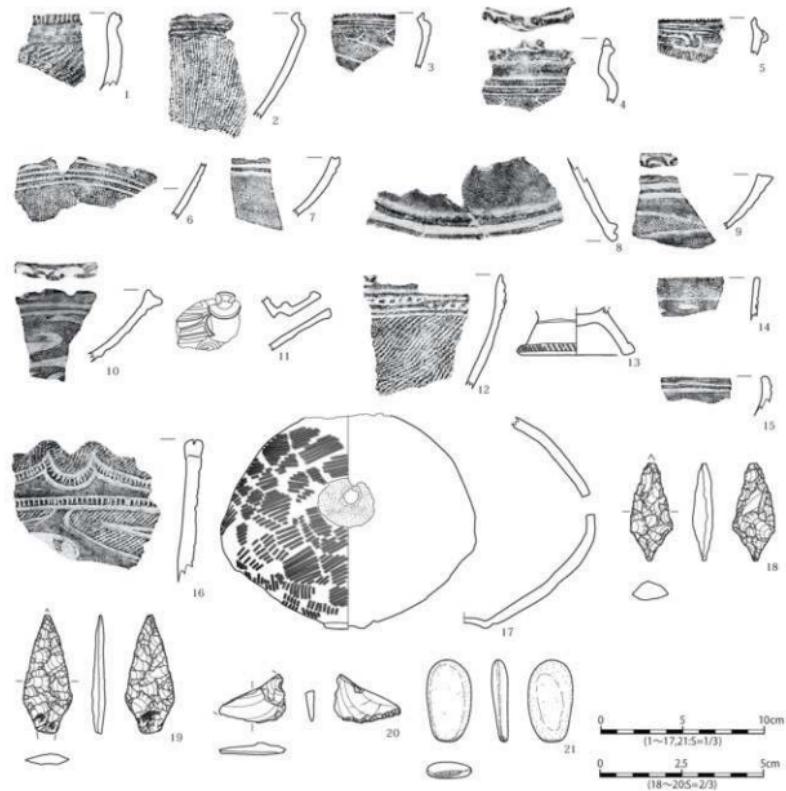
(SK40)

【類型】II Ab 【位置・確認】グリッド X=98,Y=100 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 148.8cm、短径 102.1cm、深さ 57.6cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-86.6°-E である。【堆積土】5 層確認され、1 層はマウンドを形成する粘土層である



SK40上部堆積土(5-7)
1-5 10YR6/4 黄褐色 粘土 緩りハード 保水性やや有
2-5 10YR3/2 黄褐色 粘質土 緩りやカット ボーリング物 (小~大) 粒度
3-5 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 緩り 緩リハード 保水性やや有
4-5 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土 緩り 緩リハード 保水性やや有
5-7 10YR3/2 黄褐色 粘質土 緩り カット ボーリング物 (小~中) 粒度、保水性やや有

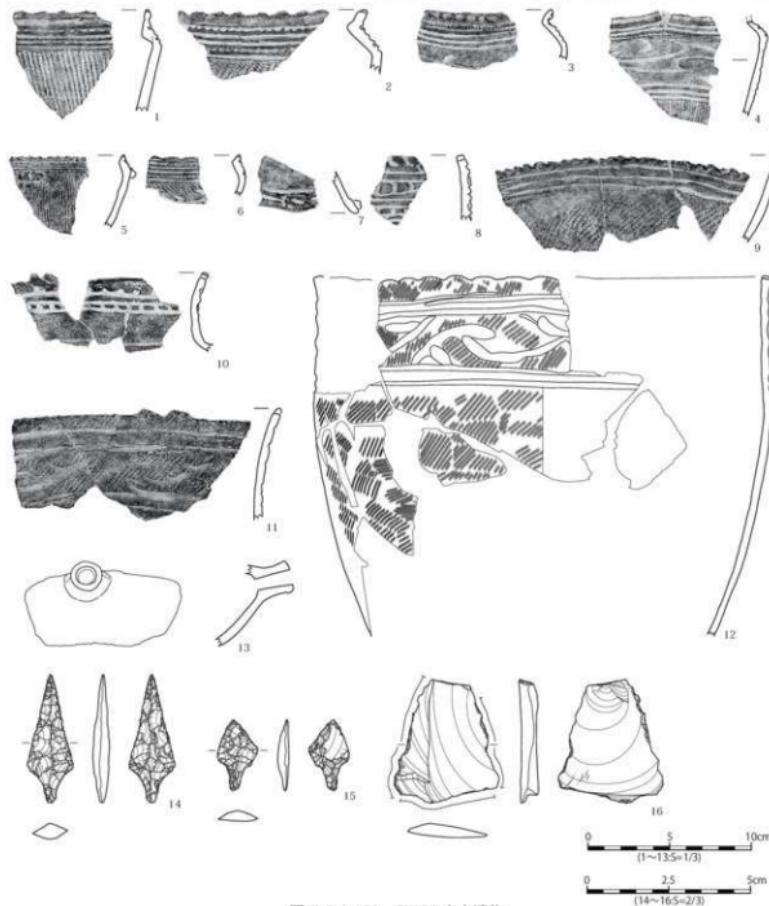
図III-2-1-178 SK40・130



図III-2-1-179 SK40 出土遺物

(上部擾乱のため、一部のみ検出。)。【出土遺物】遺物包含層からの流入として、土器では7群の鉢(1~6)、浅鉢(7)6あるいは7群の台付鉢の台部(8)、6群の浅鉢(9・10)、注口土器(11)、5群の鉢(12)、台付鉢の台部(13)、4群の鉢(14)、注口土器(15)、2c群の深鉢(16)、2c群の注口土器(17)が出土している。石器では頁岩製の石鏃(18・19)、スクレイパー(20)、粘板岩製の磨石(21)が出土している(図III-2-1-175)。【時期】出土土器から7群以降であると考えられる。(SK130)

【類型】II Bb【位置・確認】グリッド X=98,Y=100に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】セクションベルトに接しているため規模は不明であるが、調査状況から短径90.7cm、深



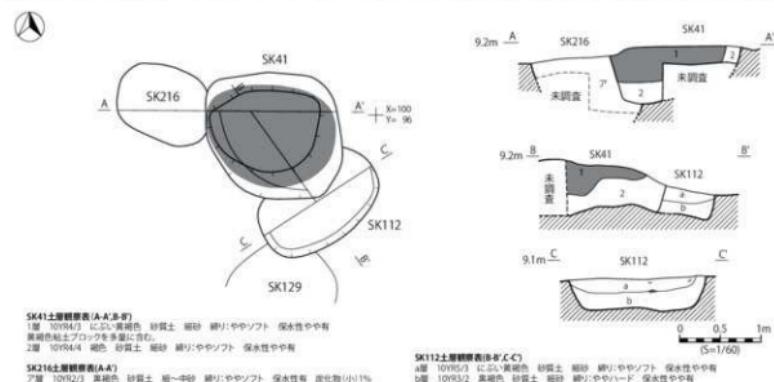
図III-2-1-180 SK130 出土遺物

さ 15.7cm の楕円形を呈するものと考えられ、長軸方位は N-82.9°-W である。【堆積土】1 層確認され、地山直上層由来の自然堆積層である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 7 群の鉢（1～4）、6 群の鉢（5～7）、5 群の深鉢（8）、鉢（9）、壺（10）、4 群の深鉢（11～12）、注口土器（13）が出土している。石器では頁岩製の石鏃（14・15）、微細剥離のある剥片（16）が出土している（図III-2-1-180）。【時期】出土土器から 7 群以降であると考えられる。

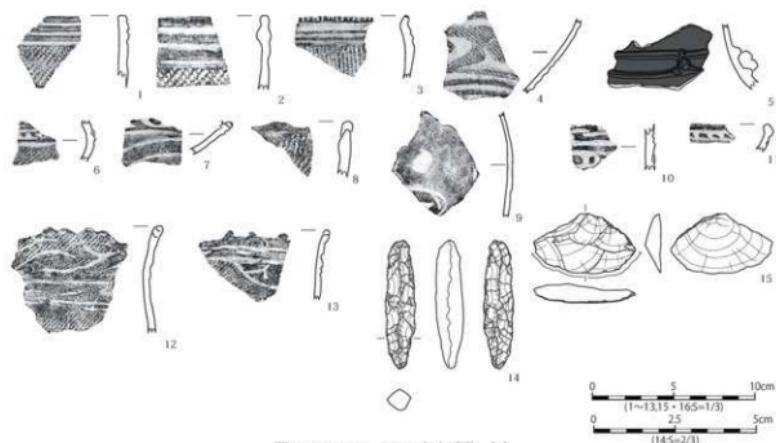
第 41・112 号土坑 (SK41 (墓)・112, 図III-2-1-181)

(SK41)

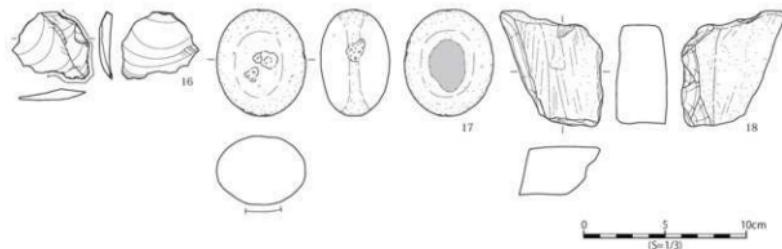
【類型】 I Ab 【位置・確認】 グリッド X=100,Y=96 に位置し、地山直上で確認された。【重複】



図III-2-1-181 SK41・SK112



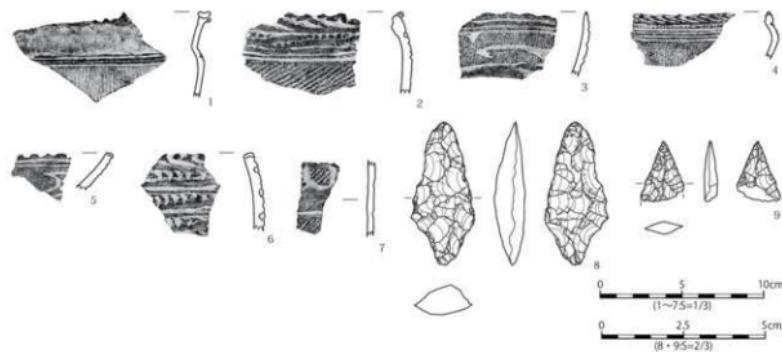
SK112・216と重複関係があり、いずれの遺構よりも新しい。【規模・形状】長径 171.6cm、短径 164.3cm、深さ 52.6cm を測る不整円形を呈し、長軸方位は N-15.1°-W である。【堆積土】3層確認され、1層はマウンドを形成する粘土層である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 7 群の深鉢（1・2）、鉢（3）、浅鉢（4）、壺（5）、6 群の鉢（6）、注口土器（7）、5～6 群の深鉢（8）、壺（9）、5 群の深鉢（10）、鉢（11）、4 群の深鉢（12・13）が出土している。石器では頁岩製の石錐（14）、スクレイパー（16）、玄武岩製のスクレイパー（15）、安山岩製の敲石（17）、砂岩製の砥石（18）が出土している（図III-2-1-182・183）。【時期】出土土器から 7 群以降であると考えられる。



図III-2-1-183 SK41 出土遺物（2）

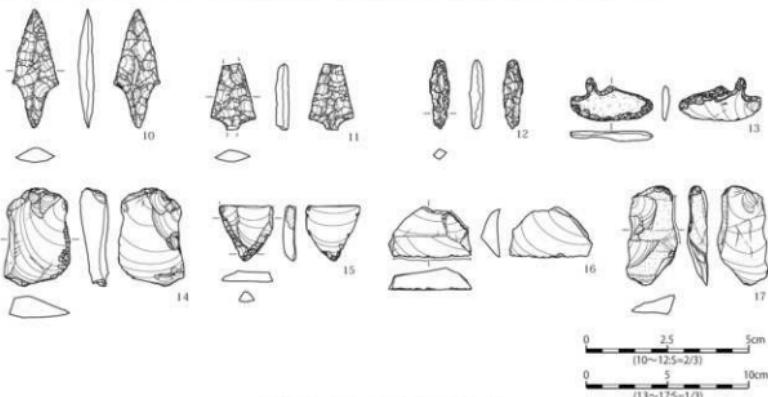
(SK112)

【類型】II Bb 【位置・確認】グリッド X=100,Y=96 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK41・129 と重複関係があり、SK41 よりも古く、SK129 よりも新しい。【規模・形状】長径 159.0cm、短径 86.4cm、深さ 61.1cm を測る梢円形を呈し、長軸方位は N-57.0°-E である。【堆積土】2 層確認され、下層は人為的堆積層であり上層は地山直上層由來の自然堆積層である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 7 群の鉢（1）、6 群の深鉢（2）、鉢（3・4）、浅鉢（5）、4 群の深鉢（6）、3 群の深鉢（7）、が出土している。石器では頁岩製の尖頭器（8）、石錐（9）



図III-2-1-184 SK112 出土遺物（1）

~11)、石錐(12)、石匙(13)、スクレイパー(14・15)、微細剥離のある剥片(16・17)が出土している(図III-2-1-184・185)。【時期】出土土器から7群以降であると考えられる。

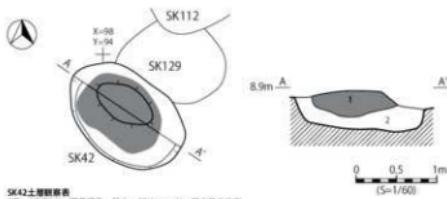


図III-2-1-185 SK112 出土遺物(2)

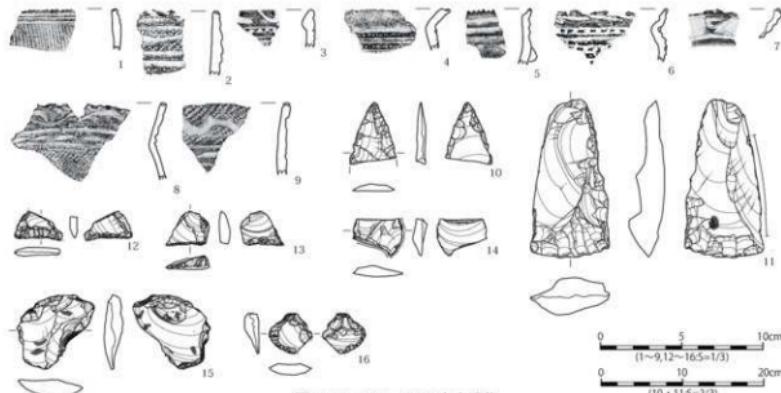
第42号土坑

(SK42(墓), 図III-2-1-186)

【類型】II Ab 【位置・確認】グリッド X=98,Y=96に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径160.2cm、短径105.1cm、深さ51.2cmを測る楕円形を呈し、長軸方位はN-56.4°-Wである。【堆積土】3



図III-2-1-186 SK42



図III-2-1-187 SK42 出土遺物

層確認され、1層はマウンドを形成する粘土層である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では7群の深鉢（1～3）、鉢（4・5）、6群の鉢（6）、5群の注口土器（7）4群の深鉢（9）、鉢（8）が出土している。石器では頁岩製の石鏃（10）、石錐（11）、石匙（12）、スクレイパー（13～16）が出土している（図III-2-1-187）。【時期】出土土器から7群以降であると考えられる。

第43号土坑（SK43（墓）, 図III-2-1-188）

【類型】II Bb【位置・確認】グリッド

X=100,Y=94に位置し、地山直上で確認された。

【重複】なし。【規模・形状】長径137.9cm、

短径89.3cm、深さ91.8cmを測る楕円形を呈し、長軸方位はS-87.8°-Wである。【堆積土】

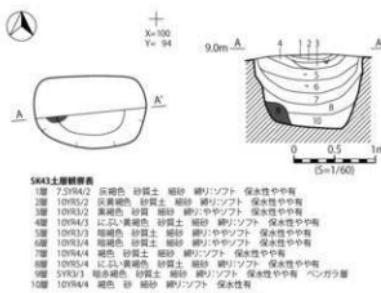
10層確認され、西側床面でベンガラが検出され、その他の層は遺物包含層からの流入層である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考

えられる遺物として、土器では6群の粗製深鉢（1）、精製鉢（2）、4群の精製深鉢（3）、3

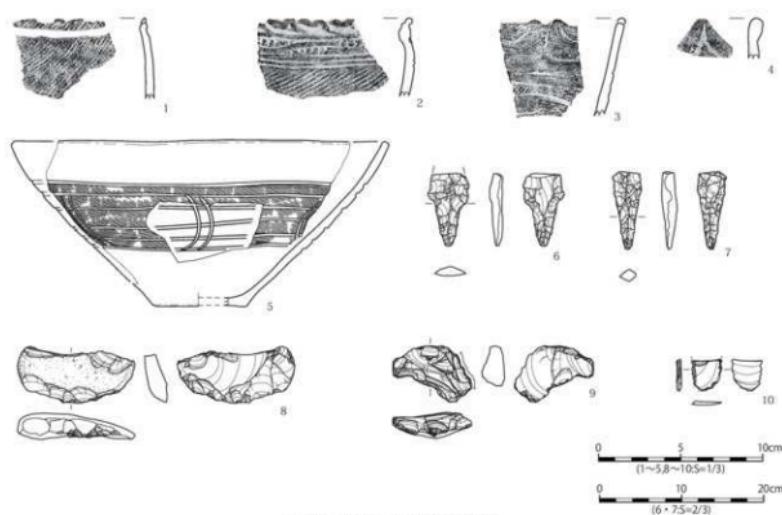
群の精製深鉢（4）、2a群の精製浅鉢（5）が出土している。石器では頁岩製の石鏃（6）、石錐（7）、

スクレイパー（8～10）が出土している（図III-2-1-189）。【時期】出土土器から6群以降であると

考えられる。



図III-2-1-188 SK43

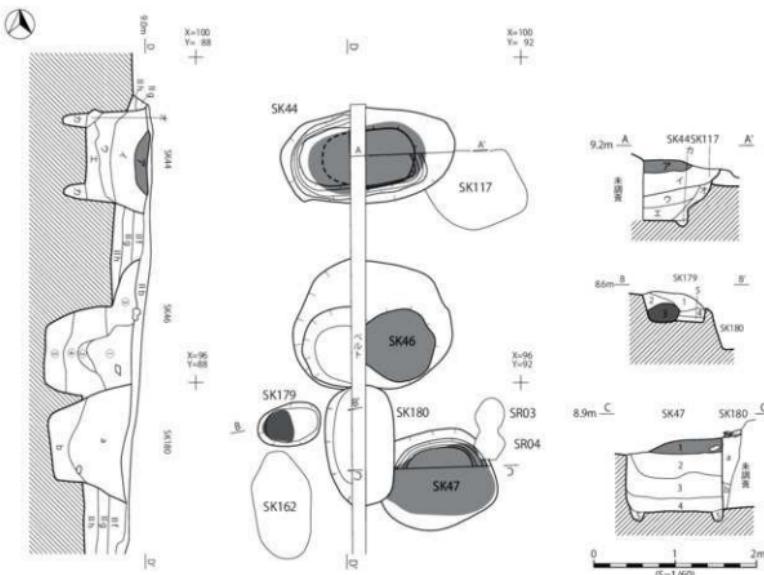


第44・46・47・179・180号土坑

(SK44(墓)・46(墓)・47(墓)・179(墓)・180(図III-2-1-190)

(SK44)

【類型】II Aa ①【位置・確認】グリッド X=100,Y=92 に位置し、II f 層で確認された。【重複】SK117 と重複関係にあり、SK117 よりも新しい。【規模・形状】長径 215.8cm、短径 115.6cm、深さ 107.9cm を測る梢円形を呈し、長軸方位は N-84.7°-E である。底面壁際に周回する溝を有する。【堆積土】5 層確認され、上層はマウンドを形成する粘土層である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 5 か 6 群の台付鉢 (1)、5 群の深鉢 (2)、鉢 (3・4)、4 群の深鉢 (5・6) が出土している。石器では頁岩製の石鏃 (7)、石錐 (8)、メノウ製の石匙 (9) が出土している。土製品では土偶の脚部が (10) 出土している (図III-2-1-191)。【時期】出土土器から 6 群以降であると考えられる。



SK44上層断面図 (A'-A'・D'-D')

- ア層 10YR5/2 黒褐色、砂質土、綈り:ややハード 保水性やや有
- イ層 7SYR5/3 にじみ褐色、砂質土、綈砂、綈り:ソフト 保水性やや有
- ウ層 10YR4/2 黒褐色、砂質土、綈砂、綈り:ソフト 保水性やや有
- エ層 7SYR5/4 黑褐色、砂質土、綈砂、綈り:ややソフト 保水性やや有
- オ層 10YR4/3 にじみ黒褐色、砂、綈砂、綈り:ソフト 保水性やや有

SK44下層断面図 (D-D')

- 1層 7SYR5/2 黑褐色、砂質土、綈砂、綈り:ややハード 保水性有
- 2層 7SYR5/4 にじみ褐色、砂質土、綈砂、綈り:ややソフト 保水性やや有
- 3層 10YR4/2 黑褐色、砂質土、綈砂、綈り:ややソフト 保水性有
- 4層 7SYR5/4 黑褐色、砂質土、綈砂、綈り:ややソフト 保水性有
- 5層 10YR4/2 黑褐色、砂質土、綈砂、綈り:ソフト 保水性有

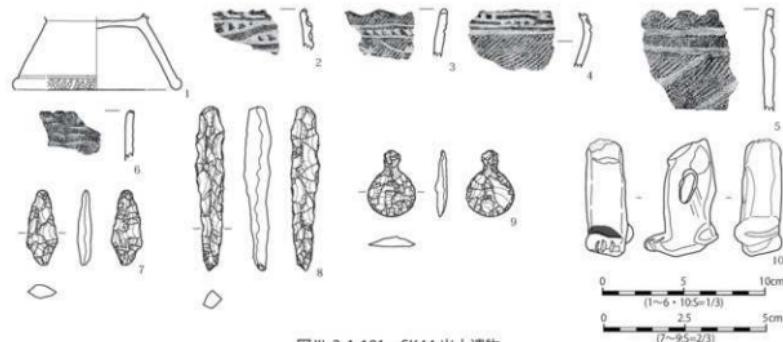
SK179上層断面図 (C-C')

- 1層 10YR5/2 黑褐色、砂質土、綈砂、綈り:ややハード 保水性やや有
- 2層 10YR5/2 黑褐色、砂質土、綈砂、綈り:ややソフト 保水性有
- 3層 7SYR5/4 黑褐色、砂質土、綈砂、綈り:ややソフト 保水性有
- 4層 7SYR5/4 黑褐色、砂質土、綈砂、綈り:ややソフト 保水性有
- 5層 10YR4/2 黑褐色、砂質土、綈砂、綈り:ソフト 保水性有

SK180上層断面図 (C-C')

- 1層 10YR4/4 黑褐色、砂質土、綈砂、綈り:ややソフト 保水性やや有
- 2層 10YR4/3 にじみ黒褐色、砂、綈砂、綈り:ソフト 保水性やや有

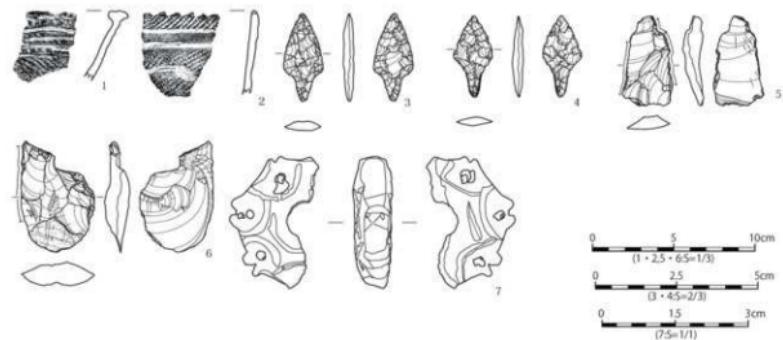
図III-2-1-190 SK44・46・47・179・180



図III-2-1-191 SK44 出土遺物

(SK46)

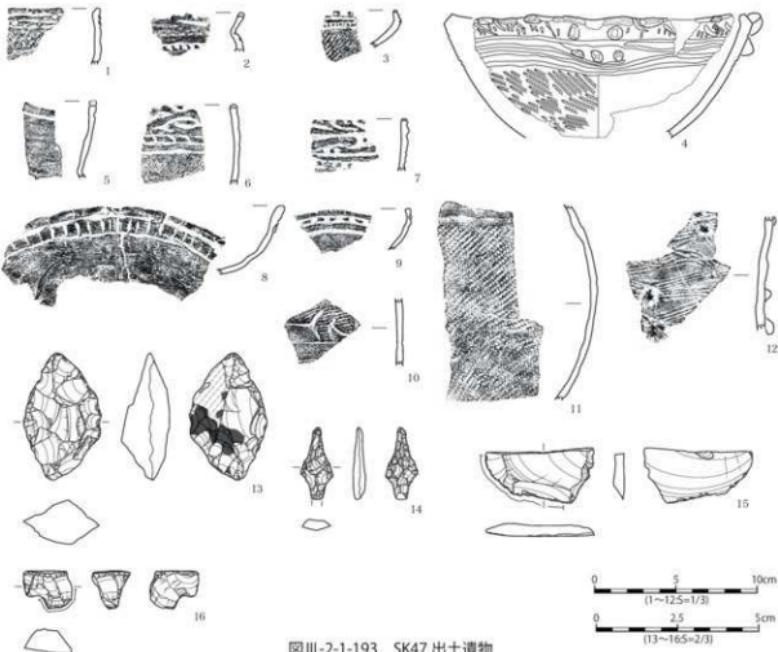
【類型】 II Ab 【位置・確認】 グリッド X=98,Y=92 に位置し、II f 層で確認された。【重複】 SK180 と重複関係にあり、SK180 よりも古い。【規模・形状】 長径 196.1cm、短径 165.6cm、深さ 117.7cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-87.5°-E である。【堆積土】 5 層確認され、上層はマウンドを形成する粘土層である。【出土遺物】 遺物包含層からの流入として、土器では 6 群の浅鉢（1）、4 群の深鉢（2）が出土している。石器では頁岩製の石鏃（4）、スクレイバー（5-6）、メノウ製の石鏃（3）が出土している。破碎した環状土製品（7）が出土している（図III-2-1-192）。【時期】 出土土器から晩期 6 群以降であると考えられる。



図III-2-1-192 SK46 出土遺物

(SK47)

【類型】 II Aa ① 【位置・確認】 グリッド X=96,Y=92 に位置し、地山直上で確認された。【重複】 SK180・SRO4 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。【規模・形状】 長径 188.3cm、短径 121.8cm、深さ 54.6cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-65.4°-E である。【堆積土】 5 層確認され、上層はマウンドを形成する粘土層である。【出土遺物】 遺物包含層からの流入と考えられる遺物とし



図III-2-1-193 SK47出土遺物

て、6群の深鉢（1）、鉢（2）、浅鉢（3・4）、壺（5）、5群の鉢（6・7）、浅鉢（8）、注口土器（9）、4群の深鉢（10）、壺（11）、2b群の壺か注口土器（12）が出土している。石器では頁岩製の尖頭器（13）、スクレイバー（15）、メノウ製の石鏃（14）、スクレイバー（16）が出土している（図III-2-1-193）。

【時期】出土土器から6群以降であると考えられる。

（SK179）

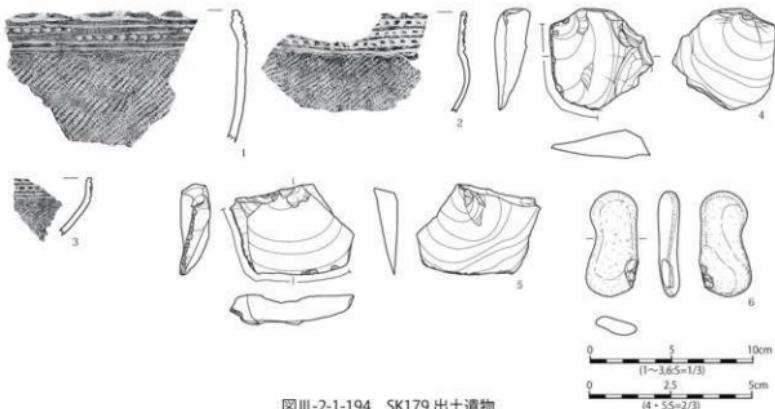
【類型】II Bb【位置・確認】グリッド X=96,Y=90 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 119.9cm、短径 56.4cm、深さ 62.3cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は S-72.4°-W である。【堆積土】5 層確認され、西側底面からベンガラが検出された。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 6群の深鉢（1）、5群の鉢（2・3）が出土している。石器では頁岩製の微細剥離のある剝片（4）、敲石（6）、メノウ製の微細剥離のある剝片（5）が出土している（図III-2-1-194）。

【時期】出土土器から6群以降であると考えられる。

（SK180）

【類型】II Bb【位置・確認】グリッド X=96,Y=92 に位置し、II f 層で確認された。【重複】SK46・47 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。【規模・形状】長径 100.4cm、短径 62.9cm、深さ 96.5cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-50.7°-W である。【堆積土】2 層確認され、遺物包含層からの流入土である。【出土遺物】特になし。【時期】SK46・47 よりも新しいことから6群以降で

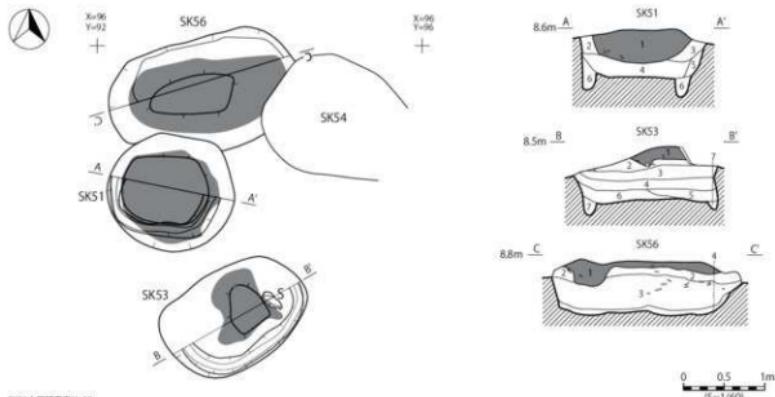
あると考えられる。



図III-2-1-194 SK179 出土遺物

第51・53・56号土坑 (SK51 (墓)・53 (墓)・56 (墓), 図III-2-1-195)

(SK51)



SK51土層剖面図(A-A')

- 1層 10YR6/4 にしい黄褐色 砂質土 細砂 繊りややハード 保水性やや有 黄褐色粘土粒(小~大)稍混
- 2層 10YR6/2 黃褐色 砂質土 細砂 繊りややソフト 保水性やや有
- 3層 10YR4/2 黃褐色 砂質土 細砂 繊りややソフト 保水性やや有 黄褐色粘土粒(小)稍混, 硬化物(小)微量, 粘土微量
- 4層 10YR4/2 黃褐色 砂質土 細砂 繊りややソフト 保水性やや有 黄褐色粘土粒(小~中)微量
- 5層 10YR4/3 にしい黄褐色 砂質土 細砂 繊りややソフト 保水性やや有 硬化物(小)微量
- 6層 10YR4/3 にしい黄褐色 砂質土 細砂 繊りややソフト 保水性やや有

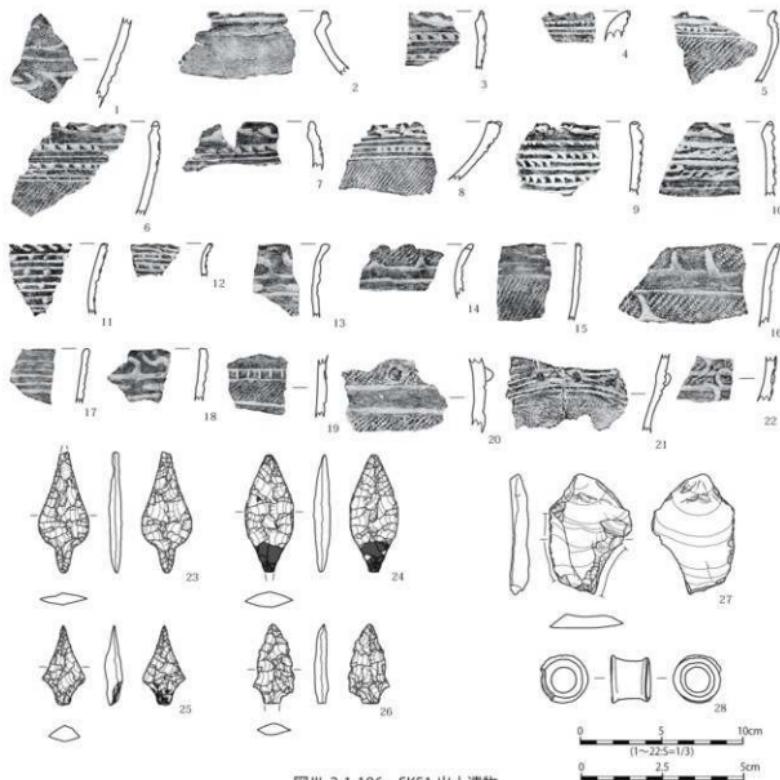
SK52土層剖面図(B-B')

- 1層 10YR6/4 にしい黄褐色 粘土 繊リハード 保水性やや有
- 2層 10YR4/2 黄褐色 砂質土 細砂 繊リややソフト 保水性やや有
- 3層 10YR3/2 黄褐色 砂質土 細砂 繊リややソフト 保水性やや有 黄褐色粘土粒
- 4層 10YR3/2 黄褐色 砂質土 細砂 繊リややソフト 保水性やや有
- 5層 10YR3/1 黄褐色 砂質土 細砂 繊リややソフト 保水性やや有
- 6層 10YR4/2 にしい黄褐色 砂質土 細砂 繊リややソフト 保水性やや有
- 7層 10YR3/3 棕褐色 砂質土 細砂 繊リ:ソフト 保水性やや有

SK56土層剖面図(C-C')

- 1層 10YR6/3 にしい黄褐色 粘土 繊リハード 保水性やや有 粘土粒(小~中)15%
- 2層 10YR4/3 にしい黄褐色 砂質土 細砂 繊リややソフト 保水性やや有 粘土粒(小)10%
- 3層 10YR4/4 粉質土 砂質土 細砂 繊リややソフト 保水性やや有 粘土粒(小~大)10%
- 4層 10YR4/4 棕褐色 砂質土 細砂 繊リ:ソフト 保水性やや有 粘土粒(細)(小~大)10%

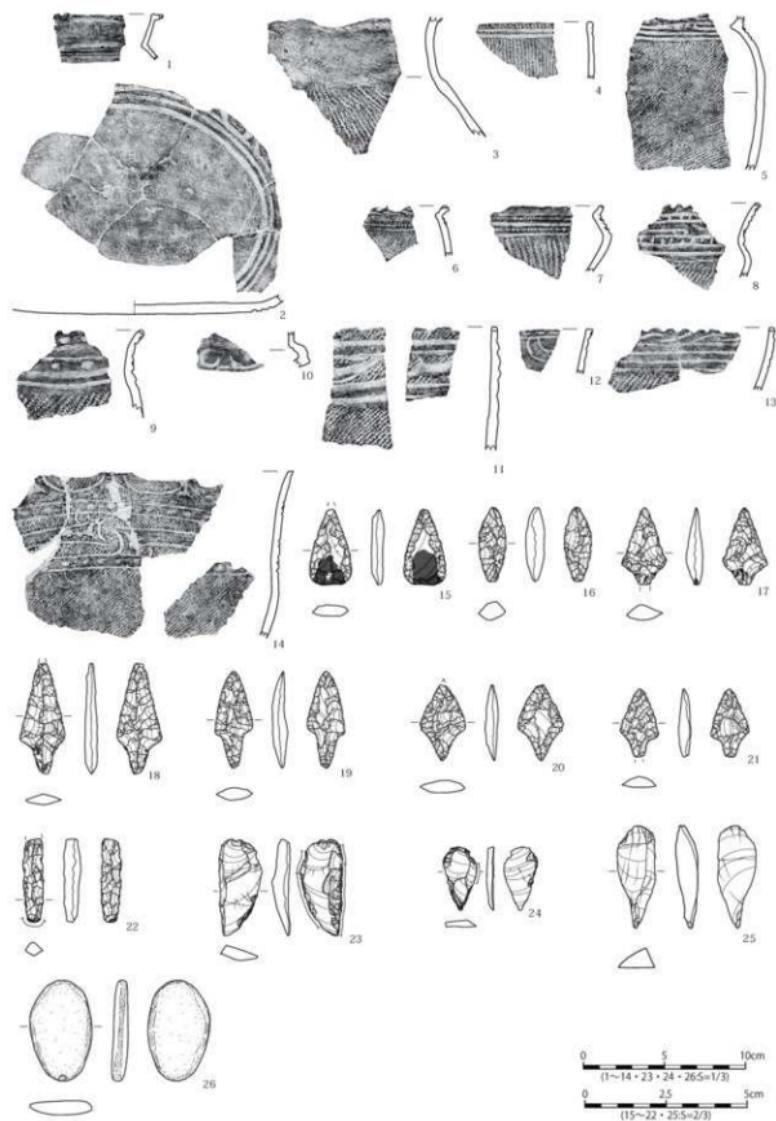
図III-2-1-195 SK51・53・56



図III-2-1-196 SK51出土遺物

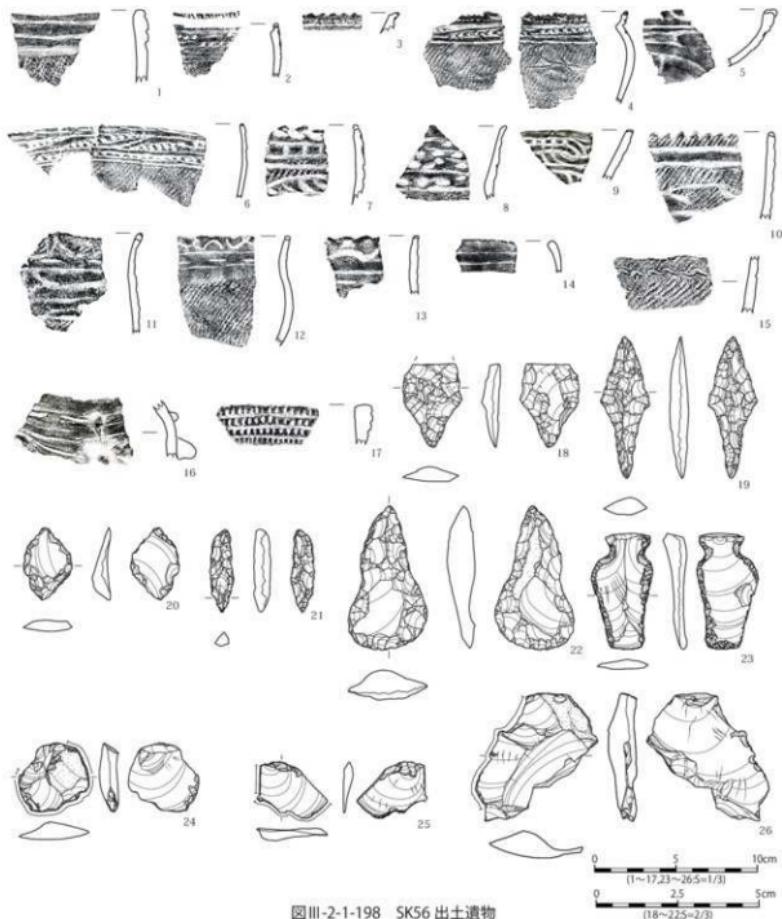
【類型】 I Aa ①【位置・確認】 グリッド X=96,Y=94 に位置し、地山直上で確認された。【重複】 SK56 と重複関係があり、SK56 よりも新しい。【規模・形状】 長径 157.2cm、短径 142.0cm、深さ 68.1cm を測る円形を呈し、長軸方位は N-79.6°-W である。床面には周溝が巡る。【堆積土】 6 層確認され、1 層はマウンドを形成する黄褐色砂質土層である。【出土遺物】 遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 7 群の鉢（1）、壺（2）、6 群の深鉢（3・4）、鉢（5～7）、浅鉢（8）、5 群の深鉢（9・10）、壺（11）、注口土器（12）、4 群の深鉢（13～18）、2c 群の深鉢（19）、2b 群の深鉢（20）、壺（21）、2a 群の鉢（22）が出土している。石器では、頁岩製の石鏃（23・24）、スクレイパー（27）、メノウ製の石鏃（25・26）が出土している。副葬品として、土製の耳飾（28）が出土している。（図III-2-1-196）。【時期】 出土土器から 7 群以降であると考えられる。（SK53）

【類型】 II Aa ①【位置・確認】 グリッド X=94,Y=94 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】 長径 174.6cm、短径 123.8cm、深さ 74.3cm を測る椭円形を呈し、長軸方位は N-57.7°-E であり、



図III-2-1-197 SK53出土遺物

底面に周溝が確認された。また、マウンドの北東端より石が検出された。【堆積土】7層確認され、1層はマウンドを形成する黄褐色粘土層である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では7群の鉢(1)、浅鉢(2)、壺(3)、6群の深鉢(4)、鉢(5~7)、5群の鉢(8~9)、注口土器(10)、4群の深鉢(11~14)、鉢(12~13)が出土している。石器では、頁岩製の石鏃(15~20)、石錐(22)、スクレイバー(23~24)、黒曜石製の石鏃(21)、メノウ製の剥片(25)、玄武岩製の磨石(26)が出土している(図III-2-1-197)。【時期】出土土器から7群以降であると考えられる。

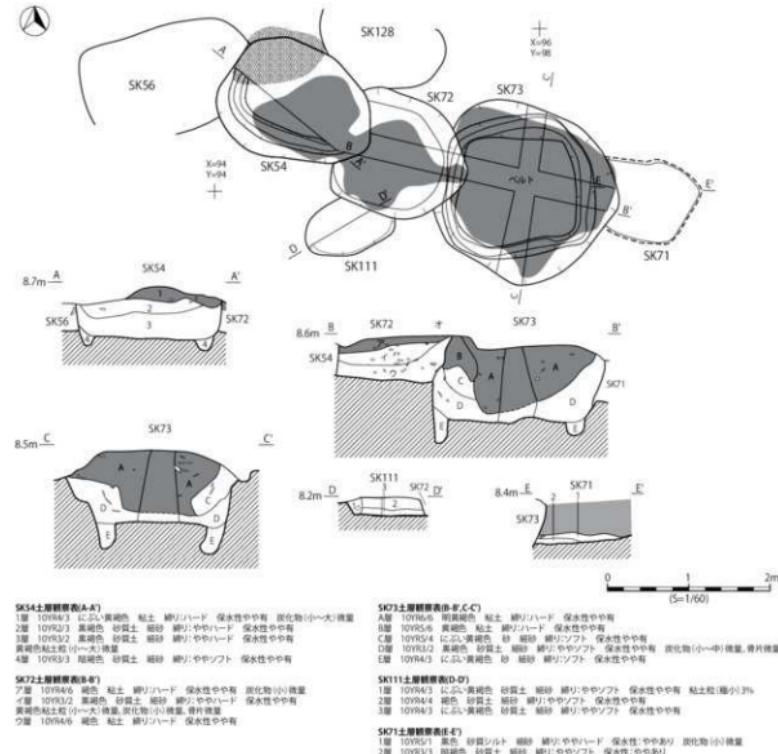


図III-2-1-198 SK56 出土遺物

(SK56)

【類型】II Ab 【位置・確認】グリッド X=96,Y=94 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK51・54 と重複関係があり、いずれの遺構よりも古い。【規模・形状】長径 238.4cm、短径 132.8cm、深さ 69.6cm を測る橢円形を呈し、長軸方位は N-71.8°-E である。【堆積土】4 層確認され、1 層はマウンドを形成する粘土層である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 6 群の深鉢（1）、鉢（2～4）、浅鉢（5）、5 群の深鉢（6・7）、鉢（8）、注口土器（9）、4 群の深鉢（10・11）、鉢（12・13）、注口土器（14）、晚期前半の深鉢（15）、後期後葉の注口土器（16）、後期中葉の深鉢（17）が出土している。石器では頁岩製の石鏃（18・19）、石錐（21）、石鎧（22）、石匙（23）、スクレイパー（24）、微細剥離のある剝片（25・26）メノウ製の石鏃（20）が出土している（図III-2-1-198）。【時期】出土土器から 6 群以降であると考えられる。

第 54・71・72・73・111 号土坑 (SK54 (墓)・71 (墓)・72 (墓)・73 (墓)・111, 図III-2-1-199)



図III-2-1-199 SK54・71・72・73・111



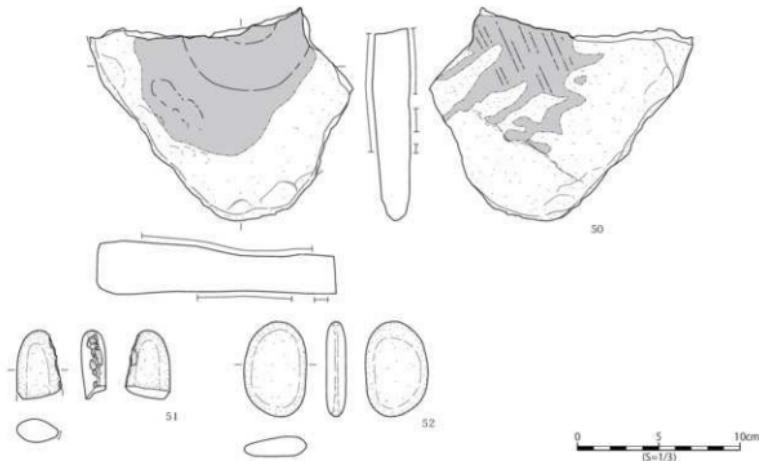
图III-2-1-200 SK54 出土遗物（1）



図III-2-1-201 SK54 出土遺物 (2)

(SK54)

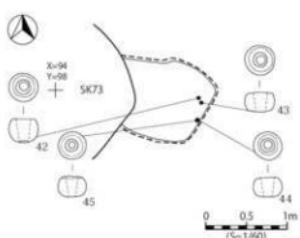
【類型】 II Aa ① 【位置・確認】 グリッド X=96,Y=96 に位置し、地山直上で確認された。【重複】 SK56・72・128 と重複関係があり、いずれの遺構よりも新しい。【規模・形状】 長径 155.3cm、短径 147.1cm、深さ 68.3cm を測る円形を呈し、長軸方位は N-60.4°-W である。【堆積土】 4 層確認され、1 層はマウンドを形成する粘土層である。【出土遺物】 遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、7 群の深鉢（1）、鉢（2・3）、皿（4）、6 群の深鉢（5～7）、鉢（8～12）、浅鉢（13・14）、5 群の深鉢（15）、鉢（16～18）、壺（19）、注口土器（20・21）、4 群の深鉢（22～26）、鉢（27）、晩期前半の深鉢（28・29）が出土している（図III-2-1-200）。石器では頁岩製の尖頭器（30・31）、石鏃（33）、石錐（34～36）、石匙（37）、石籠（38・39）、スクレイバー（40・42）、微細剥離のある剥片（41・43～47）、石核（48・49）、メノウ製の石鏃（32）、安山岩製の石皿（50）、敲石（52）、凝灰岩製の敲石（51）が出土している（図III-2-1-201・202）。【時期】 出土土器から 7 群以降であると考えられる。



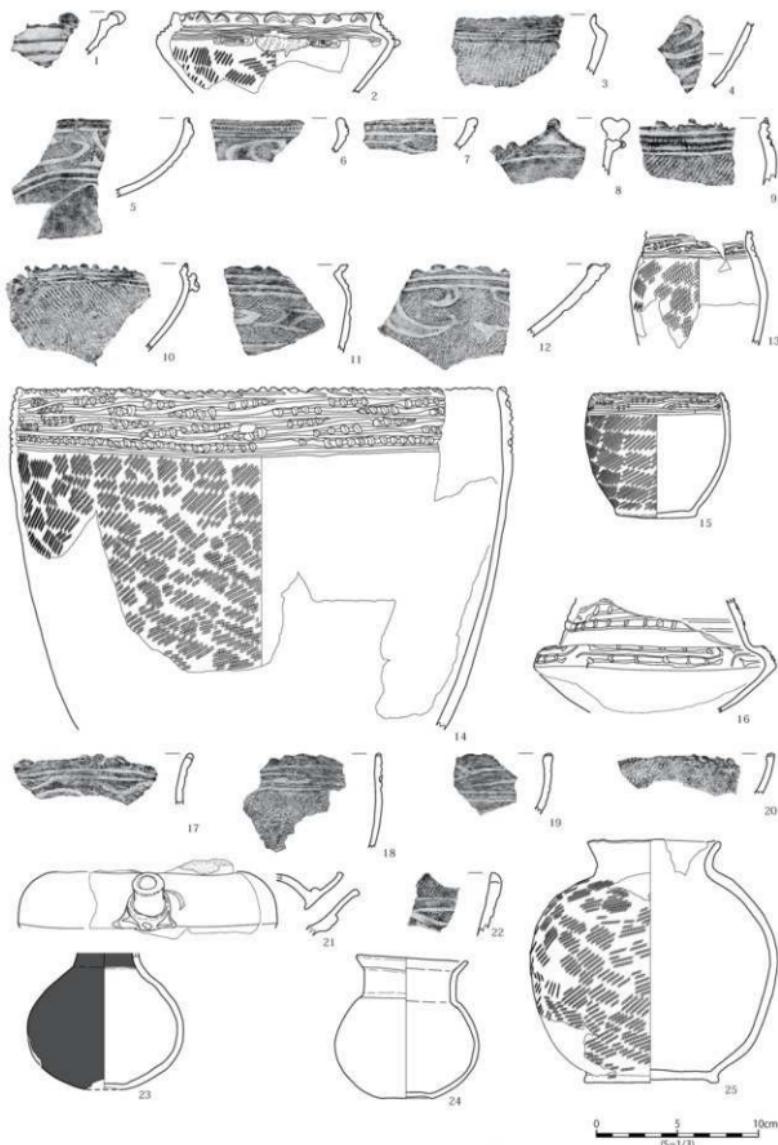
図III-2-1-202 SK54 出土遺物(3)

(SK71)

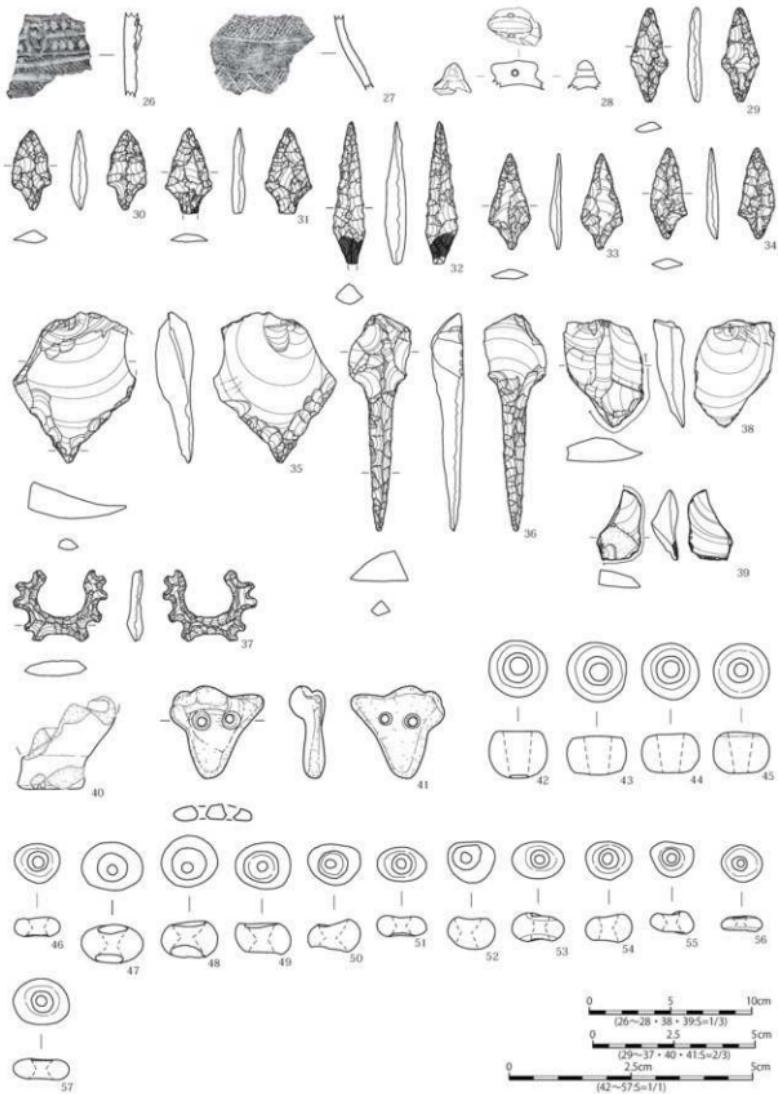
【類型】 II Bb 【位置・確認】 グリッド X=94,Y=100 に位置し、地山直上で確認された。【重複】 SK73 と重複関係にあり、SK73 よりも古い。【規模・形状】 SK73 と重複関係にあるため規模は不明であるが、残存する長径 121.5cm、短径 103cm、深さ 13.2cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-77.2°-W である。【堆積土】 2 層確認され、焼土を含む。【出土遺物】 遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 8 群の浅鉢（1）、7 群の鉢（2～4）、浅鉢（5～7）、



図III-2-1-203 SK71 遺物出土状況



図III-2-1-204 SK71出土遺物 (1)

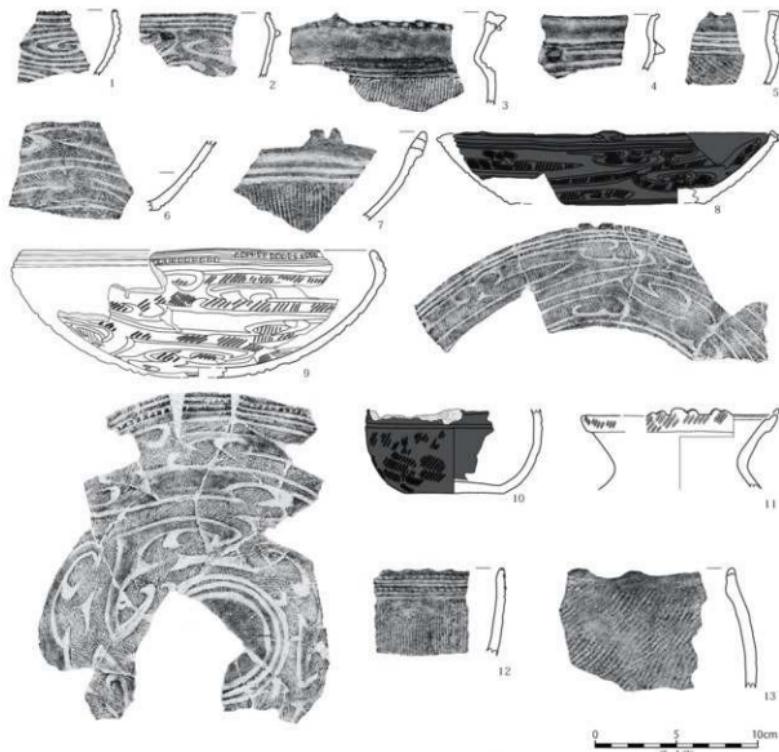


図III-2-1-205 SK71出土遺物（2）

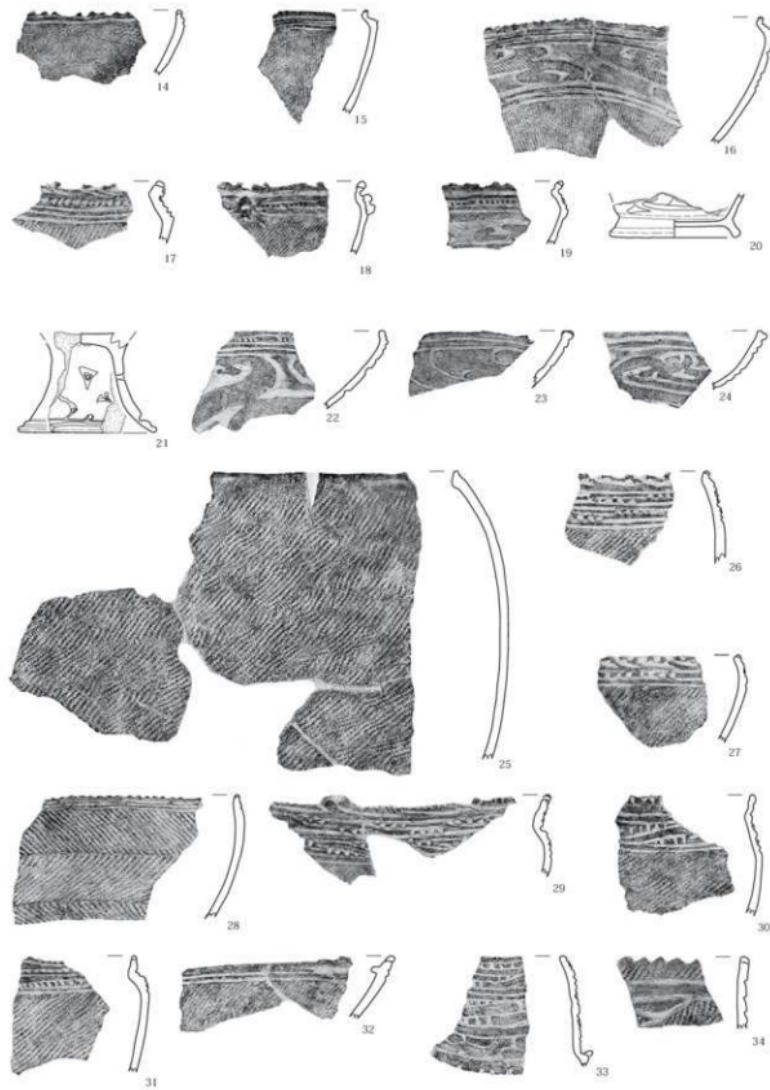
壺(8)、6群の鉢(9~11)、浅鉢(12)、5群の深鉢(14)、鉢(13・15)、注口土器(16)、4群の深鉢(17・18)、鉢(19・20)、注口土器(21)、3群の深鉢(22)、晩期の壺(23~25)、2c群の深鉢(26)、2b群の壺(27)、香炉形土器(28)が出土している。石器では、頁岩製の石鏃(29~34)、石錐(35・36)、異形石器(37)、微細剥離のある剝片(38・39)が出土している。土製品では土偶の脚部(40)が出土している。副葬品としてボタン状石製品(41)、ヒスイ質製の丸玉(42~45)、緑色凝灰岩製の丸玉(46~57)が出土している(図III-2-1-203~205)。【時期】出土土器から8群以降であると考えられる。

(SK72)

【類型】I Ab 【位置・確認】グリッド X=96,Y=98 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK54・73・111・128 と重複関係があり、SK54 よりも古く、SK73・111・128 よりも新しい。【規模・形状】長径 162.0cm、短径 145.5cm、深さ 73.9cm を測る円形を呈し、長軸方位は N 73.4°W である。【堆積土】3 層確認され、1 層はマウンドを形成する粘土層である。【出土遺物】遺物包含層からの流

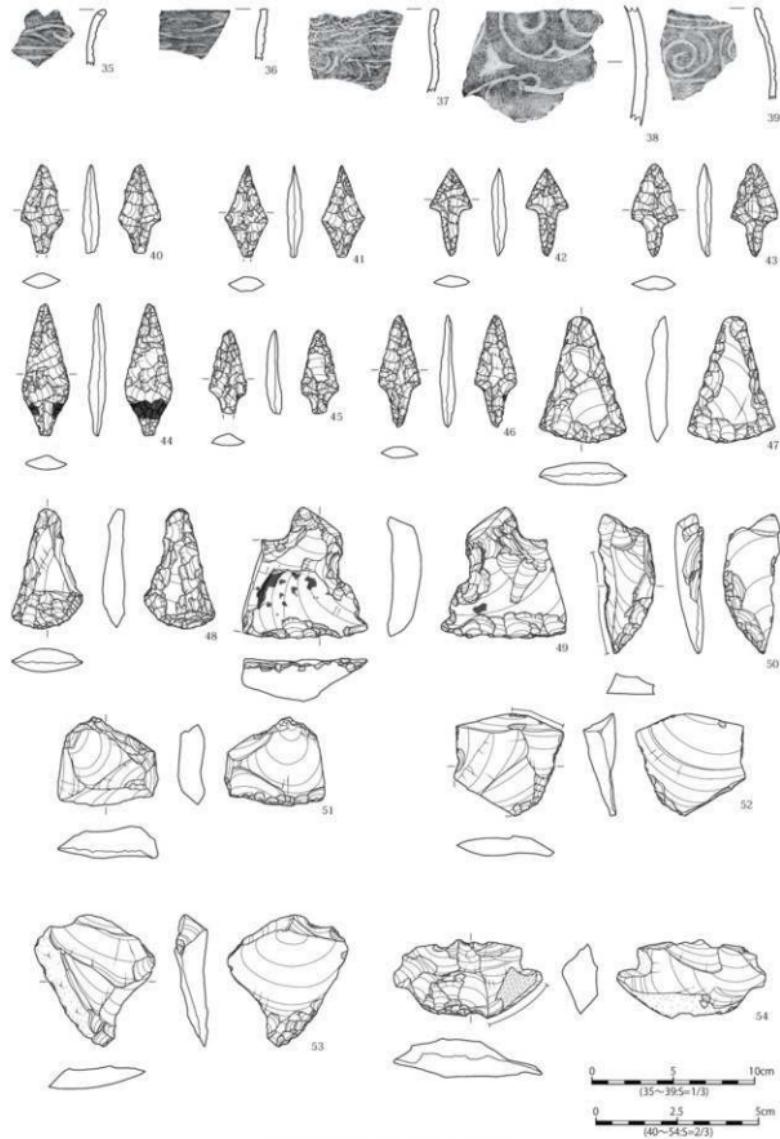


図III-2-1-206 SK72 出土遺物 (1)



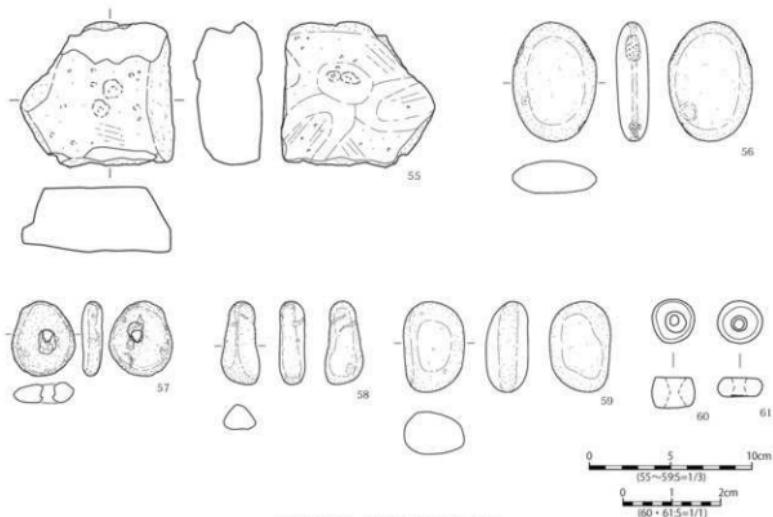
图III-2-1-207 SK72 出土遗物 (2)

0 5 10cm
(5=1/3)



図III-2-1-208 SK72出土遺物 (3)

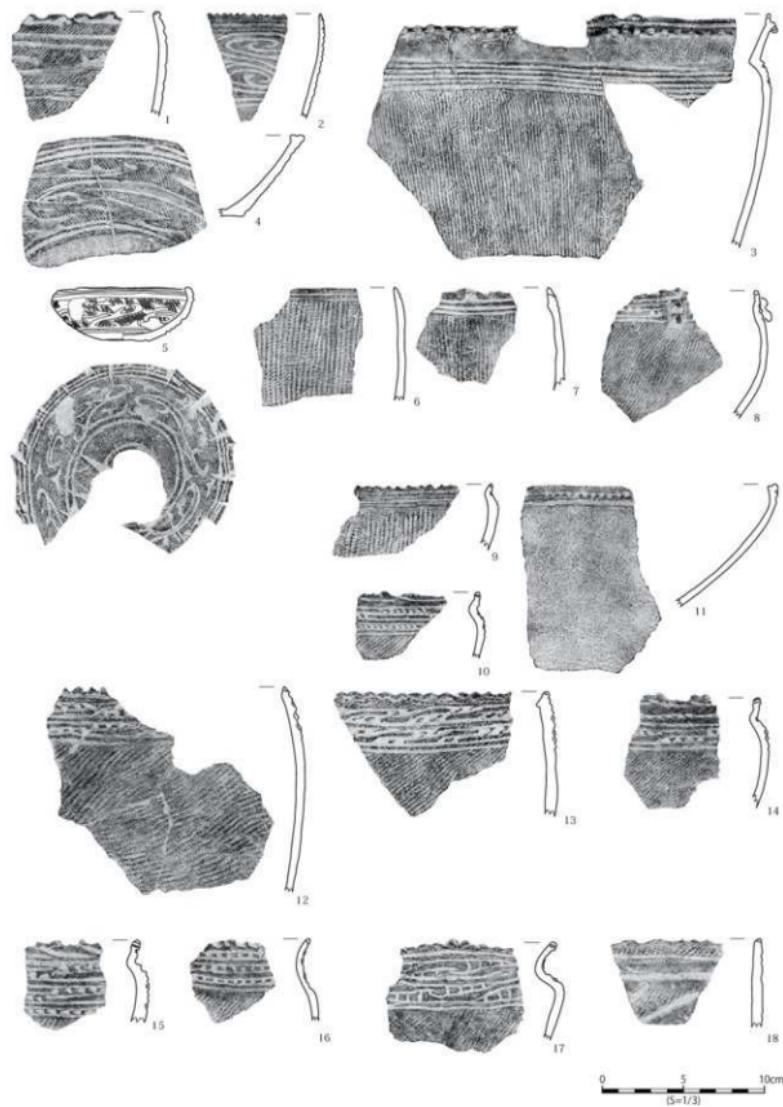
入と考えられる遺物として、土器では7群の鉢（1～5）、浅鉢（6～9）、壺（10・11）、6群の深鉢（12・13）、鉢（14～21）、浅鉢（22～24）、5群の深鉢（25・26）、鉢（27～31）、浅鉢（32）、注口土器（33）、4群の深鉢（34～37）、壺（38）、注口土器（39）が出土している。石器では頁岩製の石鏃（40～45）、石鏃（47・48）、石匙（49）、スクレイパー（50・52）、微細剥離のある剝片（53・54）、メノウ製の石鏃（46）、スクレイパー（51）、砂岩製の台石（55）、安山岩製の敲石（56）、凝灰岩製の有孔石（57）、搬入礫（58・59）が出土している。副葬品として緑色凝灰岩製の丸玉（60・61）が出土している（図III-2-1-206～209）。【時期】出土土器から7群以降であると考えられる。



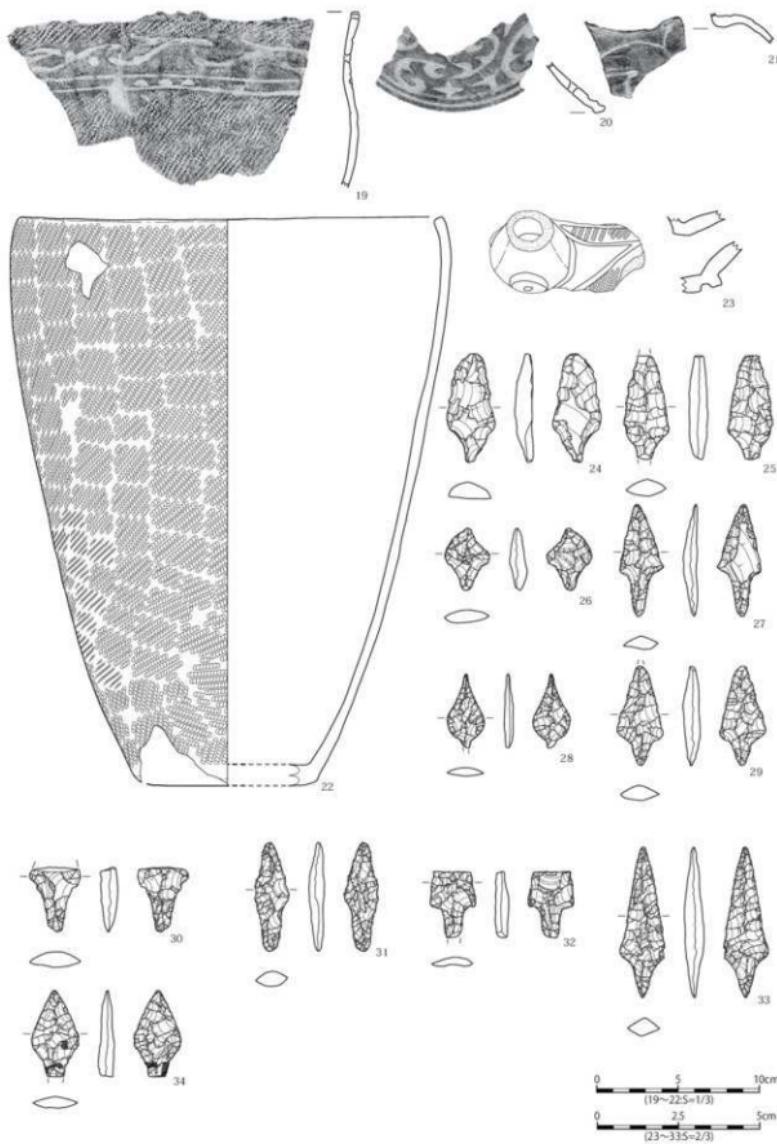
図III-1-209 SK72出土遺物 (4)

(SK73)

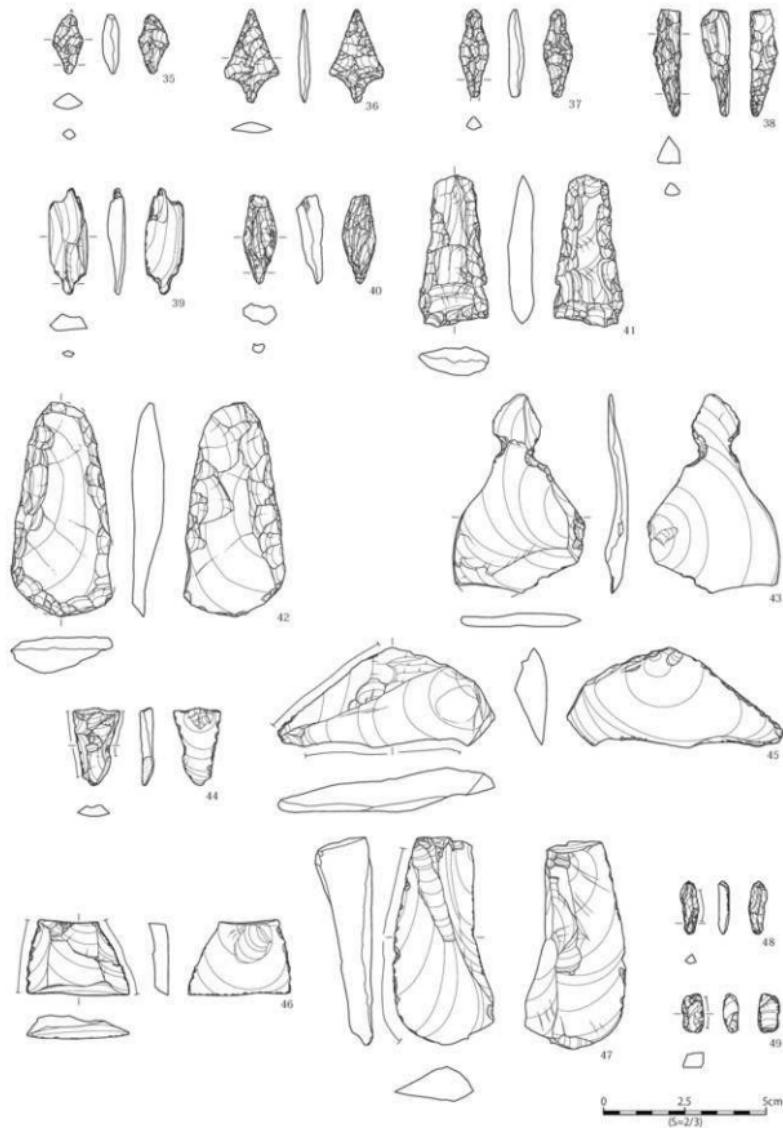
【類型】 I Aa ①【位置・確認】 グリッド X=96,Y=100 に位置し、地山直上で確認された。【重複】 SK71・72 と重複関係があり、SK72 よりも古く、SK71 よりも新しい。【規模・形状】 長径 210.6cm、短径 201.8cm、深さ 129.5cm を測る円形を呈し、底面の壁際に周溝が巡る。長軸方位は N-12.5°-E である。【堆積土】 5 層確認され、上層はマウンドを形成する粘土層である。【出土遺物】 遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では7群の鉢（1～3）、浅鉢（4・5）、6群の深鉢（6・7）、鉢（8～10）、浅鉢（11）、5群の深鉢（12・13）、鉢（14～17）、4群の深鉢（18・19）、台付鉢（20）、注口土器（21）、晩期前半の深鉢（22）、2a群の注口土器（23）が出土している。石器では、頁岩製の石鏃（24～34）、石錐（37・38）、石鏃（41）、石匙（43）、微細剥離のある剝片（44～47）、敲石（60）、メノウ製の石鏃（35・36）、石錐（39）、微細剥離のある剝片（48～55）、水晶製の石錐（40）、黒曜石製の微細剥離のある剝片（56）、粘板岩製の石皿（57）、玄武岩製の石鏃（42）、敲石（58）、火碎岩製の敲石（59）、砂岩製の砥石（61）、凝灰岩製の砥石（62）、安



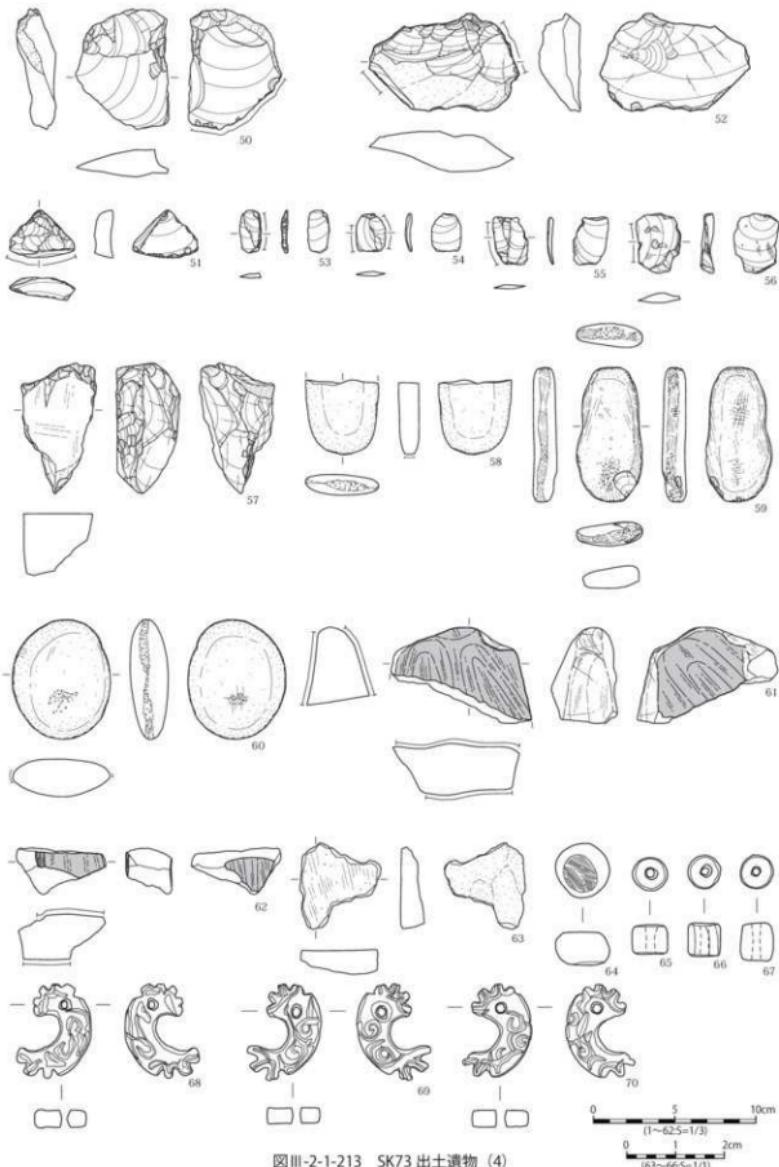
図III-2-1-210 SK73 出土遺物 (1)



图III-2-1-211 SK73出土遗物(2)



図III-2-1-212 SK73 出土遺物 (3)



图III-2-1-213 SK73 出土遗物 (4)

山岩製の砥石（63）、丸玉未成品（64）が出土している。副葬品として土製の丸玉（65～67）、土製の勾玉（68～70）が出土している（図III-2-1-210～213）。【時期】出土土器から7群以降であると考えられる。

（SK111）

【類型】II Bb【位置・確認】グリッド X=94,Y=96 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK72 と重複関係がある。

あり、SK72 よりも古い。【規模・形状】長径 90.1cm、短径 70.5cm、深さ 22.9cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-59.9°-E である。【堆積土】3 層確認され、地山直上層由来の層である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、5 群の鉢（1）、4 群の深鉢（2）、後期の深鉢（3）、頁岩製の石鎌（4）が出土している（図III-2-1-210）。【時期】出土土器から4群以降であると考えられる。

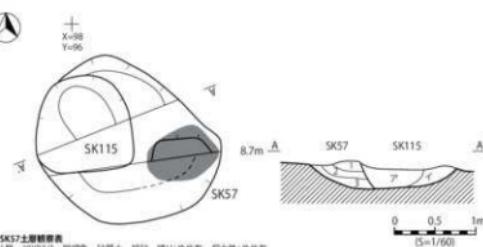


図III-2-1-214 SK111 出土遺物

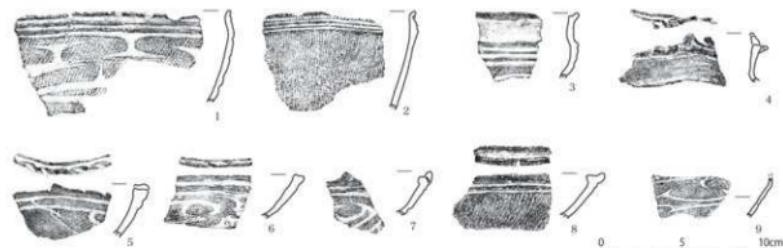
第 57-115 号土坑 (SK57 (墓)・115 (墓), 図III-2-1-215)

(SK57)

【類型】II Bb【位置・確認】グリッド X=98,Y=98 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK115 と重複関係があり、SK115 よりも古い。【規模・形状】長径 123.1cm、短径 88.3cm、深さ 59.0cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-81.7°-E である。

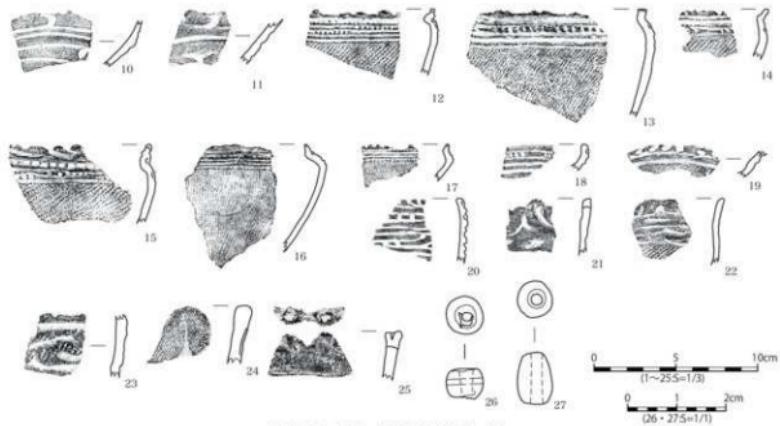


図III-2-1-215 SK57-115



図III-2-1-216 SK57 出土遺物 (1)

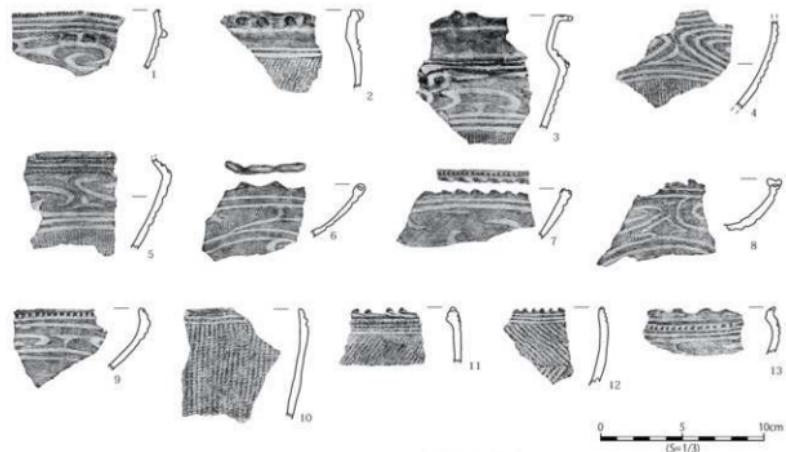
る。【堆積土】3層確認され、遺物包含層からの流入土である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では7群の鉢（1～4）、浅鉢（5～11）、6群の鉢（12～17）、浅鉢（18・19）、5群の鉢（20）、4群の深鉢（21・22）、鉢（23）、3群の深鉢（24）、2c群の深鉢（25）が出土している。副葬品として土製の丸玉（26）及び管玉（27）が出土している（図III-2-1-216・217）。【時期】出土土器から7群以降であると考えられる。



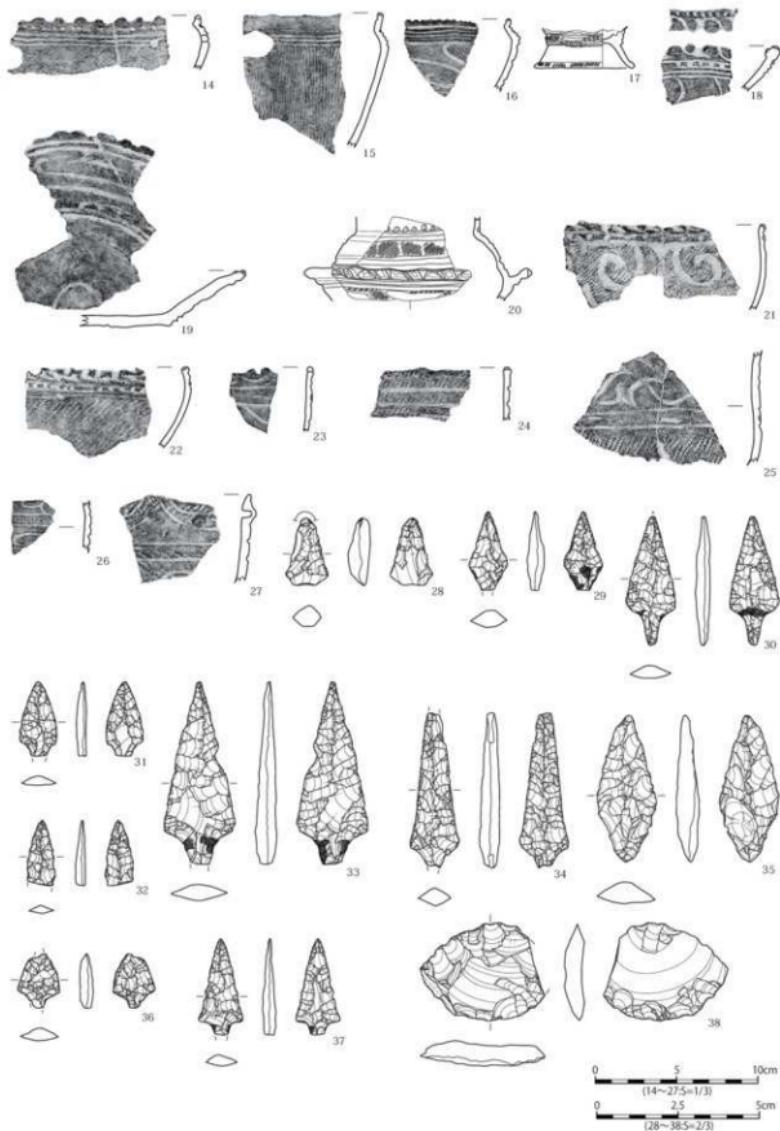
図III-2-1-217 SK57 出土遺物（2）

(SK115)

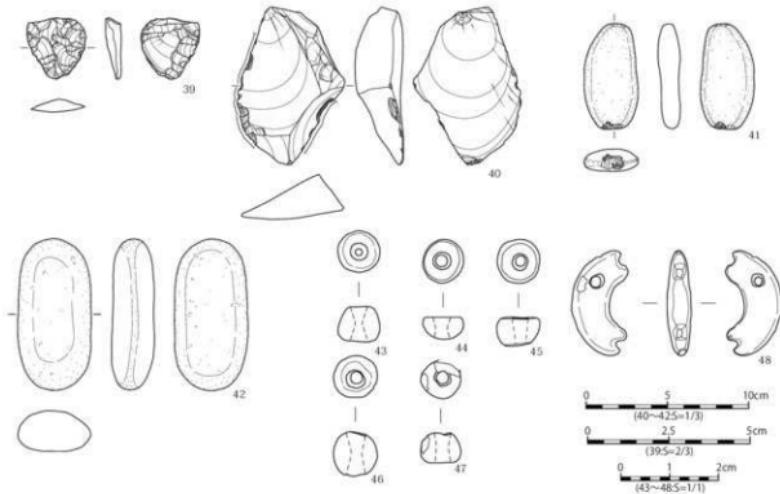
【類型】II Bb 【位置・確認】グリッド X=98,Y=98 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK57



図III-2-1-218 SK115 出土遺物（1）



図III-2-1-219 SK115出土遺物 (2)

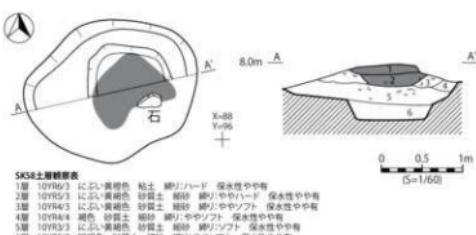


図III-2-1-220 SK115出土遺物 (3)

と重複関係があり、SK57よりも新しい。【規模・形状】長径 181.5cm、短径 154.1cm、深さ 43.4cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-69.8°-E である。【堆積土】2 層確認され、遺物包含層からの流入土である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 7 群の鉢 (1~5)、浅鉢 (6~9)、6 群の深鉢 (10~11)、鉢 (12~17)、浅鉢 (18~19)、注口土器 (20)、5 群の鉢 (21~22)、4 群の深鉢 (23~25)、2c 群の (26)、9a 群の深鉢 (27) が出土している。石器では頁岩製の石鏃 (28~35)、スクレイパー (38・39)、メノウ製の石鏃 (36・37)、凝灰岩製の微細剥離のある剥片 (40)、安山岩製の敲石 (41)、頁岩製の撇入疊 (42) が出土している。副葬品としてヒスイ質製の丸玉 (43)、緑色凝灰岩製の丸玉 (44)、オンファス輝石製の丸玉 (45)、土製丸玉 (46・47)、土製勾玉 (48) が出土している (図III-2-1-218~220)。【時期】出土土器から 7 群以降であると考えられる。

第 58 号土坑 (SK58 (墓))、図III-2-1-221)

【類型】II Ab 【位置・確認】グリッド X=90, Y=96 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 217.7cm、短径 174.1cm、深さ 63.0cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-78.5°-E である。マウンド中央付近に石



図III-2-1-221 SK58



図III-2-1-222 SK58 出土遺物

が配置されていた。【堆積土】6層確認され、1層はマウンドを形成する粘土層である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では7群の鉢（1）、6群の鉢（2）、浅鉢（3）、壺（4）、5群の鉢（5～7）、4群の深鉢（8～12）、鉢（13・14）、注口土器（15）、晩期前半の深鉢（16～18）、2b群の深鉢（19）、香炉形土器（20）が出土している。石器では頁岩製の石鏃（21・22）、石錐（23）、微細刺離のある剝片（24・25）、敲石（26）が出土している（図III-2-1-222）。【時期】出土土器から晩期7群以降であると考えられる。

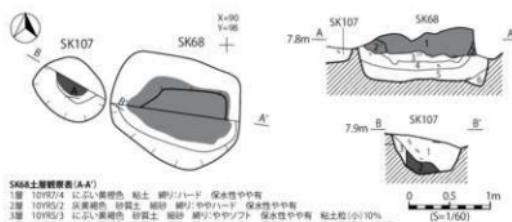
第68・107号土坑（SK68（墓）・107（墓）, 図III-2-1-223）

（SK68）

【類型】II Ab 【位置・確認】グリッド X=90, Y=98 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。

【規模・形状】長径 156.7cm、短径 131.0cm、深さ 72.0cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-76.4°-W である。【堆積土】6 層確認され、上層はマウンドを形成する粘土層である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 5 群の鉢（1）、4 群の深鉢（2～5）、浅鉢（6）、晚期の香炉形土器（7）

後期末葉の深鉢（8）、後期後葉の深鉢（9）が出土している。石器では頁岩製の石錐（11）、石匙（13）、スクレイバー（14～16）、メノウ製の石鏃未成品（10）、石錐（12）が出土している（図III-1-224）。【時期】出土土器から 5 群以降であると考えられる。



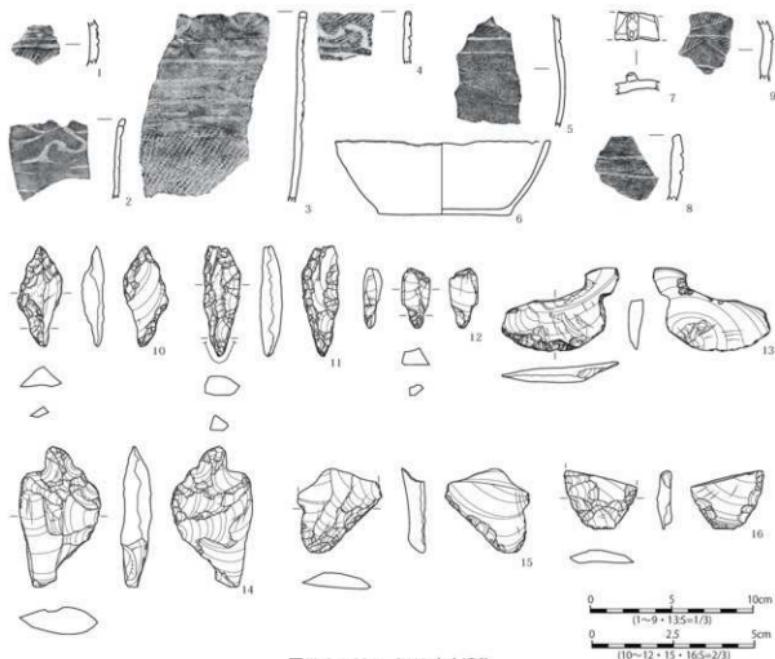
SK68上部断面図(A-A')

- 1層 10YR7/4 にじく黄褐色 砂質 圧りハード 保水性やや有
- 2層 10YR5/2 黄褐色 砂質 圧沙 圧りハード 保水性やや有
- 3層 10YR5/3 にじく黄褐色 砂質 圧沙 圧りややソフト 保水性やや有 粘土粒(小)10%
- 4層 10YR5/2 黄褐色 砂質 圧沙 圧りややソフト 保水性やや有 粘土粒(細)~(小)7%
- 5層 10YR5/2 黄褐色 砂質 圧沙 圧りややソフト 保水性やや有 粘土粒(細)~(小)3%
- 6層 10YR4/2 黄褐色 砂 軽砂 圧リソフト 保水性やや有

SK68下部断面図(B-B')

- 1層 10YR5/3 黄褐色 砂質 圧リややソフト 保水性やや有
- 2層 2.5YR4/4 にじく黄褐色 砂質 圧沙 圧リややソフト 保水性やや有 ベンガラ層
- 3層 10YR5/4 にじく黄褐色 砂質 圧沙 圧リソフト 保水性やや有

図III-1-223 SK68-107



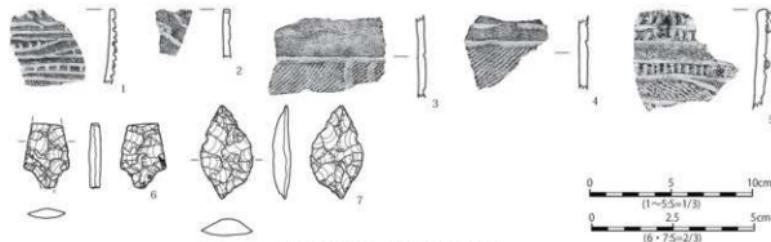
図III-2-1-224 SK68 出土遺物

(SK107)

【類型】II Bb【位置・確認】グリッド X=90,Y=98 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・

形状】長径 90.0cm、短径 71.6cm、深さ 48.2cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-55.8°-W である。

【堆積土】3 層確認され、底面よりベンガラが出土している。【出土遺物】遺物包含層からの流入として、土器では 5 群の深鉢（1）、4 群の深鉢（2～4）、2c 群の深鉢（5）が出土している。石器では頁岩製の石鐵（6）、メノウ製の石鐵（7）が出土している（図III-2-1-225）。【時期】出土土器から 5 群以降であると考えられる。

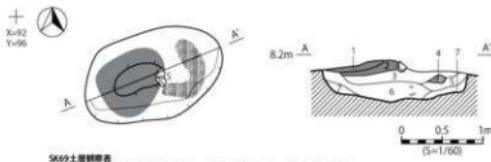


図III-2-1-225 SK107 出土遺物

第 69 号土坑

(SK69 (墓)、図III-2-1-226)

【類型】II Ab 【位置・確認】グリッド X=92.9 Y=98 に位置し、地山直上で確認された。【複数】なし。【規模・形状】長径 179.3cm、短径 110.9cm、深さ 51.5cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-66.6°-E である。【堆積土】7 層確認され、上層はマウンドを形成する粘



SK69 土壙構造
1: 10/94/3 に深い黒褐色、砂質土、細砂、網状やハード 保水性やや有
2層: 10/93/6 に深い黒褐色、粘土、細砂、網状やソフト 保水性やや有 剥離
3層: 10/94/3 に深い黒褐色、砂質土、細砂、網状やソフト 保水性やや有
4層: 10/94/2 に深い黒褐色、砂質土、細砂、網状やソフト 保水性やや有
5層: 10/92/2 黒褐色、砂質土、細砂、網状やソフト 保水性やや有 片剥離、炭化物(?)有
6層: 10/92/2 黒褐色、砂質土、細砂、網状やソフト 保水性やや有 片剥離、炭化物(?)有
7層: 10/95/4 に深い黒褐色、砂、細砂、網状ソフト 保水性やや有

図III-2-1-226 SK69

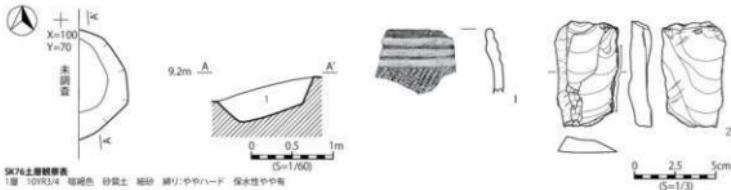
土層であり、マウンド上に石が配置されていた。中層に焼土を含む。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 7 群の鉢（1）、浅鉢（2）、6 群の鉢（3）、5 群の深鉢（4・5）、4 群の深鉢（6）、2c 群の深鉢（7）、2a 群の壺（8）が出土している。石器では頁岩製の石鐵（9）、スクレイバー（10）が出土している（図III-2-1-227）。【時期】出土土器から 7 群以降であると考えられる。



図III-2-1-227 SK69 出土遺物

第76号土坑 (SK76, 図III-2-1-228)

【類型】II Bb 【位置・確認】グリッド X=100,Y=72 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 134.5cm、短径 118.3cm、深さ 61.3cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-0.2°-E である。【堆積土】1 層確認され、暗褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 7 群の深鉢 (1)、石器では頁岩製の微細剥離のある剥片 (2) が出土している (図III-2-1-229)。【時期】出土土器から 7 群以降であると考えられる。

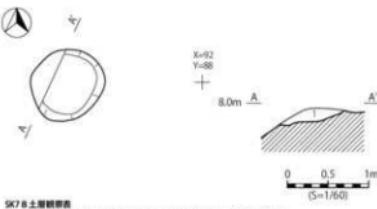


図III-2-1-228 SK76

図III-2-1-229 SK76 出土遺物

第78号土坑 (SK78, 図III-2-1-230)

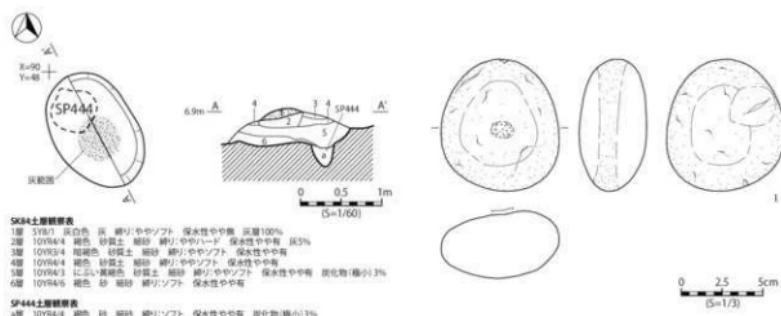
【類型】II Bb 【位置・確認】グリッド X=90,Y=88 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 93.9cm、短径 83.5cm、深さ 21.2cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-33.9°-E である。【堆積土】1 層確認され、黒褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】特になし。【時期】時期を特定できる遺物が出土していないため、不明である。



図III-2-1-230 SK78

第84号土坑 (SK84, 図III-2-1-231)

【類型】II Bb 【位置・確認】グリッド X=90,Y=50 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SP444



図III-2-1-231 SK84·SP444

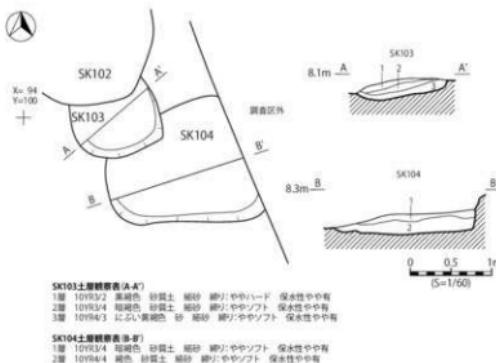
図III-2-1-232 SK84 出土遺物

と重複関係にあり、SP444よりも新しい。【規模・形状】長径 151.6cm、短径 101.9cm、深さ 71.8cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-31.1°-W である。【堆積土】6 層確認され、上層には灰層が検出された。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、頁岩製の敲石（1）が出土している（図III-2-1-232）。【時期】時期を特定できる遺物が出土していないため、不明である。

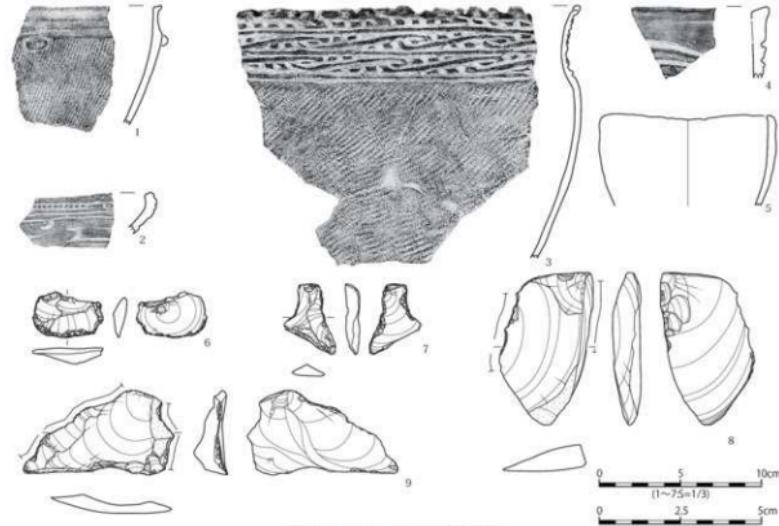
第 103・104 号土坑 (SK103・ 104, 図III-2-1-233) (SK103)

【類型】不明【位置・確認】グリッド X=96,Y=102 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK102・104 と重複関係があり、SK102 よりも古く、SK104 よりも新しい。【規模・形状】残存部分が少ないため正確な規模は不明であるが、残存長 107.4cm、深さ 26.9cm を測り、長軸方位は N-66.7°-E である。【堆積土】3 層確認され、遺物包含層から

の流入土である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として土器では 7 群の半精製



図III-2-1-233 SK103・104

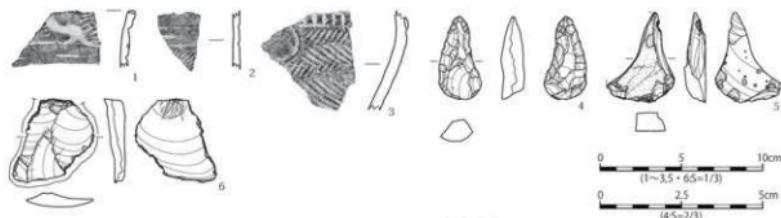


図III-2-1-234 SK103 出土遺物

鉢（1）、精製浅鉢（2）、5群の精製鉢（3）、2a群の精製深鉢（4）、後期の無文の鉢（5）が出土している。石器では頁岩製のスクレイパー（6・7）、微細剥離のある剥片（8・9）が出土している（図III-2-1-234）。【時期】出土土器から7群以降であると考えられる。

（SK104）

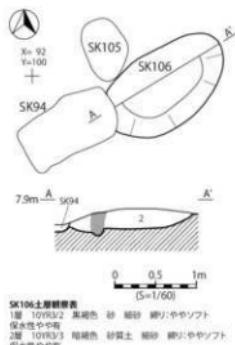
【類型】II Bb【位置・確認】グリッド X=94,Y=104 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK103 と重複関係があり、SK103 よりも古い。【規模・形状】調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、検出長 172.1cm、深さ 31.1cm を測り、長軸方位は N-72.3°-E である。【堆積土】2 層確認され、遺物包含層からの流入土である。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 4 群の精製深鉢（1・2）、2a 群の鉢（3）が出土している。石器では頁岩製のスクレイパー（5）、微細剥離のある剥片（6）メノウ製の石礫（4）が出土している（図III-2-1-235）。【時期】出土土器から4群以降であると考えられる。



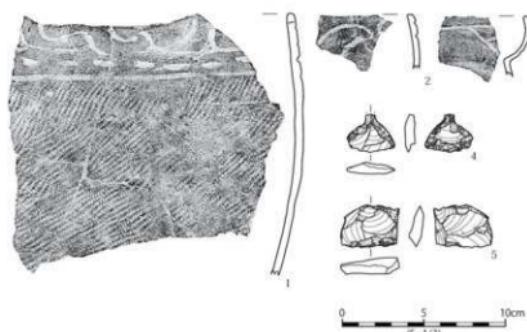
図III-2-1-235 SK104 出土遺物

第 106 号土坑 (SK106, 図III-2-1-236)

【類型】II Bb【位置・確認】グリッド X=92,Y=102 に位置し、地山直上で確認された。【重複】重複 SK94 と重複関係にあり、SK94 よりも古い。【規模・形状】調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、検出された長さ 165.2cm、確認深さ 33.2cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-51.1°-E である。【堆積土】2 層確認され、遺物包含層からの流入土である。【出土遺物】遺物包含



図III-2-1-236 SK106



図III-2-1-237 SK106 出土遺物

層からの流入と考えられる遺物として4群の精製深鉢(1)、注口土器(2・3)、頁岩製の石匙(4)、スクレイパー(5)が出土している。(図III-2-1-237)。【時期】出土土器から4群以降であると考えられる。

第116号土坑(SK116, 図III-2-1-238)

【類型】不明【位置・確認】

グリッドX=100,Y=92に

位置し、地山直上で確認

された。【重複】なし。【規

模・形状】調査区外へと

延びているため正確な規

模は不明であるが、検出

された長さ67.5cm、確

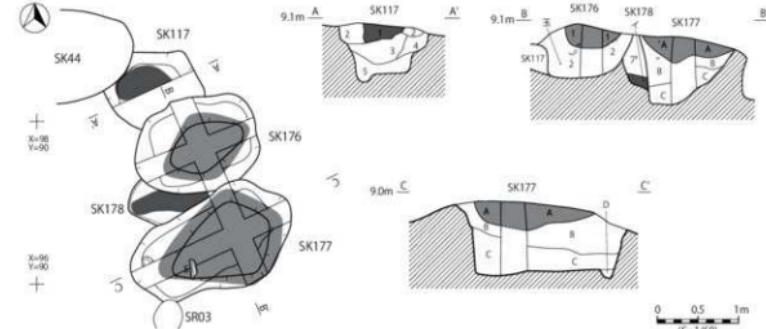
認深さ68.3cmを測る楕

円形を呈し、長軸方位は

N-19.0°-Wである。【堆

積土】5層確認され、【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として8群の精製鉢が出土している。(図III-2-1-239)。【時期】出土土器から8群以降であると考えられる。

第117・176・177・178号土坑(SK117(墓)・176(墓)・177(墓)・178(墓), 図III-2-1-240) (SK117)



SK117土層剖面図(A-A')

- 1層 7.3m/A4 壤色 砂質土 細砂 繊り:ややソフト 保水性:やや有 ベンガラ層
- 2層 10m/A4 壤色 砂質土 細砂 繊り:ややソフト 保水性:やや有
- 3層 10.5m/A4 壤色 砂質土 細砂 繊り:ややソフト 保水性:やや有
- 4層 10.9m/A4 壤色 砂質土 細砂 繊り:ややソフト 保水性:やや有
- 5層 10m/A3 黒褐色 砂質土 細砂 繊り:ややソフト 保水性:やや有

SK117土層剖面図(B-B')

- A層 10m/B6 壤色 粘土 繊り:ハード 保水性:やや有 酸化物(?)跡
- B層 10m/B3 黑褐色 砂質土 細砂 繊り:ややハード 保水性:やや有
- C層 10m/B2 黑褐色 砂質土 細砂 繊り:ややソフト 保水性:やや有
- D層 10m/B3 にぶい黒褐色 砂質土 細砂 繊り:ソフト 保水性:やや有

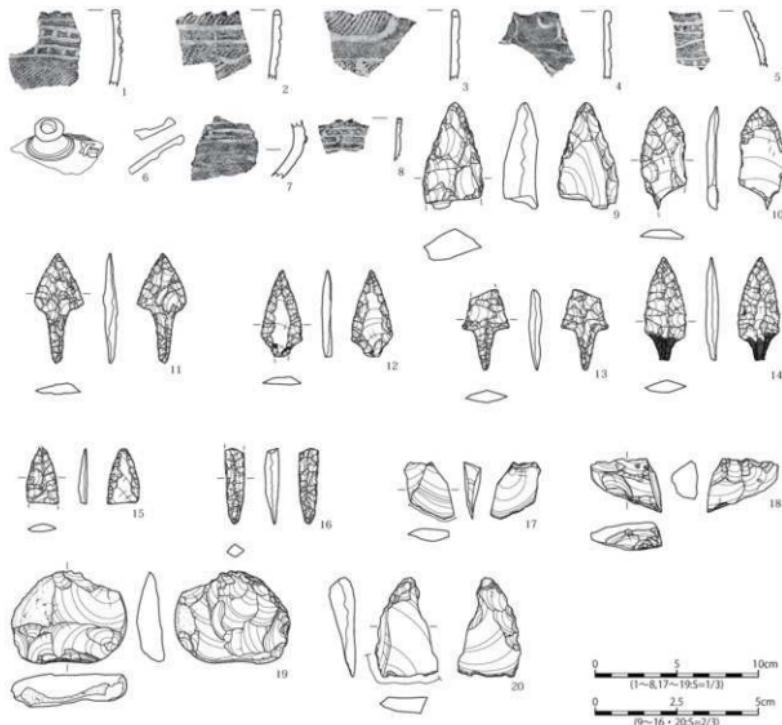
SK178土層剖面図(C-C')

- 1層 10m/C6 壤色 砂質土 細砂 繊り:ややハード 保水性:やや有
- 2層 10m/C3 黑褐色 砂質土 細砂 繊り:ソフト 保水性:やや有 ベンガラ層
- 3層 10m/C2 黑褐色 砂質土 細砂 繊り:ややソフト 保水性:やや有

図III-2-1-240 SK117・176・177・178

【類型】 II Bb 【位置・確認】 グリッド X=100,Y=92 に位置し、地山直上で確認された。【重複】 SK44・176 と重複関係があり、いずれの遺構よりも古い。【規模・形状】 正確な規模は不明であるが、長径 130.9cm、短径 65.2cm、確認面からの深さ 73.7cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-64.9°-W である。【堆積土】 5 層確認され、上層からベンガラが出土している。【出土遺物】 頁岩製の石鏃（1）が出土している（図III-2-1-241）。【時期】 時期を特定できる遺物の出土は無かったが、SK176 よりも古いことから 5 群以前であると考えられる。（SK176）

【類型】 II Ab 【位置・確認】 グリッド X=98,Y=92 に位置し、地山直上で確認された。【重複】 SK117・177・178 と重複関係にあり、SK117・178 よりも新しく、SK177 よりも古い。【規模・形状】 長径 165.2cm、短径 130.4cm、深さ 66.9cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-56.1°-E である。【堆積土】 2 層確認され、上層はマウンドを形成する粘土層であり、下層は遺物包含層の流入土である。【出

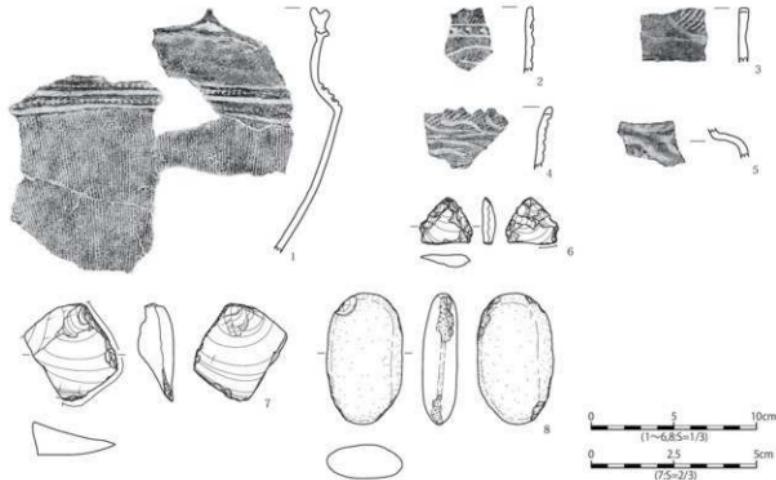


図III-2-1-242 SK176 出土遺物

土遺物 遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では5群の半精製の鉢（1）、4群の精製深鉢（2～4）、注口土器（5・6）、2b群の精製の壺か注口土器（7）、9b群の鉢（8）が出土している。石器では頁岩製の尖頭器（9）、石鏃（10～15）、石錐（16）、スクレイバー（17～19）、微細剥離のある片（20）が出土している（図III-2-1-242）。【時期】出土土器から5群以降であると考えられる。

(SK177)

【類型】 II Bb 【位置・確認】 グリッド X=98,Y=94 に位置し、地山直上で確認された。【重複】 SK176・178・SR03 と重複関係にあり、SK176・178 よりも新しく、SR03 よりも古い。【規模・形状】 長径 199.9cm、短径 133.8cm、深さ 84.2cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-72.7°-E である。【堆積土】 4 層確認され、上層はマウンドを形成する粘土層であり、下層は遺物包含層の流入土である。【出土遺物】 遺物包含層からの流入と考えられる遺物として土器では7群の半精製鉢（1）、4群の精製深鉢（2～4）、注口土器（5）が出土している。石器では、頁岩製のスクレイバー（6）、二次加工ある片（7）、安山岩製の敲石（8）が出土している（図III-2-1-243）。【時期】 出土土器から7群以降であると考えられる。



図III-2-1-243 SK177 出土遺物

(SK178)

【類型】 II Bb 【位置・確認】 グリッド X=98,Y=92 に位置し、地山直上で確認された。【重複】 SK176・177 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。【規模・形状】 残存する長径 88.1cm、短径 32.1cm、深さ 55.0cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-82.7°-E である。【堆積土】 2 層確認され、底面付近にベンガラが検出された。【出土遺物】 特になし。【時期】 時期を特定できる遺物は出土していないが、SK176 よりも古いことから5群以前であると考えられる。

第168・242号土坑(SK168)

(墓)・242(墓), 図III-2-

1-244)

(SK168)

【類型】II Bb ② 【位置・確認】グリッド X=90,Y=52 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK242 と重複関係にあり、SK242 よりも古い。【規模・形状】現存する長径 138.8cm、短径 78.2cm、深さ 133.4cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-81.8°-W である。【堆積土】4 層確認され、底面

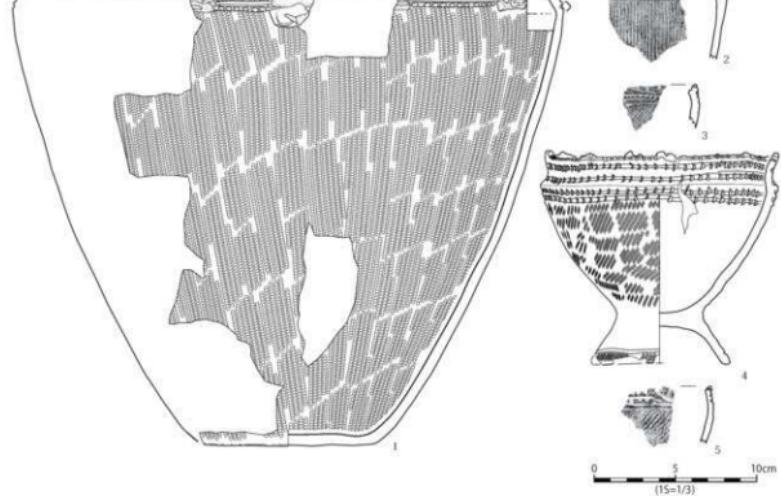
からベンガラが確認された。【出土遺物】特になし。【時期】SK242 よりも古いことから 7 群以前であると考えられる。

(SK242)

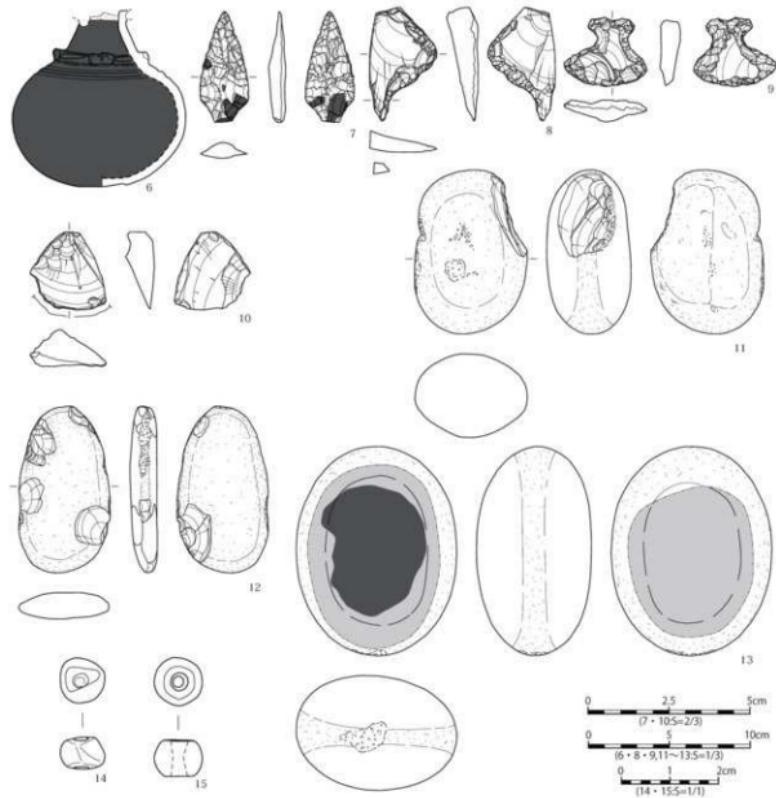
【類型】II Bb 【位置・確認】グリッド X=90,Y=52 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK168



図III-2-1-244 SK168・242

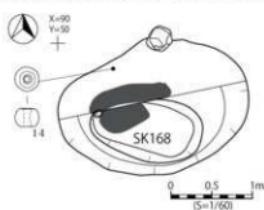


図III-2-1-245 SK242 出土遺物 (1)



図III-2-1-246 SK242 出土遺物 (2)

と重複関係にあり、SK168 より新しい。【規模・形状】長径 235.8cm、短径 169.4cm、深さ 59.9cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-82.7°-E である。【堆積土】6 層確認され、中層よりベンガラが確認された。【出土遺物】遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 7 群の鉢 (1・2)、6 群の深鉢 (3)、台付鉢 (4)、5 群の鉢 (5)、赤彩の壺 (6) が出土しており、石器ではメノウ製の石鏃 (7)、敲石 (11)、頁岩製の石錐 (8)、石匙 (9)、黒曜石製の微細剝離のある片剝 (10)、安山岩製の敲石 (12・13) が出土している。副葬品として、緑色凝灰岩製の丸玉 (14・15) が出土している。



図III-2-1-247 SK242 遺物出土状況

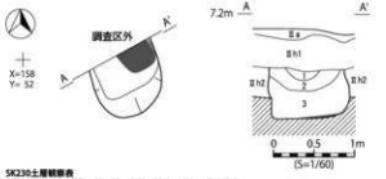
(図III-1-245～247)。【時期】出土土器から7群以降であると考えられる。

第230号土坑(SK230(墓), 図III-2-1-248)

【類型】II Bb【位置・確認】グリッド

X=158,Y=54に位置し、II h1層で確認された。

【重複】なし。【規模・形状】調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、検出された長さ85.2cm、確認深さ66.9cmを測る楕円形を呈し、長軸方位はN-18.9°-Wである。【堆積土】3層確認され、底面からベンガラが検出された。【出土遺物】特になし。【時期】時期を特定できる遺物が出土しておらず不明である。



図III-2-1-248 SK230

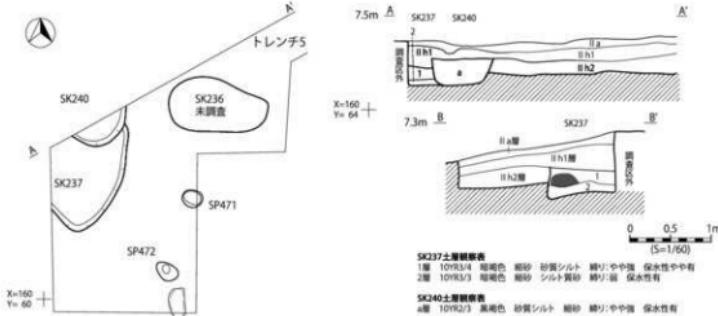
第237・240号土坑(SK237(墓)・240, 図III-2-1-249)

(SK237)

【類型】II Bb【位置・確認】グリッドX=162,Y=62に位置し、II h1層で確認された。【重複】SK240と重複関係にあり、SK240より古い。【規模・形状】調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、検出された長さ132.3cm、確認深さ21.5cmを測る楕円形を呈し、長軸方位はN-26.1°-E。【堆積土】2層確認され、上層にはベンガラが確認された。【出土遺物】特になし。【時期】時期を特定できる遺物が出土しておらず不明である。

(SK240)

【類型】II Bb【位置・確認】グリッドX=164,Y=62に位置し、II h1層で確認された。【重複】SK237と重複関係にあり、SK237より新しい。【規模・形状】調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、検出された長さ78.3cm、確認深さ31.7cmを測る楕円形を呈する。【堆積土】1層確認され、黒褐色土を主体とする自然堆積層である。【出土遺物】特になし。【時期】時期を特定できる遺物が出土しておらず不明である。



図III-2-1-249 SK237・240

第241号土坑 (SK241(墓), 図III-2-1-250)

【類型】 II Aa ① 【位置・確認】 グリッド X=162,Y=72 に位置し、II h 層で確認された。

【重複】 なし。【規模・形状】 調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、検出された長さ 67.5cm、確認深さ 86.5cm を測る楕円形を呈する。【堆積物】 7 層確認され、1・2 層はマウンドを形成する黄褐色粘土を含む層であり、土坑内に落ち込んだ状態で検出された。【出土遺物】 特になし。【時期】 時期を特定できる遺物が出土しておらず不明である。

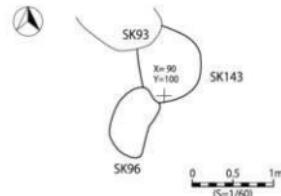
(3) 未調査

調査の際に遺構の検出のみに留めていたものに関して、その位置及び確認面の形状を述べる。また確認時に出土した遺物で遺構に伴うものに関しても掲載する。

第96・143号土坑 (SK96・143, 図III-2-1-251)

(SK96)

【位置・確認】 グリッド X=90,Y=100 に位置し、地山直上で確認された。【重複】 SK143 と重複関係にあり、SK143 よりも新しい。【規模・形状】 長径 92.9cm、短径 55.0cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-85.4°-E である。【出土遺物】 確認面より頁岩製のスクレイパー（1）が出土している（図III-2-1-252）。【時期】 時期を特定できる遺物が出土しておらず不明である。

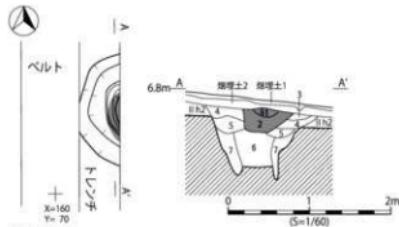


図III-2-1-251 SK96・143

(SK143)

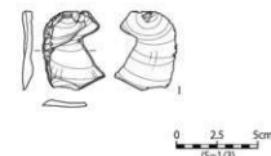
【位置・確認】 グリッド X=92,Y=102 に位置し、地山直上確認された。

【重複】 SK93・96 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。【規模・形状】 長径 98.1cm、短径 87.8cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-74.1°-E である。【出土遺物】 確認面より頁岩製の石鏃が出土している（図III-2-1-253）。【時期】 時期を特定できる遺物が出土しておらず不明である。



SK241土壟断面図
1層 黄褐色 砂質土 細～中砂 硬りソフード 保水性やや有 黄褐色粘土粒(細小～中)
10% 鉄化合物(細小～中)2%
2層 10YR3/4 棕褐色 砂質土 細～中砂 硬りソフード 保水性やや有 黄褐色粘土粒(細小～中)
15% 鉄化合物(細小)1%
3層 10YR3/4 棕褐色 砂質土 細～中砂 硬りソフード 保水性やや有 黄褐色粘土粒(細小～中)
30% 鉄化合物(細小)3%
4層 10YR2/3 黄褐色 砂質土 細～中砂 硬りややソフト 保水性やや有 黄褐色粘土粒
5層 10YR2/4 棕褐色 砂質土 細～中砂 硬りややソフト 保水性やや有 黄褐色粘土粒
(細小～中)2% 鉄化合物(細小)1%
6層 10YR4/4 棕色 砂 細～中砂 硬りソフート 保水性やや有 黄褐色粘土粒(細小～中)3%
鐵化合物(細小)2%
7層 10YR4/3 に近い黄褐色 砂 細～中砂 硬りややソフト 保水性やや有 黄褐色粘土粒(細小)3%

図III-2-1-250 SK241



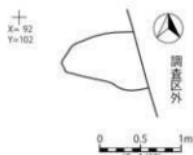
図III-2-1-252 SK96出土遺物



図III-2-1-253 SK143出土遺物

第101号土坑 (SK101, 図III-2-1-254)

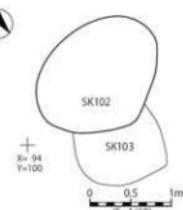
【位置・確認】グリッドX=92,Y=104に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 92.9cm、短径 55.0cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-85.4°-E である。



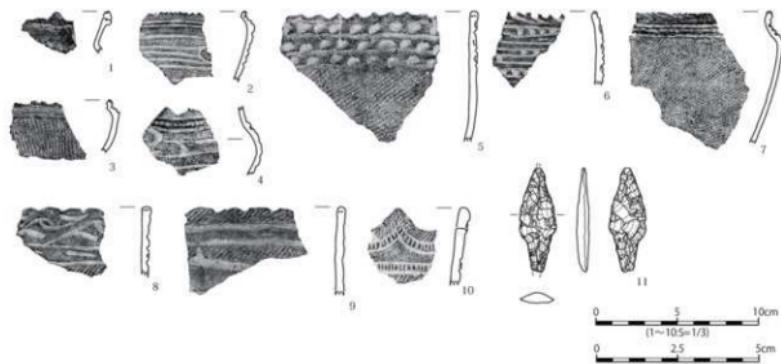
図III-2-1-254 SK101

第102号土坑 (SK102, 図III-2-1-255)

【位置・確認】グリッド X=96,Y=102 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK103 と重複関係にあり、SK103 よりも新しい。【規模・形状】長径 168.3cm、短径 67.1cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-37.4°-E である。【出土遺物】遺構確認面から土器では、7 群の半精製鉢（1）、6 群の精製鉢（2）、半精製鉢（3）、精製壺（4）、5 群の精製深鉢（6）、半精製鉢（7）、4 群の精製深鉢（8・9）、9b 群の深鉢（5）、2c 群の精製深鉢（10）が出土しており、石器では頁岩製の基部にアスファルトの付着した石鏃（11）が出土している（図III-2-1-256）。【時期】出土遺物から 7 群以降であると考えられる。



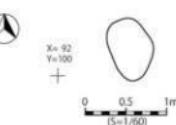
図III-2-1-255 SK102



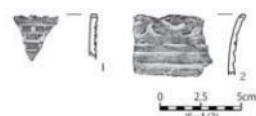
図III-2-1-256 SK102 出土遺物

第105号土坑 (SK105, 図III-2-1-257)

【位置・確認】グリッド X=94,Y=102 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 77.6cm、短径 54.5cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-8.1°-W である。【出土遺物】遺構確認面から 5 群の精製深鉢（1）、4 群の精製深鉢（2）が出土している（図III-2-1-258）。【時期】出土遺物から 5 群以降であると考えられる。



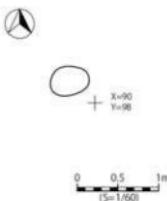
図III-2-1-257 SK105



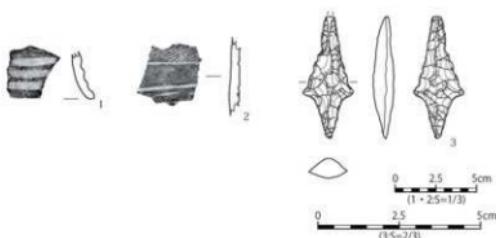
図III-2-1-258 SK105 出土遺物

第108号土坑(SK108、図III-2-1-259)

【位置・確認】グリッド X=92,Y=98 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 48.9cm、短径 36.4cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-69.3°-E である。【出土遺物】遺構確認面から土器では、8 群の台付浅鉢(1)、4 群の精製深鉢(2)が出土しており、石器では頁岩製の石鏃が出土している(図III-2-1-260)。【時期】出土遺物から 8 群以降であると考えられる。



図III-2-1-259 SK108



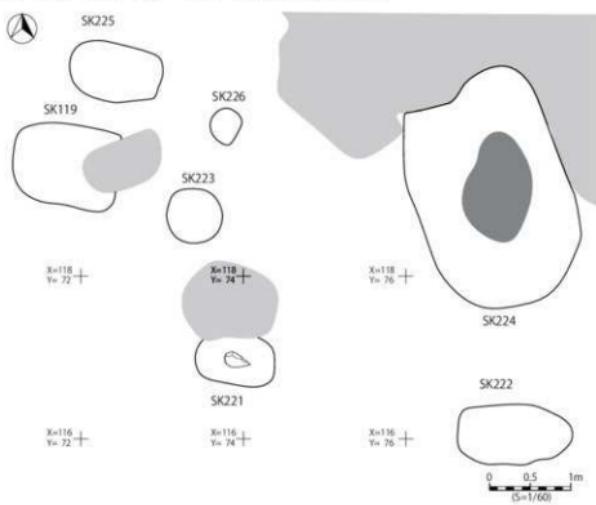
図III-2-1-260 SK108出土遺物

第119・221・222・223・224・225・226号土坑

(SK119・221(墓)・222・223・224(墓)・225・226、図III-2-1-261)

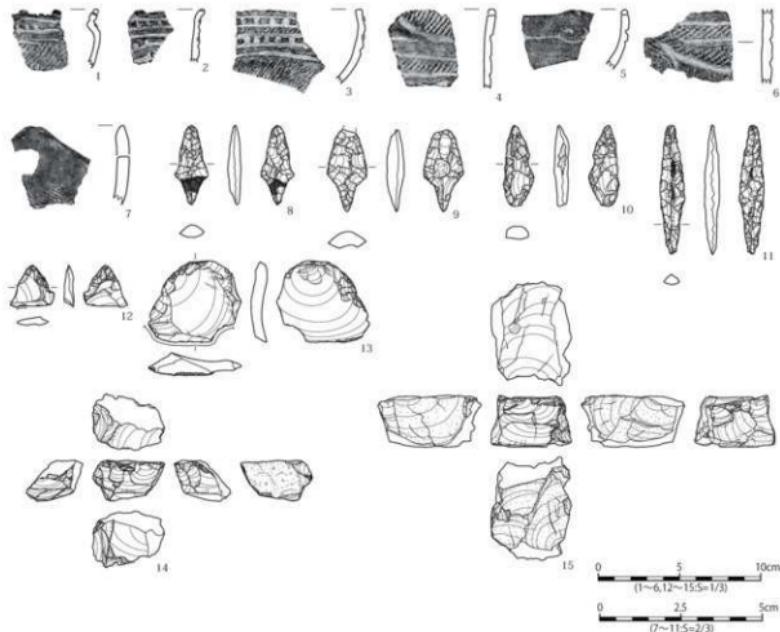
(SK119)

【位置・確認】グリッド X=120,Y=74 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 128.0cm、短径 99.4cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-12.1°-E である。【出土遺物】遺構確認面から土器では、6 群の精製鉢(1)、5 群の精製深鉢(2)、精製鉢(3)、4 群の精製深鉢(4)、注口土器(5)、2b 群の精製深鉢(6)、2c 群



図III-2-1-261 SK119・221・222・223・224・225・226

の精製深鉢(7)が出土している。石器では、頁岩製の石鏃(8～10)、石錐(11)、スクレイバー(12)、微細剥離のある剥片(13)、石核(14・15)が出土している。(図III-2-1-262)。【時期】出土遺物から 6 群以降であると考えられる。



図III-2-1-262 SK119出土遺物

(SK221)

【位置・確認】グリッド X=118,Y=74 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 100.1cm、短径 63.1cm を測る橢円形を呈し、長軸方位は N-70.4°-W である。検出面中央部に石が検出された。

(SK222)

【位置・確認】グリッド X=118,Y=78 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 142.0cm、短径 74.8cm を測る橢円形を呈し、長軸方位は N-88.5°-E である。

(SK223)

【位置・確認】グリッド X=120,Y=74 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 72.1cm、短径 68.9cm を測る円形を呈する。

(SK224)

【位置・確認】グリッド X=120,Y=78 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 290.4cm、短径 194.0cm を測る橢円形を呈し、長軸方位は N-9.5°-W である。確認面で黄褐色粘土によるマウンドが検出された。

(SK225)

【位置・確認】グリッド X=122,Y=74 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】

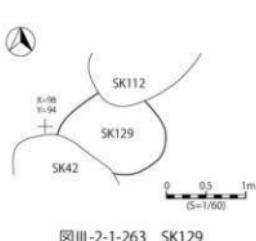
長径 115.5cm、短径 71.9cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-81.0°-W である。

(SK226)

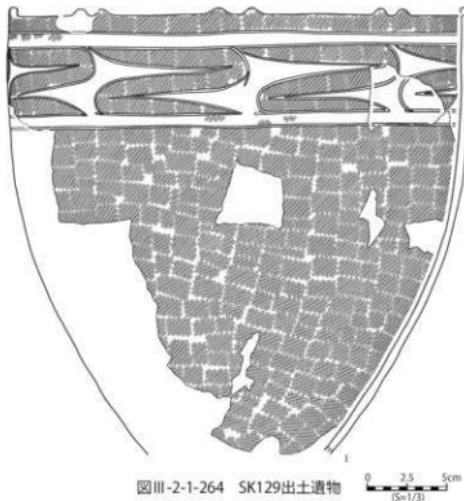
【位置・確認】グリッド X=120,Y=74 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 45.6cm、短径 39.8cm を測る円形を呈する。

第129号土坑 (SK129, 図III-2-1-263)

【位置・確認】グリッド X=98,Y=96 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK42・SK112 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。【規模・形状】長径 135.1cm、短径 95.3cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-77.1°-W である。【出土遺物】遺構確認面から 3 群の精製深鉢が出土した（図 III-2-1-264）。【時期】出土土器から 3 群以降である。



図III-2-1-263 SK129



図III-2-1-264 SK129出土遺物

第172号土坑 (SK172 (墓), 図III-2-1-265)

【位置・確認】グリッド X=90,Y=52 に位置し、地山直上で確認された。

【重複】SK170 と重複関係にあり、

SK170 よりも古い。【規模・形

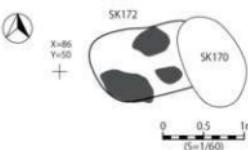
状】長径 111.4cm、短径 88.8cm

を測る楕円形を呈し、長軸方位は

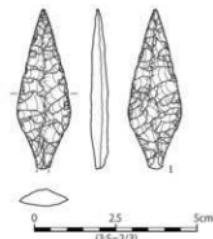
N-78.0°-E である。確認面よりベンガラが検出されている。【出土遺物】

遺構確認面からメノウ製の石鏃が出土している（図III-2-1-266）。【時期】

時期を特定できる遺物が出土していないため不明である。



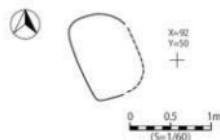
図III-1-265 SK172



図III-2-1-266 SK172出土遺物

第193号土坑 (SK193, 図III-1-267)

【位置・確認】グリッド X=94,Y=50 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 106.1cm、短径 73.2cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-24.6°-W である。



第197号土坑 (SK197, 図III-1-268)

【位置・確認】グリッド X=106,Y=110 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 139.3cm、短径 73.2cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-76.8°-E である。

第198・199・200号土坑 (SK198・199・200, 図III-1-269)

(SK198)

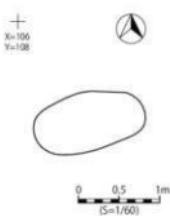
【位置・確認】グリッド X=106,Y=112 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK199 と重複関係にあり、SK199 よりも新しい。【規模・形状】長径 181.2cm、短径 103.0cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-63.2°-E である。

(SK199)

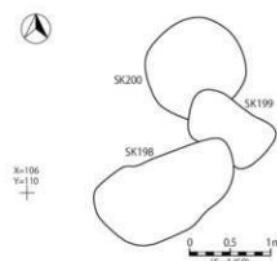
【位置・確認】グリッド X=108,Y=114 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK198・200 と重複関係にあり、SK198 よりも古く、SK200 よりも新しい。【規模・形状】長径 111.7cm、短径 67.2cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-28.7°-W である。

(SK200)

【位置・確認】グリッド X=108,Y=114 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK199 と重複関係にあり、SK199 よりも古い。【規模・形状】長径 126.6cm、短径 125.0cm を測る円形を呈する。



図III-2-1-268 SK197



図III-2-1-269 SK198・199・200

第201号土坑 (SK201(墓), 図III-2-1-270)

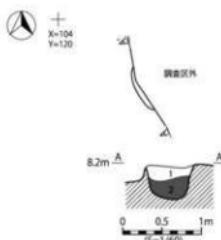
【位置・確認】グリッド X=104,Y=122 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】掘削により土坑の過半が削平されており、正確な規模・形状は不明であるが、残存長 54.0cm を測る。【堆積土】2 層確認され、上層は地山漸移層由来の自然堆積層であり、下層はベンガラ層である。

第202号土坑 (SK202, 図III-2-1-271)

【位置・確認】グリッド X=102,Y=124 に位置し、II c 層で確認された。【重複】なし。【規模・形状】掘削により土坑の過半が削平されており、正確な規模・形状は不明であるが、残存長 96.0cm を測る。【堆積土】2 層確認され、地山漸移層由来の自然堆積層である。

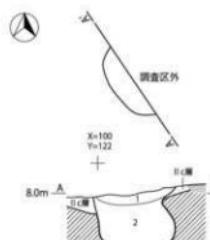
第203号土坑 (SK203, 図III-2-1-272)

【位置・確認】グリッド X=100,Y=124 に位置し、IIc 層で確認された。【重複】なし。【規模・形状】掘削により土坑の過半が削平されており、正確な規模・形状は不明であるが、残存長 72.0cm を測る。【堆積土】2 層確認され、上層は地山漸移層由来の自然堆積層である。



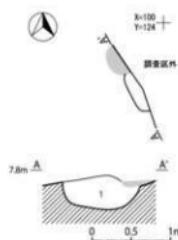
SK201 土壌観察
1層 10985/4 に近い黄褐色 シルト質砂 硬りやソフト
保水性ややあり
2層 SYR46 黒褐色 シルト質砂 硬りやソフト
保水性ややあり ベンガラ

図III-2-1-270 SK201



SK202 土壌観察
1層 10946 黄色 シルト質砂 硬りソフト 保水性
2層 10985/4 に近い黄褐色 シルト質砂 硬りやソフト
保水性ややあり

図III-2-1-271 SK202

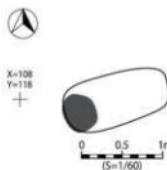


SK203 土壌観察
1層 10985/4 に近い黄褐色 シルト質砂
硬りソフト 保水性ややあり

図III-2-1-272 SK203

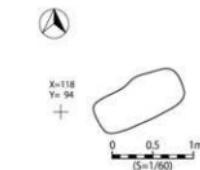
第204号土坑 (SK204 (墓), 図III-2-1-273)

【位置・確認】グリッド X=110,Y=120 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 130.8cm、短径 64.1cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-74.1°-E である。確認面よりベンガラが検出されている。



第207号土坑 (SK207, 図III-2-1-274)

【位置・確認】グリッド X=120,Y=96 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 113.9cm、短径 54.9cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-63.6°-E である。



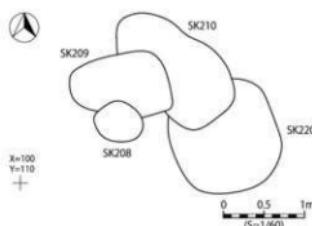
図III-2-1-273 SK204

図III-2-1-274 SK207

第208・209・210・220号土坑 (SK208・209・210・220, 図III-2-1-275)

(SK208)

【位置・確認】グリッド X=102,Y=112 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK209 と重複関係にあり、SK209 より新しい。【規模・形状】長径 61.6cm、短径 50.2cm を測る不整円形を呈し、長軸方位は N-76°-W である。



図III-2-1-275 SK208・209・210・220

(SK209)

【位置・確認】グリッド X=102,Y=112 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK208・210 と重複関係にあり、SK208 より古く、SK210 より新しい。【規模・形状】長径 122.1cm、短径 81.2cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-87.2°-E である。

(SK210)

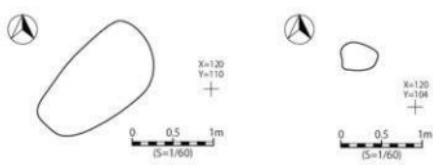
【位置・確認】グリッド X=102,Y=112 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK209・220 と重複関係にあり、SK209 より古く、SK220 より新しい。【規模・形状】長径 171.3cm、短径 98.1cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-53.3°-W である。

(SK220)

【位置・確認】グリッド X=102,Y=114 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK210 と重複関係にあり、SK210 よりも古い。【規模・形状】長径 147.4cm、短径 145.6cm を測る円形を呈し、長軸方位は N-27.2°-E である。

第 211 号土坑 (SK211, 図III-2-1-276)

【位置・確認】グリッド X=122,Y=110 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 163.1cm、短径 91.1cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-47.0°-E である。



図III-2-1-276 SK211

図III-2-1-277 SK212

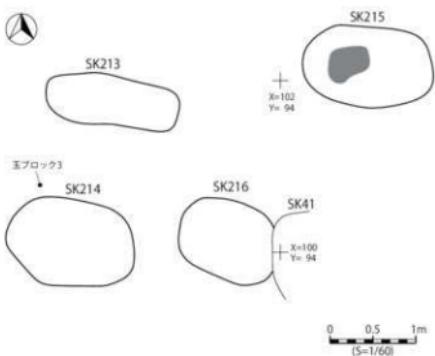
第 212 号土坑 (SK212, 図III-2-1-277)

【位置・確認】グリッド X=122,Y=104 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 45.7cm、短径 34.8cm を測る不整円形を呈し、長軸方位は N-89.5°-E である。

第 213・214・215・216 号土坑 (SK213・214・215 (墓)・216, 図III-2-1-278)

(SK213)

【位置・確認】グリッド X=102,Y=94 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 156.9cm、短径 60.9cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-80.5°-W である。



(SK214)

【位置・確認】グリッド X=102,Y=92 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 153.1cm、短径 104.0cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-74.3°-W である。

(SK215)

図III-2-1-278 SK213・214・215・216

【位置・確認】グリッド X=104,Y=96 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 154.3cm、短径 94.0cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-83.8°-W である。黄褐色粘土によるマウンドが確認された。

(SK216)

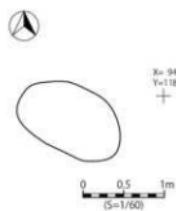
【位置・確認】グリッド X=102,Y=94 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK41 と重複関係にあり、SK41 よりも古い。【規模・形状】SK41 により削平されており、正確な規模・形状は不明である残存する長径 122.2cm、短径 90.6cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-60.9°-W である。

第 218 号土坑 (SK218, 図 III -2-1-279)

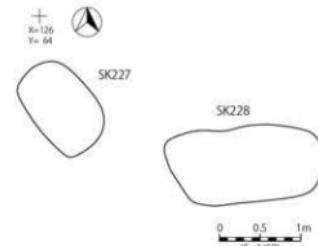
(SK218)

【位置・確認】グリッド X=94,Y=118 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。

【規模・形状】長径 135.7cm、短径 82.8cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-32.6°-W である。



図III-2-1-279 SK218



図III-2-1-280 SK227・228

第 227・228 号土坑 (SK227・228, 図 III -2-1-280)

(SK227)

【位置・確認】グリッド X=126,Y=66 に位置し、地山直上で確認された。【重複】特になし。【規模・形状】長径 120.3cm、短径 77.8cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-39.8°-W である。

(SK228)

【位置・確認】グリッド X=126,Y=68 に位置し、地山直上で確認された。【重複】特になし。【規模・形状】長径 191.0cm、短径 94.8cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-83.9°-E である。

第 229 号土坑 (SK229, 図 III -2-1-281)

【位置・確認】グリッド X=130,Y=62 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径 185.8cm、短径 123.8cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-47.8°-W である。



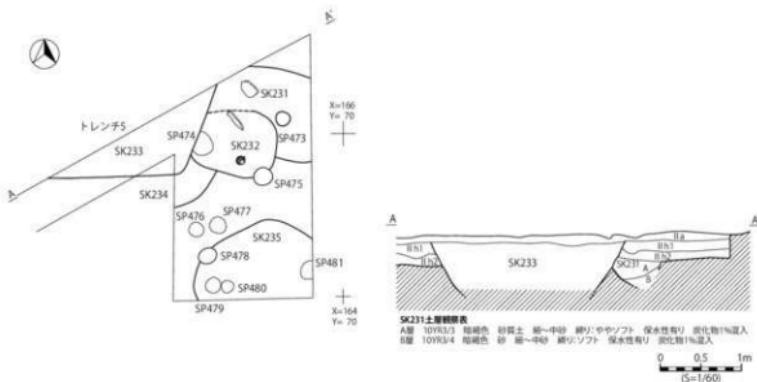
図III-2-1-281 SK229

第 231・232・233・234・235 号土坑

(SK231・232・233・234・235, 図 III -2-1-282)

(SK231)

【位置・確認】グリッド X=168,Y=70 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK232・233 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。【規模・形状】調査区外へと伸びているため、正確な規模形状は不明であるが、確認長 121.5cm を測る。【時期】SK232 よりも古いため 7 群以前であると考



図III-2-1-282 SK231・232・233・234・235

えられる。

(SK232)

【位置・確認】グリッド X=166,Y=70 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK231・SK233・234 と重複関係にあり、SK231・234 よりも新しく、SK233 より古い。【規模・形状】SK233 により掘削されているため、正確な規模・形状は不明であるが、現存

長 99.6cm を測る楕円形を呈し、長軸方位は N-77.3°W である。【出土遺物】遺構確認面から 7 群の注口土器が出土した（図III-2-1-283）。【時期】出土土器から 7 群以降であると考えられる。

(SK233)

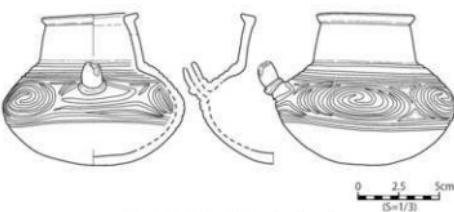
【位置・確認】グリッド X=166,Y=68 に位置し、II h 層上面で確認された。【重複】SK231・232・234 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。【規模・形状】調査区外へと伸びているため、正確な規模・形状は不明であるが、方形を呈するものと考えられる。【時期】SK232 よりも新しいため、7 群以降であると考えられる。

(SK234)

【位置・確認】グリッド X=166,Y=70 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK232・233 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。【規模・形状】SK232・SK233 により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、長径 69.0cm を測る。【時期】SK232 よりも古いため 7 群以前であると考えられる。

(SK235)

【位置・確認】グリッド X=166,Y=70 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SP478・479・480・481 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。【規模・形状】長径 157.1cm、短径



図III-2-1-283 SK232 出土遺物

109.7cmを測る楕円形を呈し、長軸方位はN-60.2°・Eである。

第236号土坑 (SK236, 図III-2-1-284)

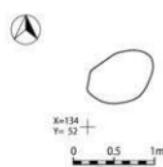
【位置・確認】グリッドX=164,Y=64に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】長径122.7cm、短径66.9cmを測る楕円形を呈し、長軸方位はN-88.2°・Eである。



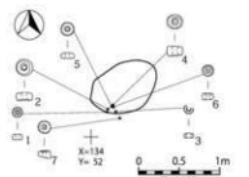
図III-2-1-284 SK236

第238号土坑 (SK238, 図III-2-1-285)

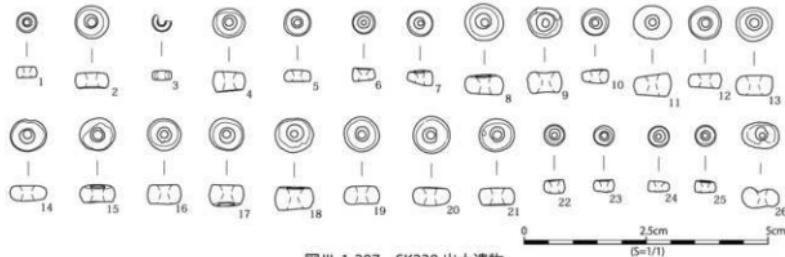
【位置・確認】グリッドX=136,Y=54に位置し、地山直上で確認された。【重複】特になし。【規模・形状】底面のみの残存しており、正確な規模・形状は不明であるが、長径88.1cm、短径60.7cmを測る楕円形を呈し、長軸方位はN-62.5°・Eである。【出土遺物】確認より副葬品と考えられる緑色凝灰岩製丸玉が出土している（図III-2-1-286・287）。



図III-2-1-285 SK238



図III-2-1-286 SK238遺物出土状況



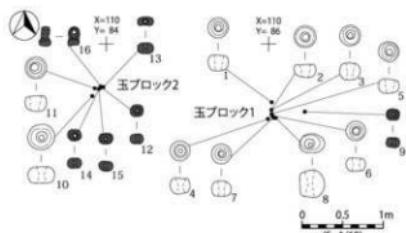
図III-1-287 SK238出土遺物

玉ブロック

土坑は確認できなかったが、玉が集中して出土している地点があったため、図示した（図III-2-1-288）。2箇所存在するが、両地点が隣接していることもあり、同一の土坑墓に副葬されていた可能性も考えられる。

(玉ブロック1)

【位置】グリッドX=110,Y=88に位置し、地山直上で確認された。【出土遺物】ヒスイ質製の丸玉（1～7）、緑色凝灰岩製の管玉（8）、



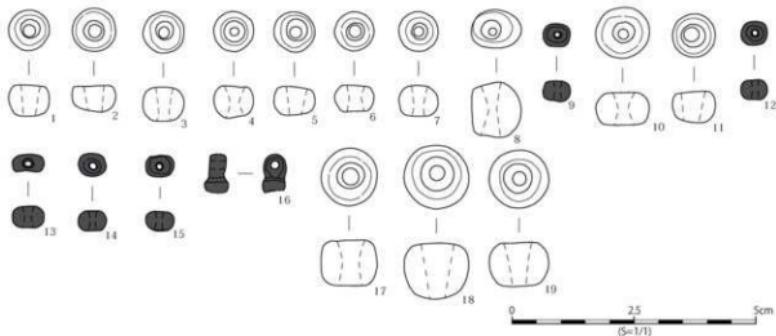
図III-2-1-288 玉ブロック1・2遺物出土状況

土製丸玉（9）が出土している（図III-2-1-289）。

（玉プロック 2）

【位置】グリッド X=110,Y=84 に位置し、地山直上で確認された。【出土遺物】ヒスイ質製の丸玉（10・11）、赤色顔料が塗布された土製丸玉（12～15）、土製垂飾（16）が出土している（図III-1-289）。（玉プロック 3）

【位置】グリッド X=110,Y=84 に位置し、地山直上で確認された。【出土遺物】ヒスイ質製の丸玉（17～19）が出土している（図III-1-289）。



図III-2-1-289 玉プロック出土遺物
(1～9: 玉プロック 1, 10～16: 玉プロック 2, 17～19: 玉プロック 3)

2. 掘立柱建物跡・柱穴跡

第1号掘立柱建物跡 (SB01, 図III-2-2-1)

【位置・確認】グリッド X=86 ~ 92, Y=76 ~ 84 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK141 と重複関係にあり、SK141 よりも新しい。【規模・形状】桁行 2 間 (600.8cm)、梁間 1 間 (344.2cm) を測る掘立柱建物跡であり、各柱穴は幅 77.5 ~ 103.9cm、深さ 33.0 ~ 126.8cm を測る。【堆積土】各柱穴で、覆土が 2 ~ 6 層認められ、柱穴痕が確認されたものは、SP04 ~ 06 であり、黒褐色土を基調とする堆積土である。SP01 ~ 03 は柱穴痕が確認されなかったことから、建物廃絶時に柱を抜き取られたと考えられる。【出土遺物】各柱穴から遺物包含層からの流入と考えられる遺物として、土器では 6 群の半精製深鉢 (7)、精製鉢 (15・16・33)、半精製壺 (17)、5 群の精製深鉢 (1・34)、精製鉢 (18・19・35・40)、4 群の精製深鉢 (3・4・9・20・21・36・41)、鉢 (10)、注口土器 (22)、2b ~ 2c 群の精製深鉢 (8)、2b 群の精製深鉢 (5・11・23)、壺か注口土器 (12・42) が出土している。

石器では頁岩製の尖頭器未成品 (30)、石鏸 (24・37)、石錐 (26)、石匙 (13・43・44)、石鎧 (45)、スクレイパー (27・28)、二次加工のある剥片 (29)、石核 (31)、敲石 (47)、黒曜石製の石鏸 (25)、閃緑岩製の敲石 (6・38)、凝灰岩製の敲石 (32)、火碎岩製の敲石 (39・46)、自然石のくびれ石 (48) が出土している。

土製品では、板状の土偶の体部破片が出土している (14) (図III-2-2-3)。【時期】出土土器から 6 群以前であると考えられる。

第2号掘立柱建物跡 (SB02, 図III-2-2-4)

【位置・確認】グリッド X=100 ~ 102, Y=78 ~ 80 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】桁行 1 間 (230.1cm)、梁間 1 間 (200.1cm) を測る掘立柱建物跡であり、各柱穴は幅 77.5 ~ 103.9cm、深さ 33.0 ~ 126.8cm を測る。【堆積土】各柱穴で、覆土が 1 ~ 2 層認められ、柱穴痕が確認されたものはないから、建物廃絶時に柱を抜き取られたと考えられる。【出土遺物】SB02SP02 より、砂岩製の敲石が出土している (図III-2-2-5)。【時期】時期を特定できる遺物が出土していないため、不明である。

柱穴跡

ここででは、調査が実施された縄文時代の柱穴跡のみを図示することとし、古代以降のピットに関しては、第 5 節で詳述することとする。

第1号柱穴 (SP01, 図III-2-2-6)

【位置・確認】グリッド X=104, Y=74 に位置し、地山直上で確認された。【規模】幅 41.9cm、深さ 24.2cm を測る。【堆積土】1 層確認され、褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】特になし。【時期】時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。

第3号柱穴 (SP03, 図III-2-2-4)

グリッド X=102, Y=78 に位置し、地山直上で確認された。【規模】幅 31.6cm、深さ 27.8cm を測る。【堆

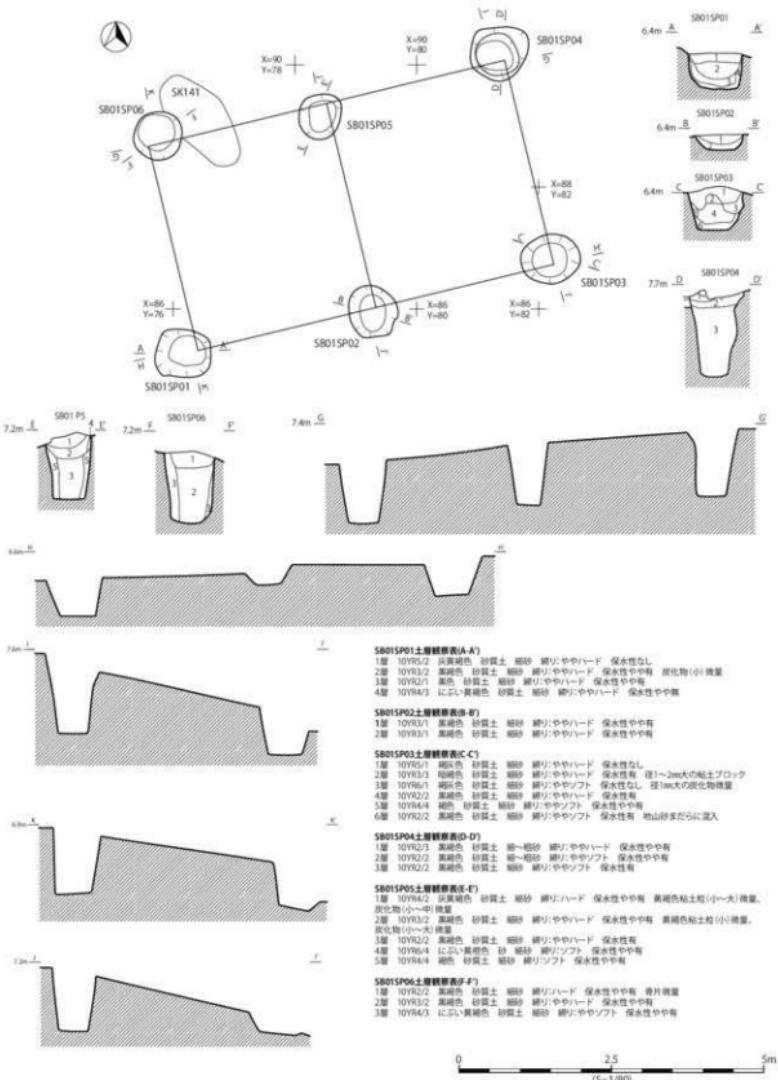
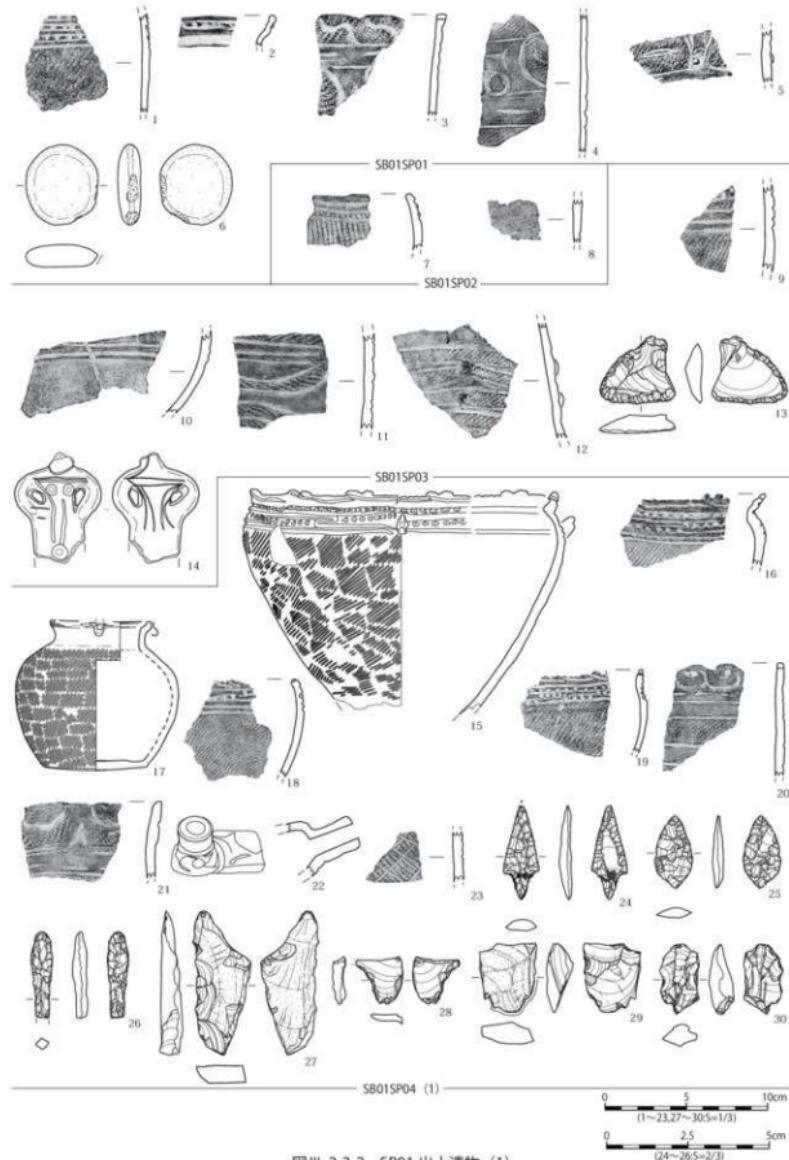
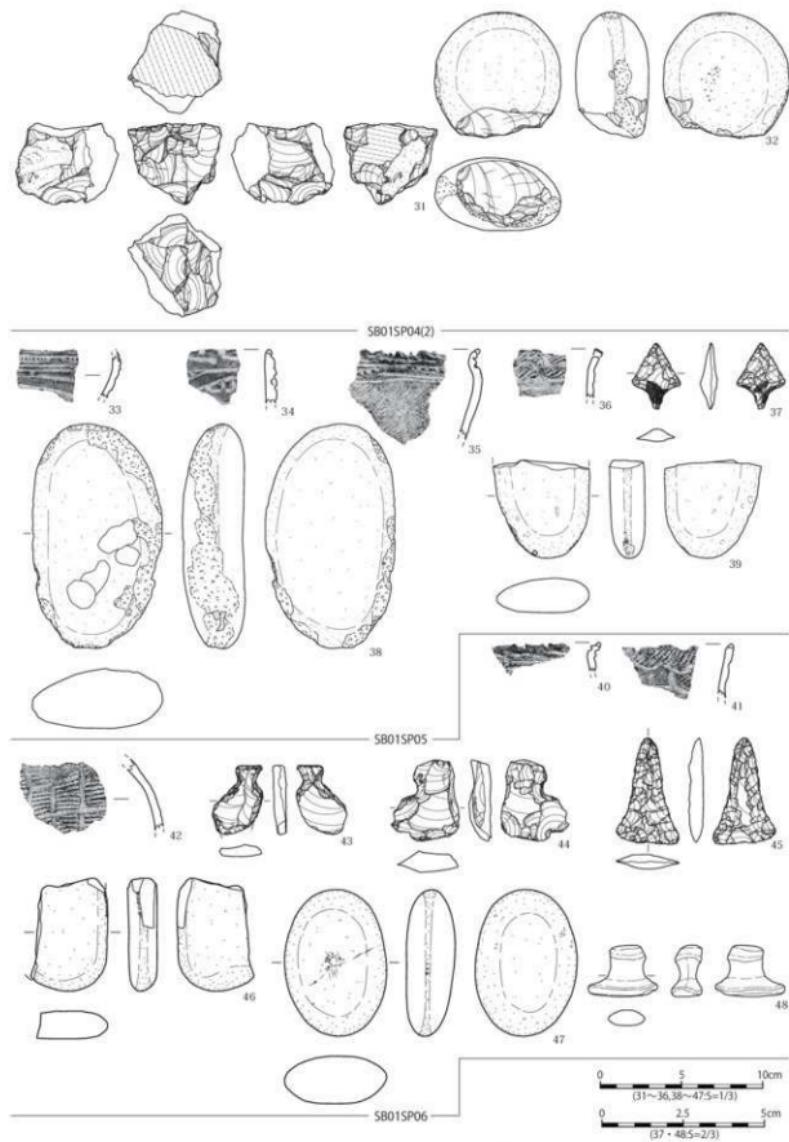


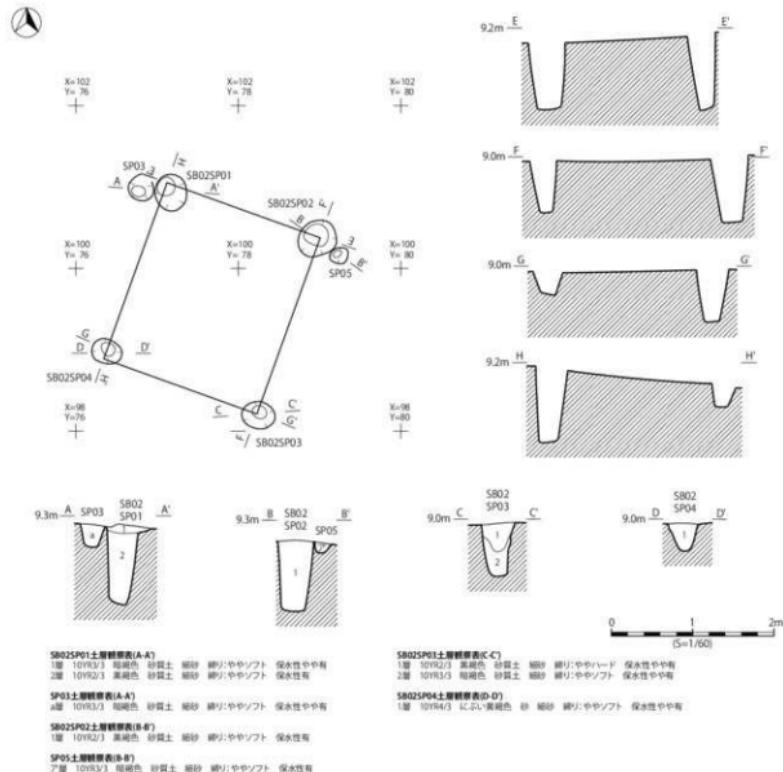
図 III-2-2-1 SB01



図III-2-2-2 SB01 出土遺物 (1)



圖III-2-2-3 SB01 出土遺物 (2)



図III-2-2-4 SB02

積土 1層確認され、暗褐色を呈する自然堆積層である。

【出土遺物】特になし。**【時期】**時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。

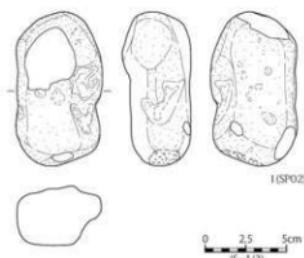
第5号柱穴 (SP05, 図III-2-2-4)

グリッド X=102, Y=78 に位置し、地山直上で確認された。

【規模】幅 31.6cm、深さ 13.8cm を測る。**【堆積土】**1層確認され、暗褐色を呈する自然堆積層である。**【出土遺物】**特になし。**【時期】**時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。

第407号柱穴 (SP407, 図III-2-2-7)

【位置・確認】グリッド X=104, Y=78 に位置し、地山直上で確認された。**【規模】**幅 21.8cm、深さ

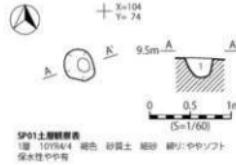


図III-2-2-5 SB02 出土遺物

11.2cmを測る。【堆積土】1層確認され、褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】頁岩製の石椎が出土している（図III-2-2-19）。【時期】時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。

第414号柱穴（SP414、図III-2-2-8）

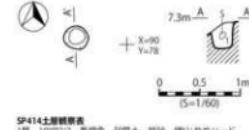
【位置・確認】グリッドX=102,Y=78に位置し、地山直上で確認された。【規模】幅31.6cm、深さ27.8cmを測る。【堆積土】1層確認され、黒褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】土器では4群の精製深鉢（2）、2c群の深鉢（3）が出土しており、石器では安山岩製の磨石（4）が出土している（図III-2-2-19）。【時期】出土土器から、4群以前であると考えられる。



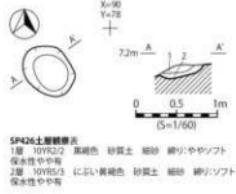
図III-2-2-6 SP01



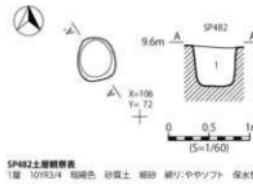
図III-2-2-7 SP407



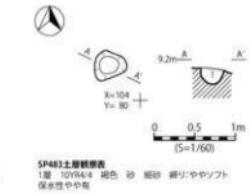
図III-2-2-8 SP414



図III-2-2-9 SP426



図III-2-2-10 SP482



図III-2-2-11 SP483



図III-2-2-12 SP484・485・486・487

第426号柱穴 (SP426, 図III-2-2-9)

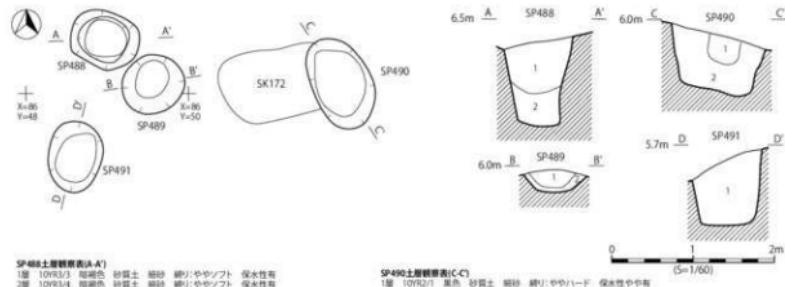
【位置・確認】グリッド X=90, Y=78 に位置し、地山直上で確認された。【規模】幅 65.3cm、深さ 20.2cm を測る。【堆積土】2 層確認され、黒褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】土器では 4 群の精製深鉢（5）、2c 群の深鉢（6）が出土しており、石器ではメノウ製の石鐵（7）、頁岩製のスクレイパー（8）が出土している（図III-2-2-19）。【時期】出土土器から 4 群以前であると考えられる。

第482号柱穴 (SP482, 図III-2-2-10)

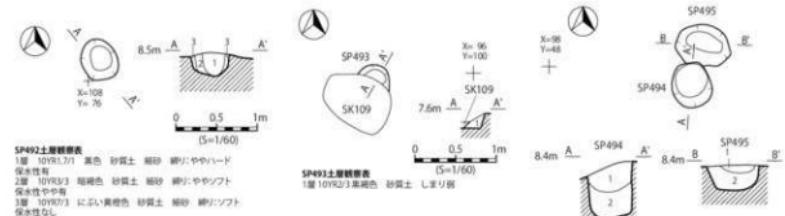
【位置・確認】グリッド X=108, Y=72 に位置し、地山直上で確認された。【規模】幅 55.4cm、深さ 51.5cm を測る。【堆積土】1 層確認され、暗褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】特になし。【時期】時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。

第483号柱穴 (SP483, 図III-2-2-11)

【位置・確認】グリッド X=108, Y=72 に位置し、地山直上で確認された。【規模】幅 54.9cm、深さ

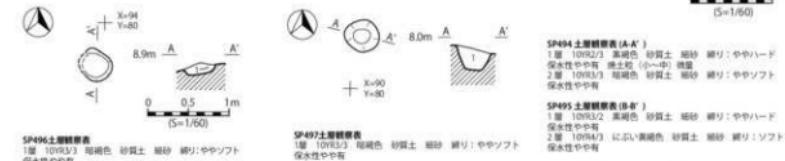


図III-2-2-13 SP488-489-490-491



図III-2-2-14 SP492

図III-2-2-15 SP493



図III-2-2-17 SP496

図III-2-2-18 SP497

図III-2-2-16 SP494-495

47.9cm を測る。【堆積土】1層確認され、褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】特になし。【時期】時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。

第484号柱穴 (SP484, 図III-2-2-12)

【位置・確認】グリッド X=88,Y=54 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SP485 と重複関係にあり、SP485 よりも新しい。【規模】幅 108.0cm、深さ 156.1cm を測る。【堆積土】2層確認され、地山直上層由來の自然堆積層である。【出土遺物】頁岩製の石鏃（9～11）、スクレイバー（12）、二次加工のある剝片（13）が出土している（図III-2-2-19）。【時期】時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。

第485号柱穴 (SP485, 図III-2-2-12)

【位置・確認】グリッド X=88,Y=54 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SP484・486 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。【規模】幅 126.5cm、深さ 148.9cm を測る。【堆積土】5層確認され、暗褐色から褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】土器では 5群の精製鉢（14・15）、4群の精製深鉢（16・17）が出土しており、石器ではメノウ製の石鏃（18）、石錐（19）、緑色岩製の磨製石斧（20）、砂岩製の敲石（21）が出土している（図III-2-2-19）。【時期】出土土器から 4群以前であると考えられる。

第486号柱穴 (SP486, 図III-2-2-12)

【位置・確認】グリッド X=88,Y=54 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SP485 と重複関係にあり、SP485 よりも新しい。【規模】幅 44.4cm、深さ 33.4cm を測る。【堆積土】1層確認され、地山直上層由來の自然堆積層である。【出土遺物】特になし。【時期】時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。

第487号柱穴 (SP487, 図III-2-2-12)

【位置・確認】グリッド X=90,Y=54 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模】幅 92.5cm、深さ 119.9cm を測る。【堆積土】5層確認され、暗褐色からにぶい黄褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】土器では 4群の精製深鉢（22）、2c群の深鉢（23）が出土しており、石器では頁岩製の尖頭器未成品（24）、メノウ製のスクレイバー（25）が出土している（図III-2-2-20）。【時期】出土土器から 4群以前であると考えられる。

第488号柱穴 (SP488, 図III-2-2-13)

【位置・確認】グリッド X=88,Y=50 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模】幅 87.6cm、深 110.9cm を測る。【堆積土】2層確認され、暗褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】4群の精製深鉢（26）、頁岩製の石鏃（27）が出土している（図III-2-2-20）。【時期】出土土器から 4群以前であると考えられる。

第489号柱穴 (SP489, 図III-2-2-13)

【位置・確認】グリッド X=88,Y=50 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模】幅 85.8cm、深 101.0cm を測る。【堆積土】5層確認され、暗褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】特になし。【時期】時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。

第490号柱穴 (SP490, 図III-2-2-13)

【位置・確認】グリッド X=88,Y=54 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模】幅 85.8cm、深 101.0cm を測る。【堆積土】2層確認され、黒褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】

特になし。【時期】時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。

第491号柱穴 (SP491, 図III-2-2-13)

【位置・確認】グリッド X=86,Y=50 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模】幅 85.8cm、深さ 101.0cm を測る。【堆積土】1 層確認され、暗褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】特になし。【時期】時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。

第492号柱穴 (SP492, 図III-2-2-14)

【位置・確認】グリッド X=110,Y=78 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】幅 52.6cm、深さ 22.7cm を測る。【堆積土】3 層確認され、自然堆積層である。【出土遺物】土器では、4 群の精製鉢 (28)、3 群の精製深鉢 (29) が出土しており、石器では火碎岩製の砥石 (30) が出土している (図III-2-2-20)。【時期】出土土器から 4 群以前であると考えられる。

第493号柱穴 (SP493, 図III-2-2-15)

【位置・確認】グリッド X=90,Y=100 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SK109 と重複関係にあり、SK109 よりも古い。【規模・形状】現存長 43.6cm、深さ 22.7cm を測る。【堆積土】1 層確認され、自然堆積層である。【出土遺物】土器では 7 群の半精製深鉢 (31)、精製鉢 (32)、6 群の半精製深鉢 (33)、精製鉢 (34)、5 群の精製鉢 (35) が出土しており、石器では頁岩製の石鏃 (36・37)、搬入繩 (40)、メノウ製の石鏃 (38)、火碎岩製の敲石 (39) が出土している (図III-2-2-20)。【時期】出土土器から 7 群以前であると考えられる。

第494号柱穴 (SP494, 図III-2-2-16)

【位置・確認】グリッド X=100,Y=50 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SP495 と重複関係にあり、SP495 よりも新しい。【規模・形状】長径 52.6cm、短径 43.6cm、深さ 22.7cm を測る円形を呈し、長軸方位は N-35.0°-W である。【堆積土】2 層確認され、自然堆積層である。【出土遺物】特になし。【時期】時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。

第495号柱穴 (SP495, 図III-2-2-16)

【位置・確認】グリッド X=98,Y=50 に位置し、地山直上で確認された。【重複】SP494 と重複関係にあり、SP494 よりも古い。【規模・形状】幅 43.6cm、深さ 22.7cm を測る。【堆積土】2 層確認され、自然堆積層である。【出土遺物】特になし。【時期】時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。

第496号柱穴 (SP496, 図III-2-2-17)

【位置・確認】グリッド X=94,Y=80 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】幅 39.6cm、深さ 14.4cm を測る。【堆積土】1 層確認され、暗褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】4 群の精製深鉢 (41) が出土している (図III-2-2-20)。【時期】出土土器から 4 群以前であると考えられる。

第497号柱穴 (SP497, 図III-2-2-18)

【位置・確認】グリッド X=92,Y=82 に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】幅 43.9cm、深さ 32.0cm を測る。【堆積土】1 層確認され、暗褐色を呈する自然堆積層である。【出土遺物】頁岩製の石鏃 (42)、スクレイバー (43・44)、微細剥離のある剝片 (45) が出土している (図III-2-2-20)。【時期】時期を特定する遺物の出土がないため、不明である。



図III-2-2-19 SP 出土遺物 (1)



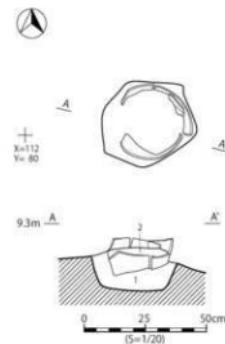
図III-2-2-20 SP出土遺物 (2)

3. 土器埋設遺構

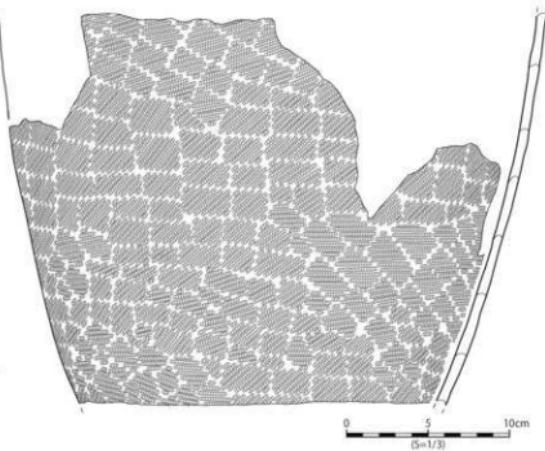
土器埋設遺構は、全部で6基検出された。いずれも粗製あるいは半精製の深鉢が利用されている。土器内の堆積土からは、人骨が検出されてはいないが、一種の埋葬形態ではないかと考えられる。

第1号土器埋設遺構 (SR01, 図III-2-3-1)

【位置・確認】グリッドX=114,Y=78に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】掘り込み面は、幅38.9cm、深さ17.6cmを測る。【堆積土】1層確認され、地山直上の漸移層由来の層である。【出土遺物】粗製の深鉢の体部破片が正立状態で出土しており、埋設時に既に底部は無かつたものと考えられる（図III-2-3-2）。



SR01土器埋設遺構
1層 10YR5/4 に近い黄褐色 砂 細粒 繊維:ややソフト
保水性:やや有

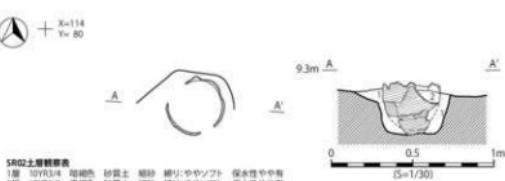


図III-2-3-1 SR01

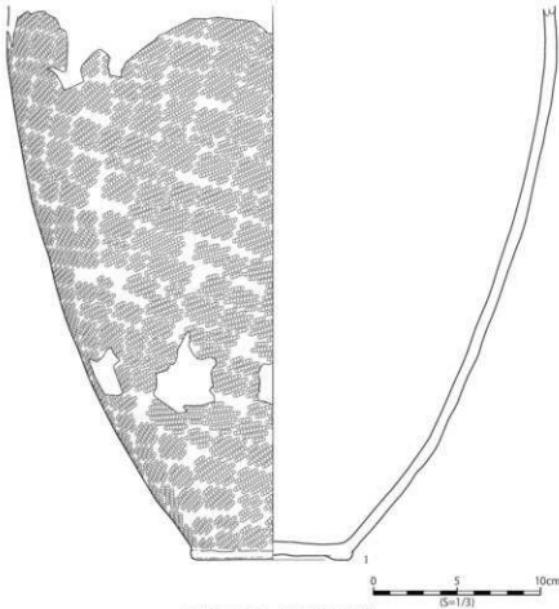
図III-2-3-2 SR01出土遺物

第2号土器埋設遺構 (SR02, 図III-2-3-3)

【位置・確認】グリッドX=114,Y=78に位置し、地山直上で確認された。【重複】なし。【規模・形状】掘り込み面は、幅38.9cm、深さ17.6cmを測る。【堆積土】2層確認され、地山直上の漸移層由来の層である。【出土遺物】粗製の深鉢の体部～底部破片が正立状態で出土しており、上部の搅乱により、口縁部は欠損している（図III-2-3-4）。



図III-2-3-3 SR02



図III-2-3-4 SR02出土遺物

第3・4号土器埋設遺構 (SR03・04, 図III-2-3-5)

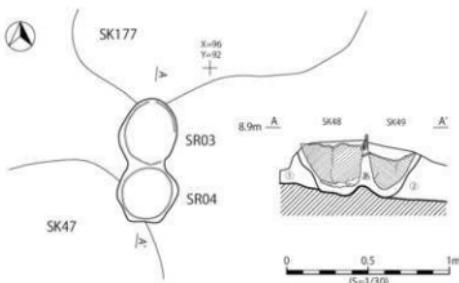
【位置・確認】グリッド X=96,Y=92

に位置し、地山直上で確認された。

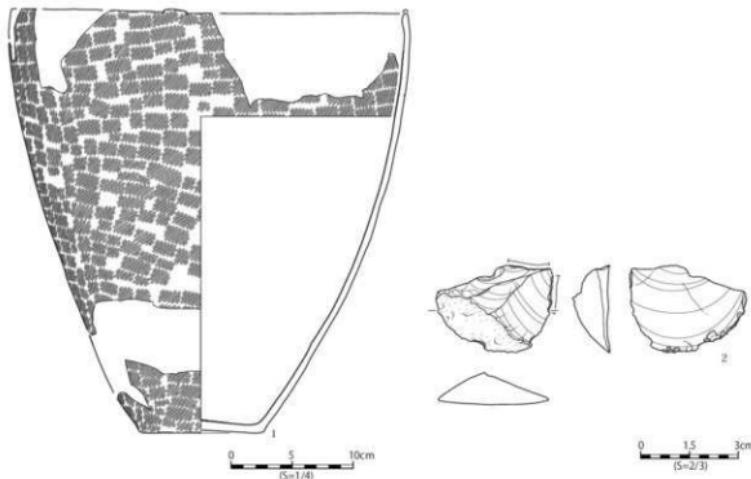
【重複】SK47・177と重複関係にあり、いずれの構造よりも新しい。

【規模・形状】掘り込み面は、幅38.9cm、深さ17.6cmを測る。【堆積土】1層確認され、地山直上の漸移層由来の層である。【出土遺物】粗製及び半精製の深鉢が正立状態で出土している。SR03からは頁岩製のスクレイパーが出土している。(図III-2-3-6・7)。

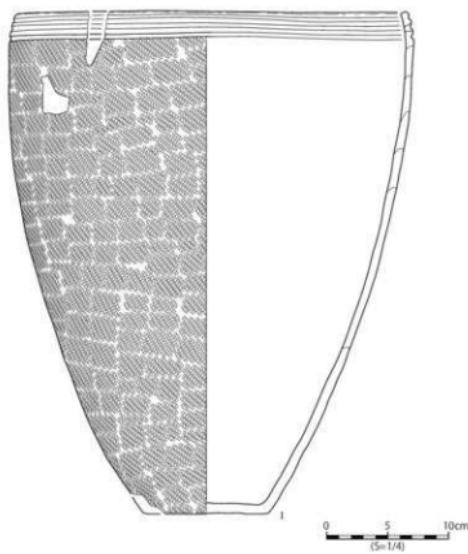
【時期】SK177よりも新しいため、7群以降であると考えられる。

SR03-04A 墓結構
土壤 10YR5/2 黄褐色 地質土 硬質 繊維:ややソフト 保水性:やや有
上層 10YR5/2 黄褐色 地質土 硬質 繊維:ややソフト 保水性:やや有 SK177層土
下層 7.5YR2/3 棕褐色 地質土 硬質 繊維:ややソフト 保水性:やや有 SK47層土

図III-2-3-5 SR03・04

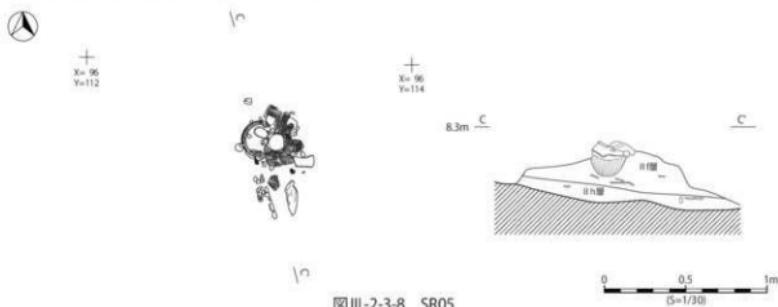


圖III-2-3-6 SR03出土遺物

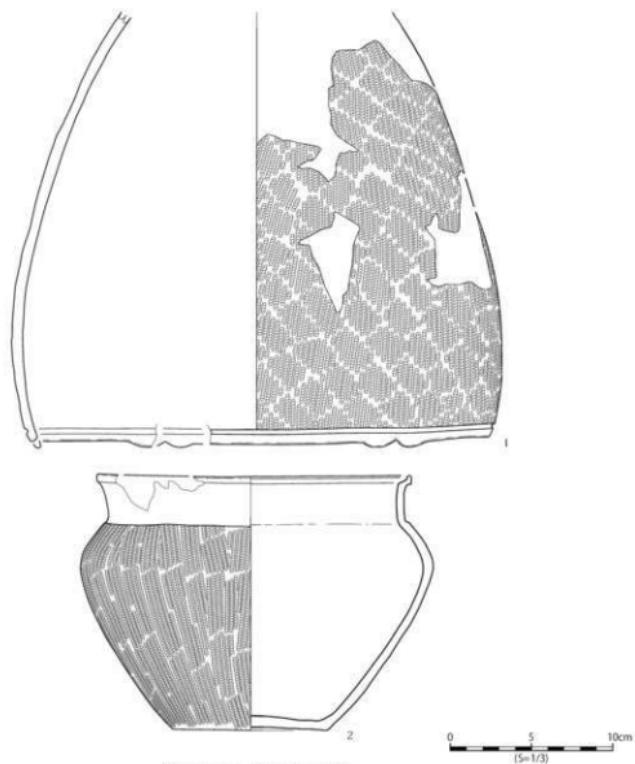


圖III-2-3-7 SR04出土遺物

第5号土器埋設遺構 (SR05, 図III-2-3-8)



図III-2-3-8 SR05

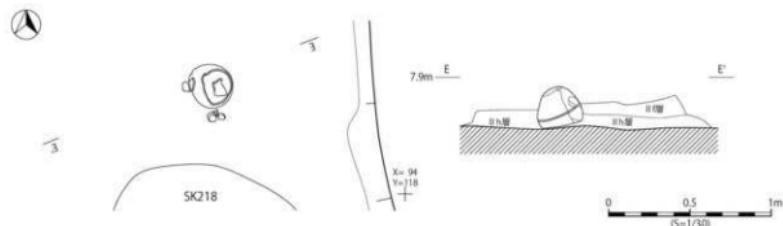


図III-2-3-9 SR05 出土遺物

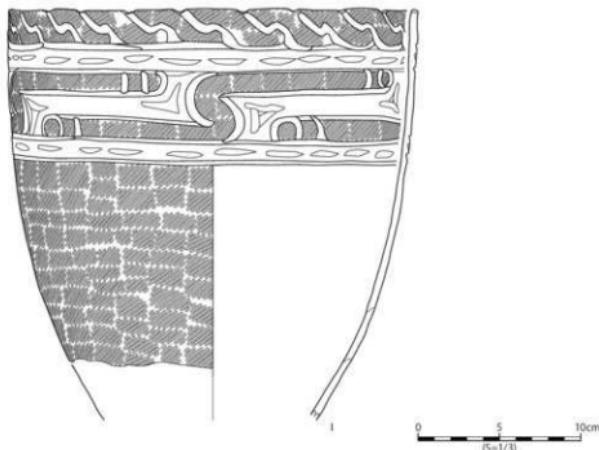
【位置・確認】グリッド X=96,Y=114 に位置し、II f 層上面で確認された。【重複】なし。【規模・形状】上層がカクランを受けており正確な規模・形状は不明であるが、正立状態の鉢形土器の上に倒立した深鉢を組み合わせた形態をしているが、明瞭な掘り込み面は確認できなかったため、土器を設置した後、他の廃棄遺物と同様に埋められたものと考えられる。【堆積土】上層がカクランを受けており正確な堆積土は不明である。【出土遺物】正立状態の 7 群の半精製の鉢形土器（2）の上に、潰れた形で倒立した 7 群の半精製の深鉢（1）が出土している。（図III-2-3-9）。【時期】出土土器から 7 群であると考えられる。

第 6 号土器埋設遺構（SR05, 図III-2-3-10）

【位置・確認】グリッド X=96,Y=118 に位置し、II h 層下面で確認された。【重複】なし。【規模・形状】上層がカクランを受けており正確な規模・形状は不明であるが、倒立した深鉢が出土しているが、明瞭な掘り込み面は確認できなかったため、土器を設置した後、他の廃棄遺物と同様に埋められたものと考えられる。【堆積土】上層がカクランを受けており正確な堆積土は不明である。【出土遺物】倒立した 3 群の精製深鉢が出土している。（図III-2-3-11）。【時期】出土土器から 3 群であると考えられる。



図III-2-3-10 SR06



図III-2-3-11 SR06 出土遺物

4. 集石遺構

(1) 概要

調査区南西部の台地緩斜面から、拳大から人頭大以上の自然石・奇石、石器などをまとめて集積した遺構が1基確認された（図III-4-1）。これを集石遺構と呼び、以下SX01と表記する。

【調査方法】SX01の微細図面を作成するため、グリッドを16等分に分割して、図化を行った。また、東西・南北方向に観察用の畔を設けて、層位ごとに上からⅡ b・Ⅱ c・Ⅱ d・Ⅱ e層の順に遺物を取り上げた。ただし、Ⅱ dとⅡ e層は分層したものの、同時に取り上げている。また、下層のⅡ f層は、集石が入り込んでおらず、第3遺物集中区（捨て場）の遺物として取り扱った。このようにできるだけ出土位置が分かるように記録して平面図や分布図に反映させたが、細片等の遺物はグリッド単位で取り上げている。

【位置・確認】グリッドX=90～96,Y=52～58に位置する。検出面はⅡ a層が飛砂により消失していたため、Ⅱ b層上面である。また、大振りな礫の一部がⅠ b層（飛砂層）に入り込んでいたため、Ⅰ b層を剥ぐ段階で一部が重機によって剥ぎ取られてしまった。しかし、基本的には元の形状を残しているものとみられる。

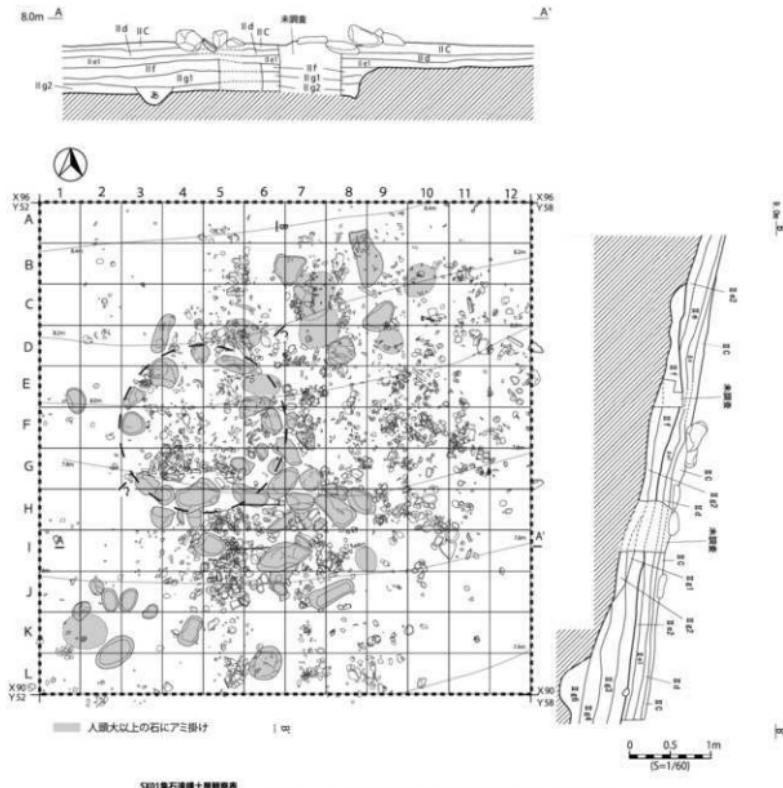
【重複】SK192、第3遺物集中区と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。

【規模・形状】直径5.5mの円形を呈する範囲に、拳大から人頭大までの礫が集積された状態で検出された。被熱を受けて赤変やひび割れした礫は一部には認められたが、ほとんど被熱を受けたものはない。また、覆土には炭化物も含まれておらず、炭化材の検出もないことから、この場所で火を焚いた痕跡は確認されなかった。人頭大の礫の分布状況をみると、直径2mの規模で人頭大の礫を人為的に配置したとみられる環状集石部分を検出したが、それ以外の人頭大の礫については、単に廃棄したものとみられる。また、断面では、明確な掘り込みは確認されないが、礫はⅡ e層まで入り込んでいたことから、集石遺構の覆土をⅡ b～Ⅱ e層までとし、深さは30cmを測る。なお、SX01下部のⅡ f層は、第3遺物集中区の遺物包含層とした。

【出土遺物】土器、土製品、石器・石製品、くびれ石を含む多量の自然石が出土している。土器では、第1群～2b群、第4群～9b群土器が出土している。土製品では、土偶、耳飾、土錘、円板形土製品、土玉が出土している。石器・石製品では、剥片石器（尖頭器・石錐・石錐・小型石錐・石匙・スクレイパー・微細剥離のある剥片・小型刃器）、磨石・敲石類（磨・凹・四十敲・磨+敲・敲類）、石皿・台石類（石皿・台石・台石敲・砥石）、石錘、石棒、石刀、石冠、玉、線刻礫、ボタン状石製品、碗形石製品、石核、剥片・碎片が出土している。また、異形礫・搬入礫では、鉱物（ベンガラ・アスファルト・水晶・メノウ）、異形礫（有孔礫・軽石・球石・くびれ石・スタンプ形礫・凹凸礫・柱状礫〔粗製石棒〕・バナナ状礫・棒状礫・礫岩・碗状礫）、搬入礫とした自然石には円礫・亜円礫・扁平礫が出土している。詳細は、別項で個別に分析・報告する。

【時期】SX01下部のⅡ f層から、第7群土器の良好な層位資料が得られており、SX01の下限を示す時期の土器は第8群土器（北海道系土器の第9群は除く）である。このことから、SX01は第7群から第8群までの時期と考えられる。

【性格】出土遺物の項で後述するが、SX01は祭祀関連遺物など特定の器種や遺物を意図的に選択し



図III-2-4-1 SX01 造様配置図・土屢断面図

て集積しており、日常生活で使用した道具や土器は非常に少ない。また、祭祀関連の遺物が集中的に集積していることから、祭祀関連遺構と考えられる。

(2) 土器

第1群～第9b群（第3群を除く）までの土器が出土しており、五月女窯遺跡から出土した縄文期のすべての土器が出土している。合計55点を図化した。ここでは群別に出土土器を報告する。

1) 第1群土器（図III-2-4-3）

1～4は、波頂部（突起部）に粘土紐を張り付けた隆帶文を伴う口縁部片であり、C字状の押圧縄文がある。なお、同時期の体部・底部破片はSX01や遺跡全体を概観しても殆ど出土していないことから、特異な形状の土器片を意図的に持ち込んで廃棄したものとみられる。

2) 第2a群土器（図III-2-4-3）

5～8は、深鉢の口縁部破片で5・6・8は装飾突起をもつ。7は口縁部に2条の平行沈線を施して、刻目文を施す。第2a群土器でも第1群と同様に、装飾突起や環状の耳が付く土器片などに限定されており、特異な形状の土器片を意図的に持ち込んだものとみられる。

3) 第2b群土器（図III-2-4-3）

9は深鉢の口縁部片で二つの突起を持つ。10は小型の粗製壺で、体部には刺突文が充填し、頭部の無文帯に瘤状突起が付く。11～16は注口土器の注口部分である。第2b群の注口土器は、注口部分のみで体部や底部片は出土していないことから、突起を有する注口部分を意図的に持ち込んだものとみられる。

4) 第2c群土器（図III-2-4-4）

17は壺で頭部に環状の耳が付く。18は注口土器で、平行沈線間に刻み目が施される。19～21は香炉であり、19・20は頂部の突起部分である。21は頂部から体部下半まで良好に残る。このように香炉の頂部を意図的に持ち込んだものとみられる。

5) 第4群土器（図III-2-4-4）

22・23は注口土器である。22は注口部を含む体部破片、23は口縁部・注口部を欠く体部破片である。

6) 第5群土器（図III-2-4-4）

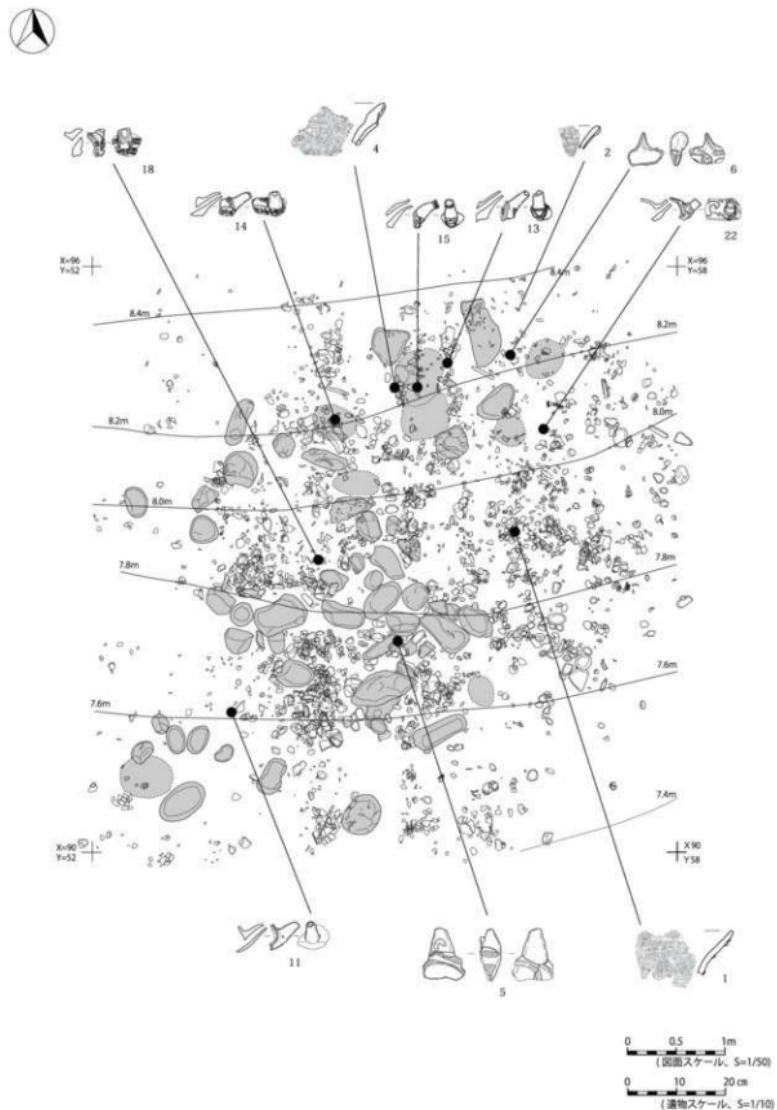
24～27は鉢の口縁部片で、沈線と刺突による精緻な羊歯状文を施す。

7) 第6群土器（図III-2-4-5）

28・30は深鉢、29は鉢の口縁部片で、沈線と刺突による退化した直線的な羊歯状文を施す。31は台付深鉢で口唇部にB状突起、口縁部には平行沈線と突起を施す。体部はLR縄文を施す。32～34は浅鉢で、体部に磨消縄文による雲形文を施す。32は口縁部に平行沈線、体部にRL縄文を施す。33・34は口縁部に平行沈線と刻目列、体部にLR縄文を施す。

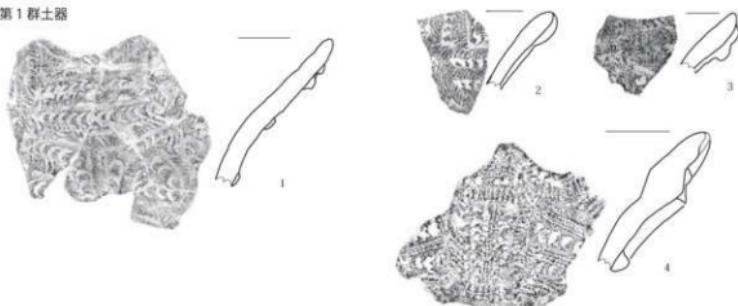
8) 第7群土器（図III-2-4-5～7）

SX01の形成時期であり、最も多くの土器が出土している。35・37は半精製深鉢、36・38は半精製鉢、39は精製浅鉢、40は粗製壺、41・42・44は精製壺、43・45・46は注口土器、47は香炉形土器である。35は口唇部に刻目、口縁部に平行沈線、体部には縦位のRL縄文を施す。36は口唇部に刻目、口縁部に平行沈線を入れ、内部に刻目を施している。体部は条痕文が施されている。37は口唇部に山形

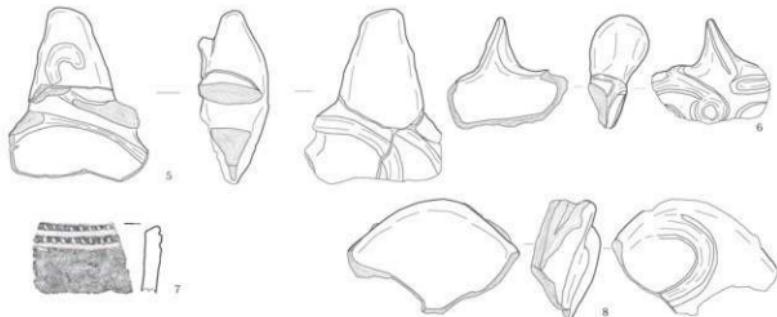


図III-2-4-2 SX01 口縁部突起・注入部の分布状況

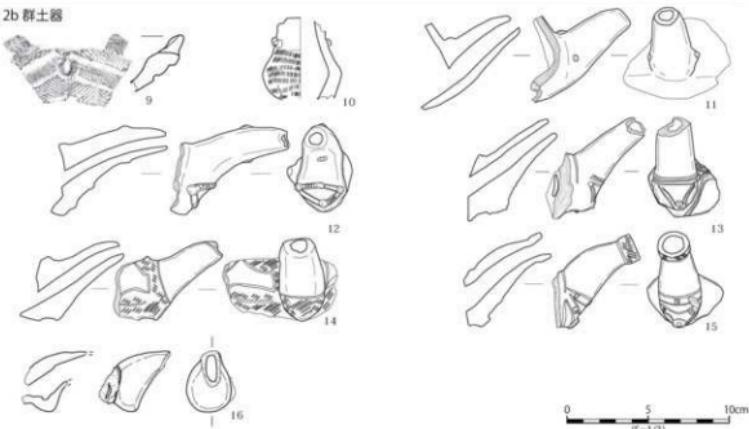
第1群土器



第2a群土器



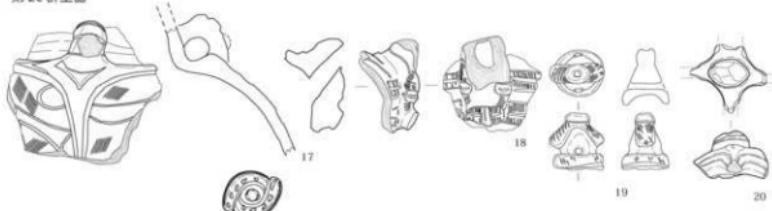
第2b群土器



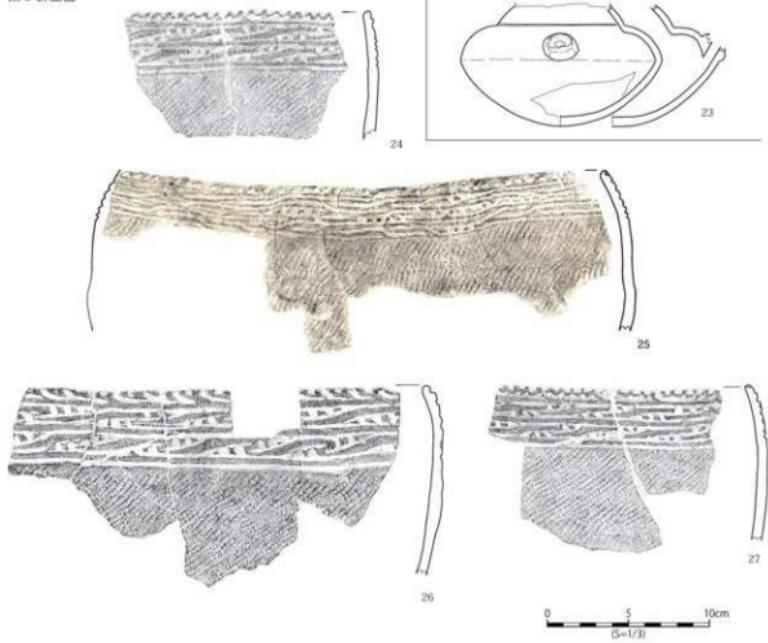
0 5 10cm
(5=1/3)

図III-2-4-3 SX01出土土器(1)

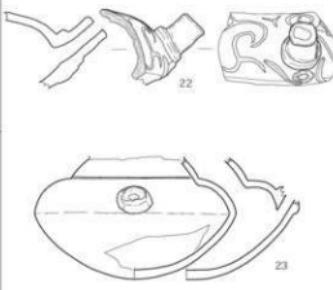
第2c群土器



第5群土器



第4群土器



图III-2-4-4 SX01出土土器(2)

第6群土器



28



29



31



32

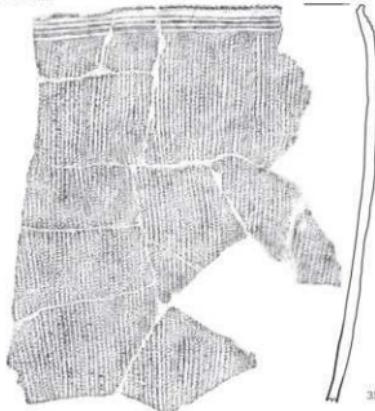


33

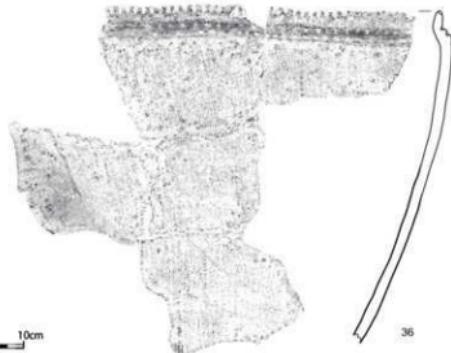


34

第7群土器



35

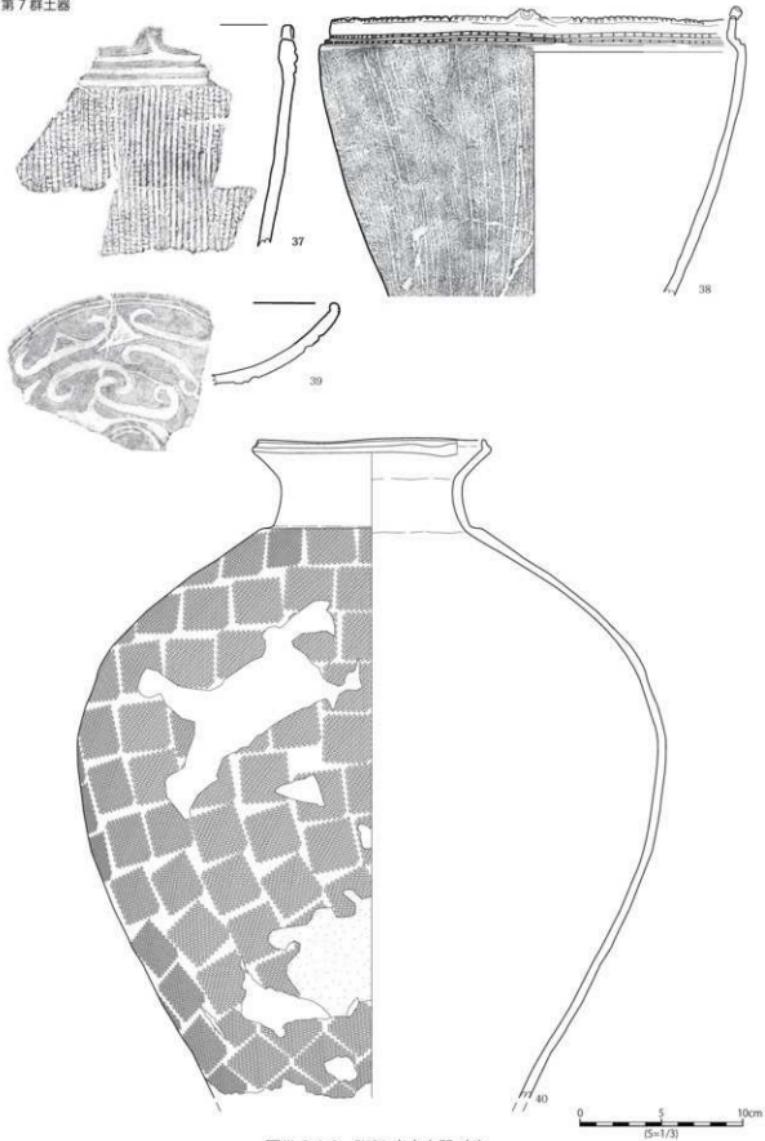


36

0
5
10cm
(S=1/3)

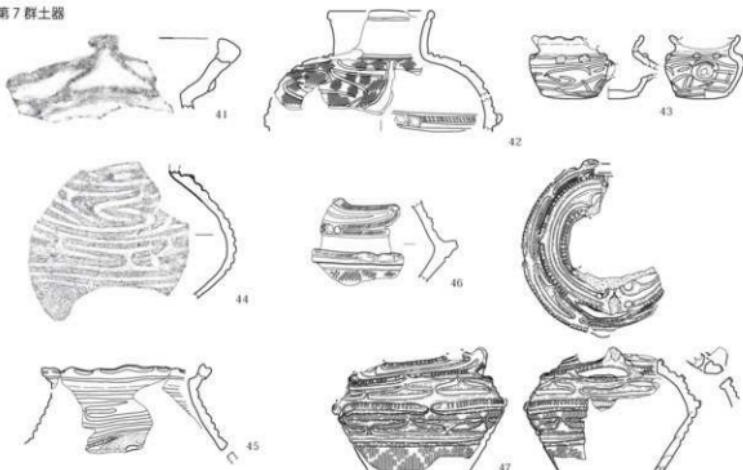
図III-2-4-5 SX01出土土器(3)

第7群土器

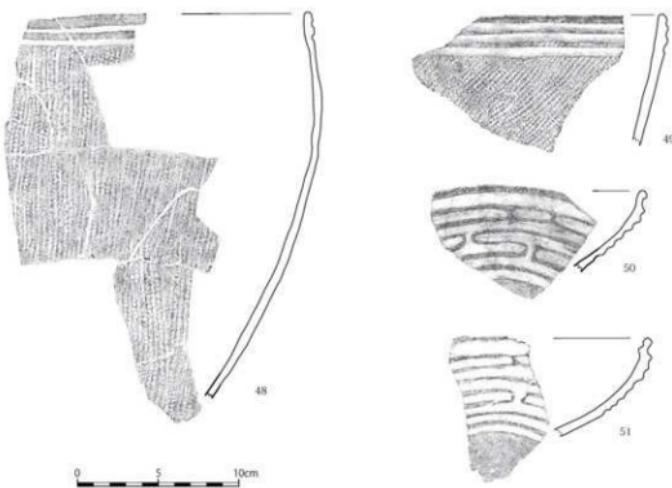


図III-2-4-6 SX01 出土土器 (4)

第7群土器

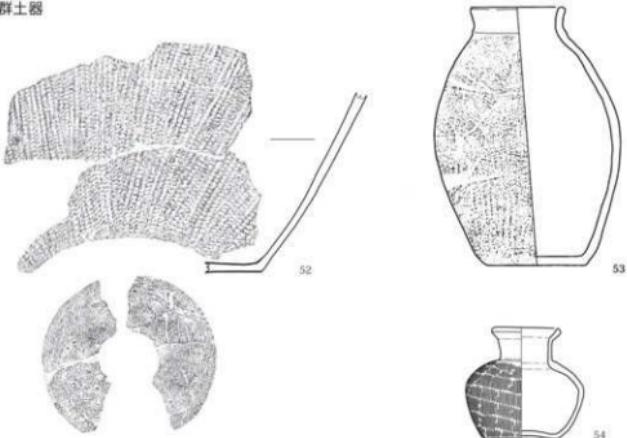


第8群土器



図III-2-4-7 SX01出土土器(5)

第3～8群土器



第9b群土器



図III-2-4-8 SX01出土土器(6)

突起、口縁部に3条の平行沈線を施す。体部には縦位のLR繩文を施す。38は口唇部に頂部が凹む山形突起に刻目、口縁部に平行沈線を入れ、内部に刻目文を施している。体部は条痕文が施されている。39は平口縁で、口縁部に二重沈線、体部に雲形文が施されている。40は体部にLR斜行繩文が施されている。41は口縁部に三角状の彫去がみられる。42は体部中央に二重沈線間に刻目文があり、肩部に聖山式特有の連繫入組文が施される。43は体部上半に突起を配し、体部には42と同様の連繫入組文が配される。44も同様に入組文が施される。45は多重沈線文が施される。46・47は工字文が施される。

第8群土器（図III-2-4-7）

48・49は半精製の深鉢であり、口縁部に平行沈線が施される。50・51は精製浅鉢であり、平口縁で、口縁部に平行沈線、体部に工字文が施される。

第3～8群土器（図III-2-4-8）

52は深鉢の体部～底部にかけての個体であり、RLの縦走繩文が施され、底部に穿孔がみられる。53・54は粗製壺であり、いずれも体部のRLの縦走繩文が施される。

第9b群土器（図III-2-4-8）

55は粗製深鉢であり、口縁部に横位連続刺突文が施される。

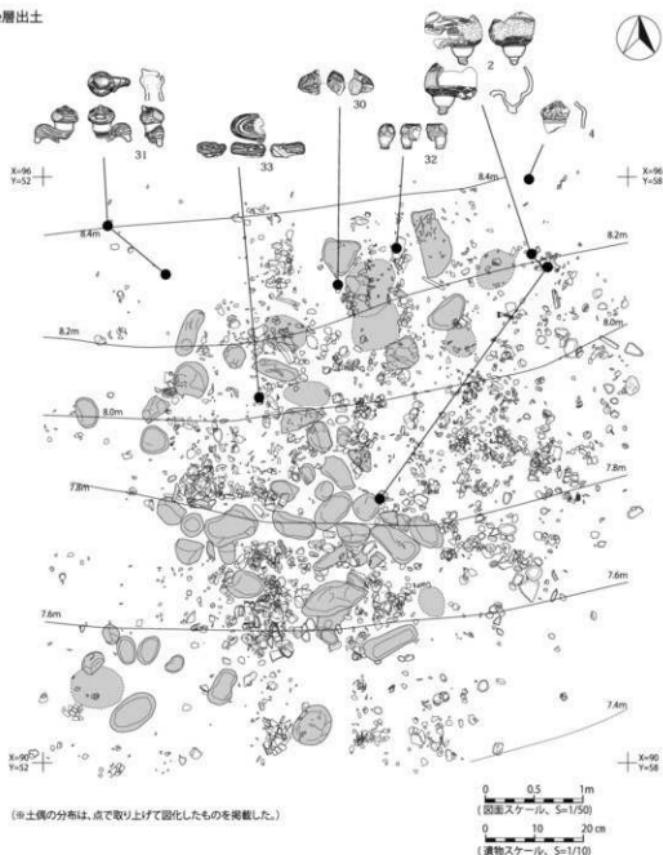
(3) 土偶

SX01からは100点の土偶片が出土しており、合計62点を図化した。ここでは土偶分類ごとに下層から順に土偶を掲載した。また、層別別の土偶分布図も合わせて掲載した。なお、土偶分類の詳細については第4章3節を参照いただきたい。また、未掲載の資料38点の内訳は土偶1類34点、土偶3類4点であった。

1) 分布状況(図III-2-4-9~11)

SX01から出土した土偶について、地点を記録して図化したものと土偶分布状況として掲載した。前述したように各層位ごとに1~3類とした土偶が万遍なく出土しており、層位による分類の違いは

II d・e層出土

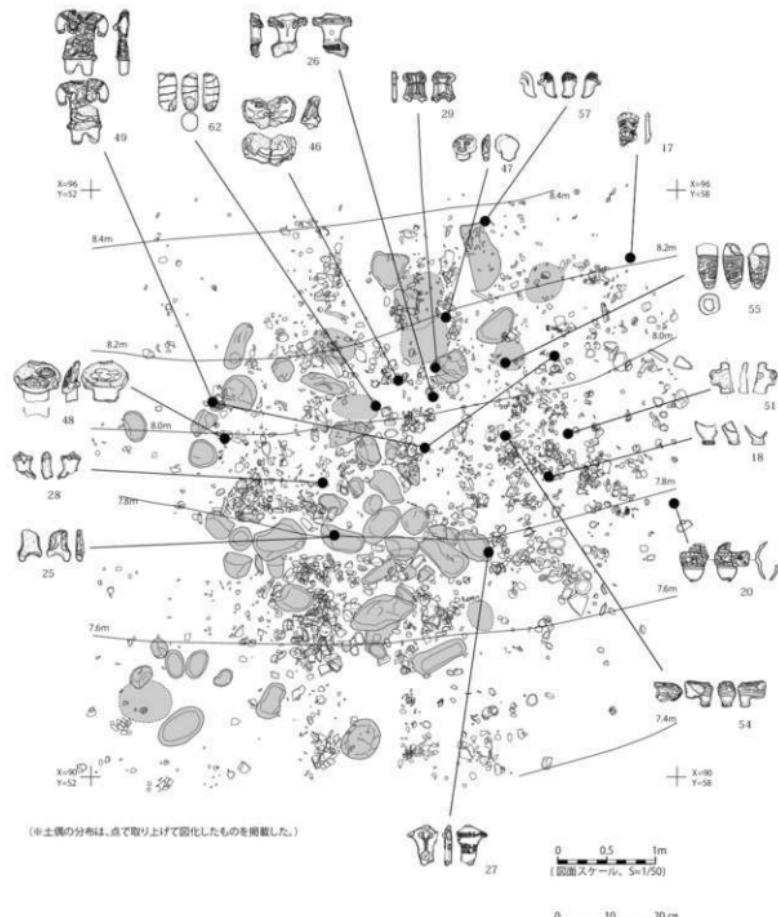


IIc層出土



図III-2-4-10 SX01出土土偶の分布状況(2)

II b層出土



図III-2-4-11 SX01出土土偶の分布状況(3)

認められなかった。ただし、II d・e 層では、SX01 の北半に分布していたものが、II c 層、II b 層の段階になると、SX01 全体から出土する傾向にあるといえる。

1) 土偶 1 類（図III-2-4-12～13）

土偶 1 類は遮光器土偶であり、20 点を図化した（1～20）。すべて中空土偶である。土偶 1 類は II d・e 層、II c 層、II b 層から出土している。特徴はすべての土偶の表面が磨滅していることである。土偶の胎土による違いなのか、或いは飛砂による影響で土偶表面が砂で洗われた結果なのか判断は難しい。下層から出土した土偶も磨滅しており、遮光器土偶が長期に渡って使用された可能性も考えられる。1 は胴～脚、2 は胴～腕、3～7・10・12・14～17・20 は胴、8・9・18 は脚、11・19 は腕、13・14 は頭の部位である。特に 13 は大型の遮光器土偶で王冠状の頂部を持つ頭部片であり、隣接する亀ヶ岡遺跡の遮光器土偶（重文）と類似するものである。

2) 土偶 2 類（図III-2-4-14）

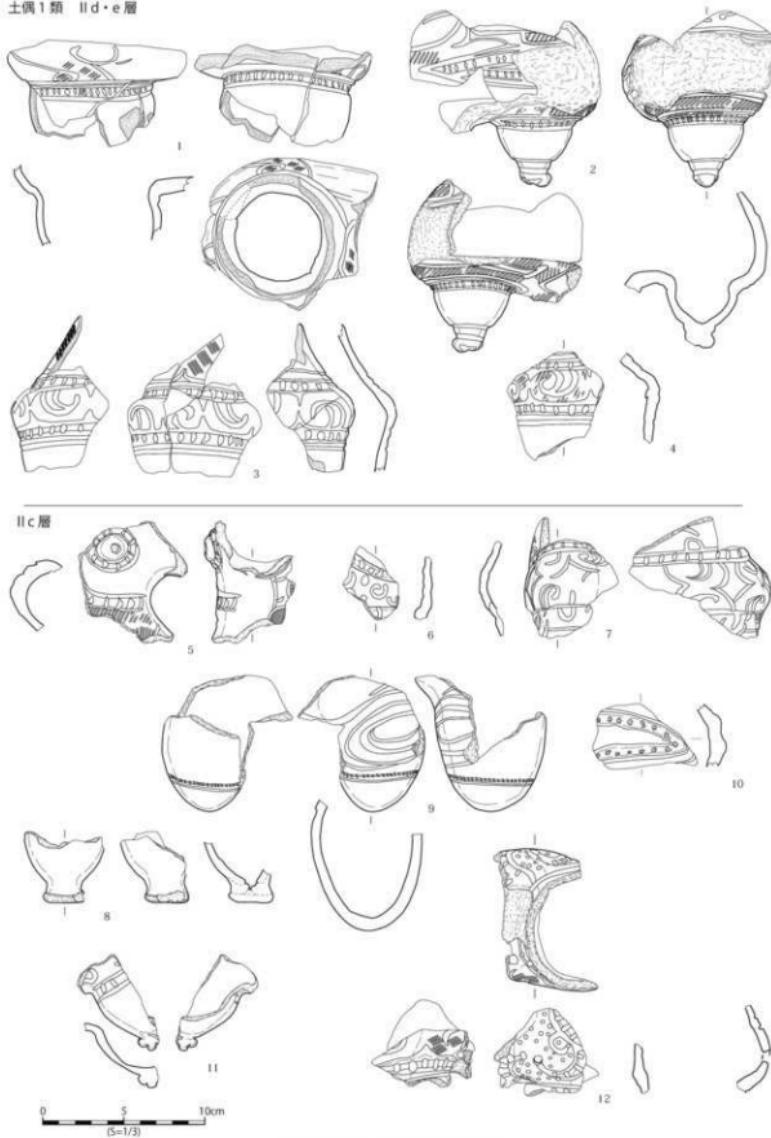
土偶 2 類は X 字形土偶であり、合計 9 点を図化した（21～29）。個体識別も容易であり、少なくとも図化した 9 個体分がある。土偶 2 類も II d・e 層、II c 層、II b 層から出土している。25 は全体に磨滅しているが、それ以外は磨滅しない良好なものである。また、28 は中空土偶であり、それ以外はすべて中実土偶である。28 は胴、21・25・29 は胴～脚、26・27 は胴～腕、23・24 は頭～胸～腕、22 は接合後に完形となった。22 は右の乳房、23 は割れ口にそれぞれアスファルトが付着している。

3) 土偶 3 類（図III-2-4-15～17）

土偶 3 類は遮光器土偶や X 字形土偶以外のものである。さまざまなタイプや特徴を持っているが、破片資料のため判別・細分が難しい。33 点を図化した（30～62）。土偶 3 類も II d・e 層、II c 層、II b 層から出土している。34・37・38・53・55・56・61 は磨滅しているが、それ以外は磨滅しない良好なものである。32・37・39・43～45、52・54・55・57～59 は中空土偶であり、それ以外はすべて中実土偶である。34～39・46～48・50・51 は頭、30・33・40～43・53・59・61・61 は胴、44・56 は腕、32・54・55・57・58・60 は脚、31 は頭～胸～腕、45 は胴・脚、49 は胸～腕～脚、52 は胴～腕の部位である。31 には頭頂部と割れ口にアスファルトが付着している。51 には割れ口にアスファルトが付着している。個体識別は容易ではないが、頭部による個体識別によると少なくとも 12 個体分はあるので、実際にはもっと多いのであろう。土偶 3 類の特徴的なことは 30・33・36・38・40・50・59・62 のように体部や顔に刺突文を施すタイプが存在することである。また、34・37・46・48 は大型の頭部片であり、このように大型土偶が多く廃棄されたことが分かる。また、45 も大型中空土偶の胴部破片であるが、著保内野遺跡（北海道函館市）出土の中空大型土偶（国宝）の胴部に類似しており、縄文後期の可能性がある。

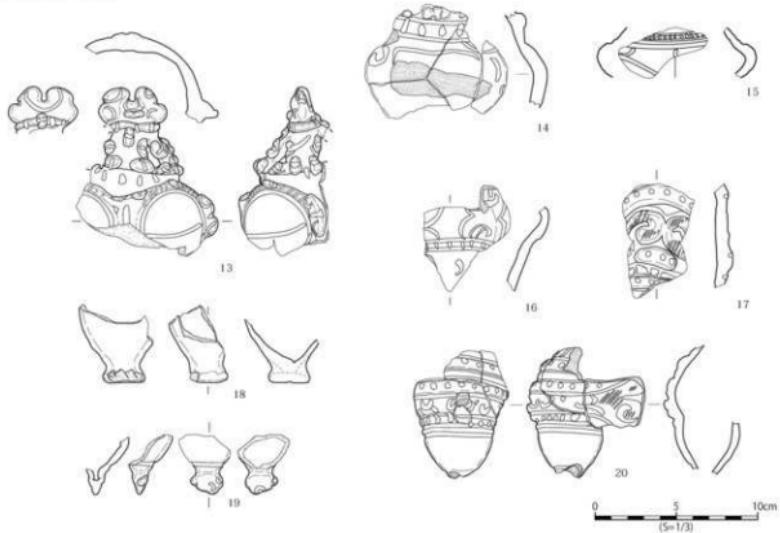
（柳原）

土偶1類 II d・e層



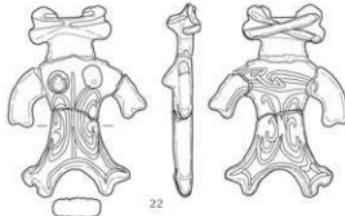
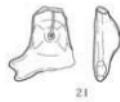
図III-2-4-12 SX01出土土偶(1)

土偶 1 類 II b 層



図III-2-4-13 SX01出土土偶(2)

土偶 2類 II d・e層



II c 層



23



24



II b 層



25



26



27



28

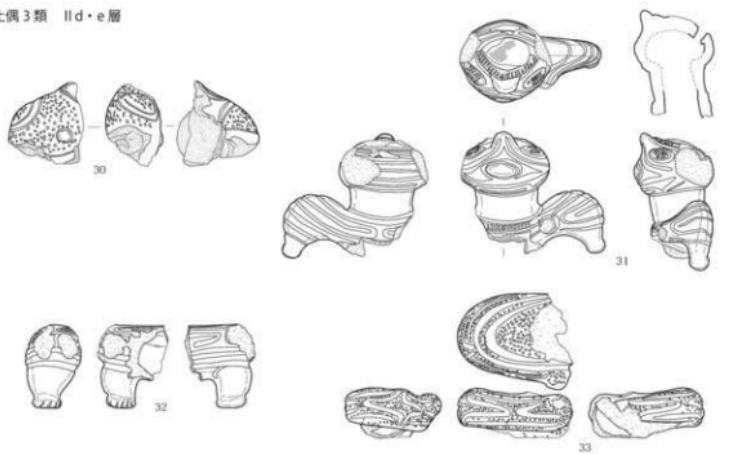


29

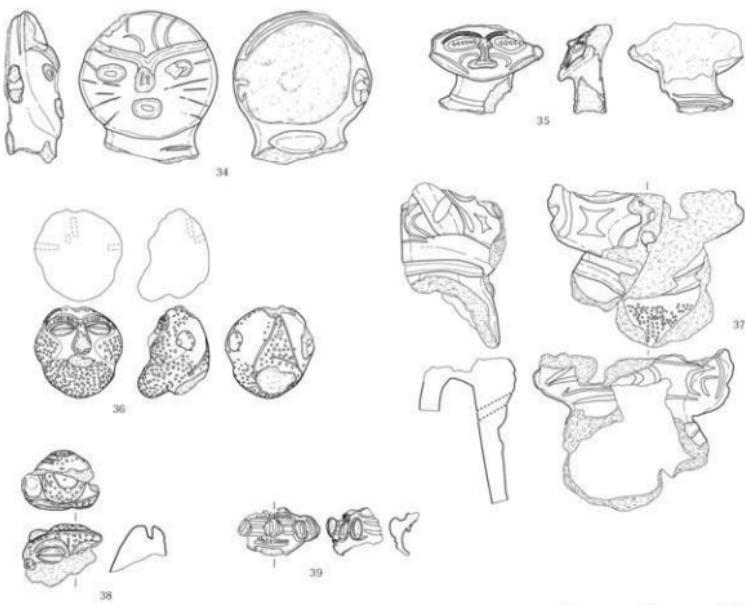


図III-2-4-14 SX01出土土偶(3)

土偶 3 類 II d + e 層

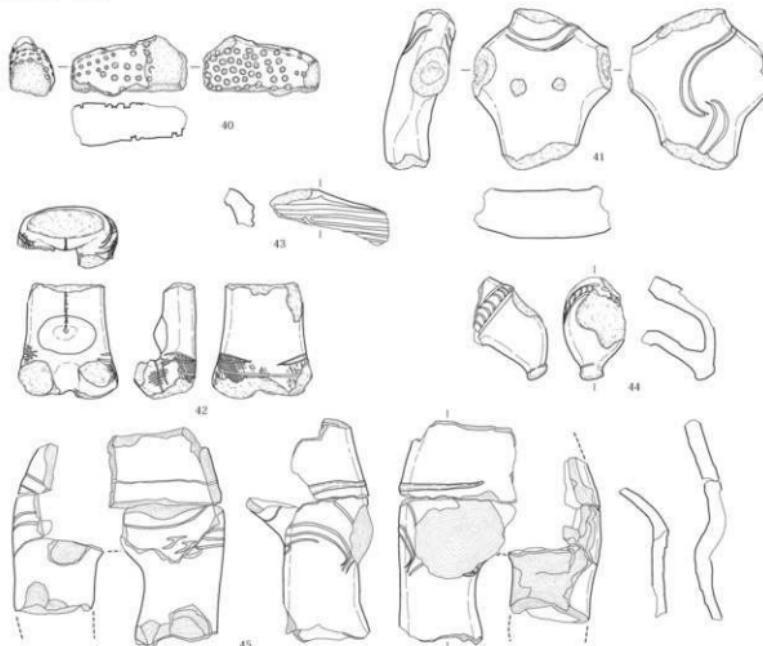


II c 層

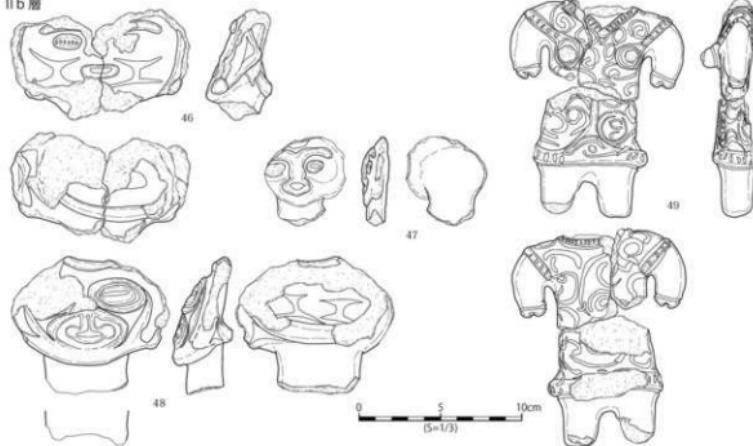


図III-2-4-15 SX01出土土偶(4)

土偶 3種 IIc層

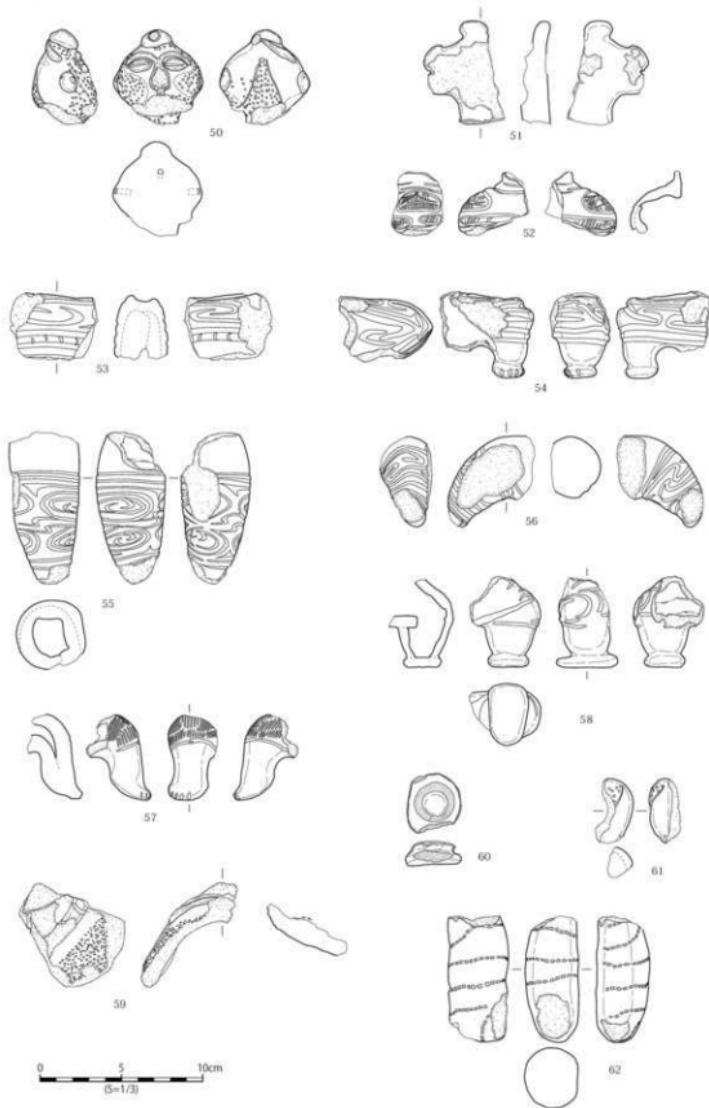


IIb層



図III-2-4-16 SX01出土土偶(5)

土偶 3 類 II b 層



圖III-2-4-17 SX01出土土偶(6)

(4) 土製品(図III-2-4-18・19)

土製品はミニチュア土器、円板状土製品、土製耳飾、環状土製品、土錘、土冠、動物形土製品、不明土製品がある(図III-2-4-18・19)。

円板状土製品は7点出土した(1~6)。1~4は無孔、5・6は有孔である。土器片再利用がほとんどであるが、1は粘土塊から作られる。2~6は深鉢もしくは鉢の胴部を利用する。土製耳飾は6点ある(7~12)。径2cm以上の円柱形(I類・VI類)と小型のキノコ形(IV b類)がある。7・11には三叉文、8にはC字文が施される。10は赤色顔料が塗布される。14は土錘で表面に十字の沈線、裏面に短軸方向の沈線を施す。15はミニチュア土器で壺形である。16・17は土製玉類である。全て径5mm程度の丸玉である。

18は土冠の頭部とみられる。入組三叉文が施される。19は動物形土製品の一部である。20は頭部でブタ鼻であることからイノシシ形と判断される。13・20~22は不明土製品である。いずれも破片のため全体形の復元が困難であった。13は破断面にアスファルトが付着する。土器の突起の可能性がある。20・21は容器形であるが中空土偶の一部の可能性がある。22は脚部の可能性があり破断面にアスファルトが付着する。

(上條信彦)

(5) 石器・石製品(図III-2-4-26~42)

1) 概要

9,471点、571.2kgの石器を検出した。数量は剥片・碎片5,514点、搬入礫2,919点が多くを占め、他の集中区に比べ異形礫が279点と多い特徴がある。生業にかかわる石器は、609点で全体の7%である。このうち、剥片石器は尖頭器、石鎚などの定型石器125点、小型石錐、スクレイバーなどの不定形石器295点がある。また、石皿・台石類などの礫石器は188点ある。他の集中区に比べ、小型石錐と磨石・敲石類の割合が高い。

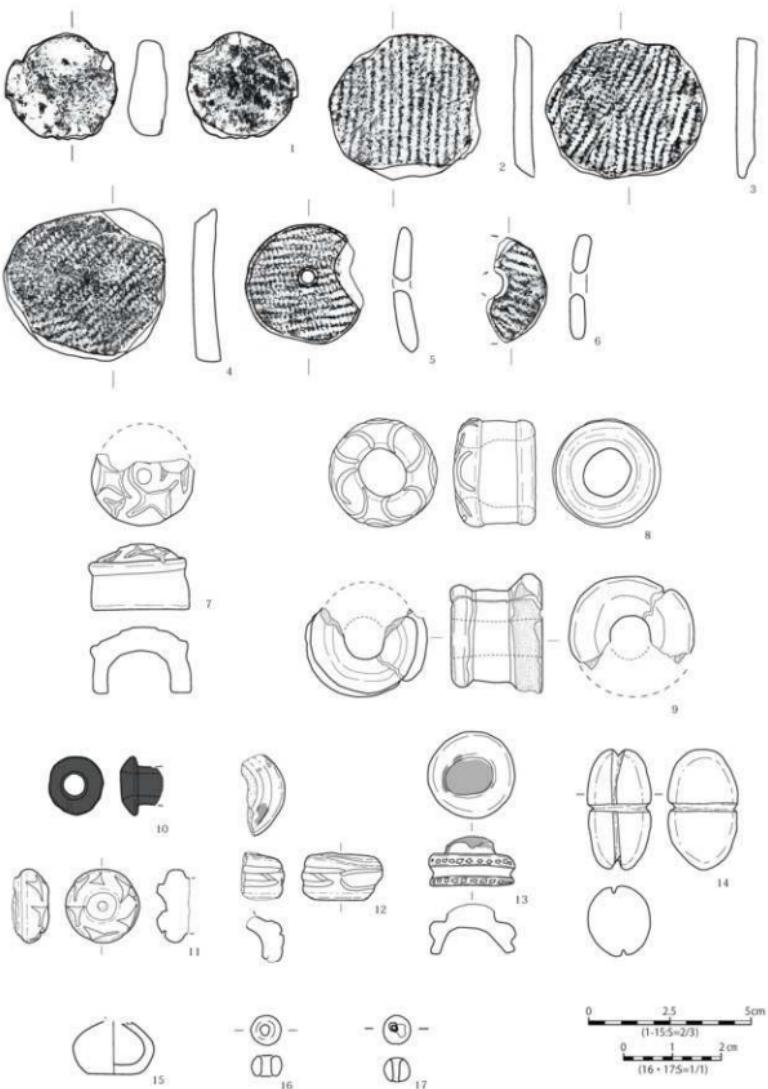
剥片定型石器は尖頭器7点、石鎚85点、石錐16点、石匙11点、石鎗6点で、石鎚が68%を占める。不定形の剥片石器はスクレイバー18点、微細剝離のある剥片186点、メノウ製を主とする小型石錐56点、小型スクレイバー35点である。礫石器は磨石・敲石類142点、石皿・台石類23点、砥石21点である。磨石・敲石類は側面に敲打痕のあるタイプが96点と、磨耗痕のあるタイプ18点が他に比べて多い。

石器製作に関わる核石・剥片・碎片は、5,541点で点数全体の58%を占める。

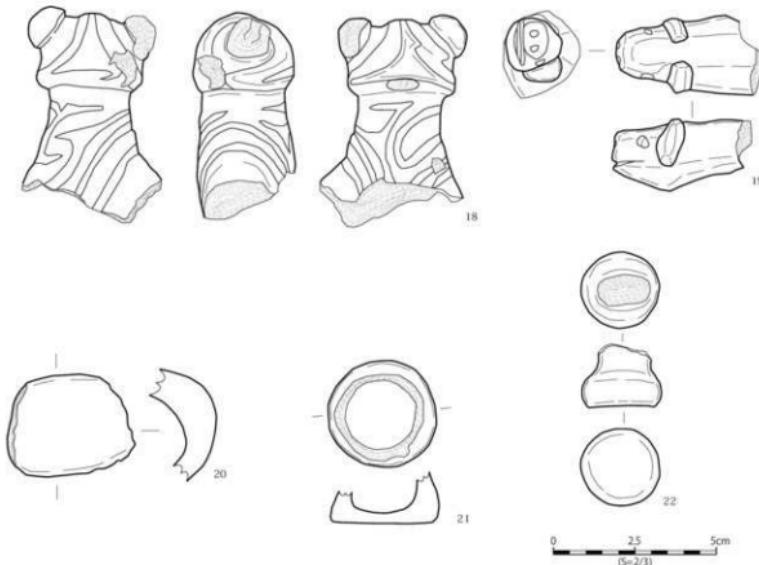
異形礫はくびれ石98点、バナナ状礫52点といった曲線を基本とする礫が多い。また棒状礫のほとんどは柱状節理のもつ安山岩製の石棒とみられる。このほか凹みのある碗状礫10点、凸凹が多数ある凹凸礫17点や礫岩12点、自然作用により穴の開いた有孔礫29点がある。

搬入礫は2,919点で点数全体の33%をしめる。内訳は円礫117点・亜円礫2,769点・扁平礫33点ある。ほとんどは硬質の安山岩、頁岩であり、石器の素材あるいはハンマーとして搬入されたとみられる。

層位ごとにみると(図III-2-4-20・21)、上層のII b層から下層のII d・e層にかけて割合が高くなる石器は石鎚、石匙、磨石・敲石類である。磨石・敲石類は磨石類や凹+敲石類が高くなる。一方、下層にかけて低下する石器はスクレイバー、メノウを主とする小型石錐や小型スクレイバーである。同様に異形礫・搬入礫も上層のほうの割合が高く、なかでも異形礫は上層のほうの割合が高い。また石棒



図III-2-4-18 SX01出土土製品(1)



図III-2-4-19 SX01出土土製品(2)

や石冠は上層で認められる。石器の機能をふまえると、下層では狩獵や採取活動に伴う石器が多いのに対し、上層では玉造りや祭祀などの社会的・精神性にかかわる活動に伴う石器が多く、これにSX01に数多い巨礫が伴うとみられる。

刀剣形石製品（石棒・石剣・石刀）の分布をみると（図III-2-4-22）、多くは破片であり、巨礫の隙間に散布していることが分かる。5の石棒は、破片どうし2mほど離れた箇所にあるものが接合する。

磨石・敲石類の分布をみると（図III-2-4-23）、巨礫群のなかに集中する傾向にあるが、巨礫以外の場所にも広く散布する。分類別にみると、表裏面に凹痕と磨耗痕、側面に敲打痕が観察されるタイプが巨礫群の中央に多いのに対し、表裏面に磨耗痕のみ、あるいは側面に敲打痕のみの使用痕の発達が弱いものが巨礫群の周辺に分布する傾向がある。

また、くびれ石（図III-2-4-24）や有孔礫（図III-2-4-25）といった異形礫の分布は巨礫群のなかに集中し、意図的な攢入がうかがわれる。

表III-2-4-1 SX01 種類別の石礫総重量（大型礫は除く）

① II b 層出土		② II c 層出土		③ II d・e 層出土							
	種類	個数	重さ(g)		種類	個数	重さ(g)		種類	個数	重さ(g)
剥片石器	尖頭器	5	51		尖頭器	1	31.8		尖頭器	1	5
	石鏟	30	—		石鏟	30	—		石鏟	25	—
	石鋸	12	26		石鋸	1	0.6		石鋸	3	13
	小型石鏟	39	—		小型石鏟	14	—		小型石鏟	3	—
	石匙	3	38		石匙	3	33		石匙	5	117
	石鋸	5	36		石鋸	1	8		石鋸	0	0
	スクレイパー	12	74		スクレイパー	3	17		スクレイパー	3	28
	微細刻離のある剥片	103	817		微細刻離のある剥片	49	509		微細刻離のある剥片	34	602
	小型スクレイバー	31	—		小型スクレイバー	3	—		小型スクレイバー	1	—
	磨石	4	1,794		磨石	7	2,744		磨石	5	2,153
磨石・敲打石類	円	20	14,569		円	4	2,792		円	6	3,201
	円+敲	13	9,533		円+敲	4	3,290		円+敲	12	3,579
	磨+敲	—	—		磨+敲	1	126		磨+敲	1	440
	敲	37	16,265		敲	13	3,532		敲	15	2,674
	円石	11	800		円石	0	0		円石	0	0
石皿・台盤	石皿	7	3,219		石皿	0	0		石皿	2	100,400
	台石	3	1,211		台石	1	111		台石	1	1,187
	台石敲	7	18,865		台石敲	1	1,909		台石敲	1	374
	砥石	10	2,278		砥石	9	5,478		砥石	2	204
	石鍬	1	1,000		石鍬	1	103		石鍬	0	0
石製品	石棒	6	3,909		石棒	0	0		石棒	0	0
	石刀	1	321		石刀	1	20		石刀	2	257
	石劍	2	242		石劍	0	0		石冠	0	0
	玉類	2	1		玉類	0	0		玉類	18	12
	線刻鑿	1	1,000		線刻鑿	0	0		線刻鑿	1	52
石片・核・砂利片	ボタン状石製品	0	0		ボタン状石製品	0	0		ボタン状石製品	1	4
	卵形石製品	2	2,292		卵形石製品	0	0		卵形石製品	0	0
	石核	14	1,020		石核	4	261		石核	3	193
	剥片	239	3,656		剥片	250	1,655		剥片	124	1,070
	砂利片	2,006	36,421		砂利片	1,960	14,456		砂利片	935	4,533
鉱物	ベンガラ	13	3,972		ベンガラ	10	1,385		ベンガラ	4	233
	アスファルト	1	93		アスファルト	0	0		アスファルト	0	0
	水晶	1	1		水晶	0	0		水晶	0	0
	メノウ	25	4,786		メノウ	29	2,710		メノウ	11	604
	有孔鑿	21	7,273		有孔鑿	0	0		有孔鑿	8	861
異形礫	軽石	1	148		軽石	1	320		軽石	0	0
	球石	0	0		球石	0	0		球石	1	51
	くびれ石	78	19,466		くびれ石	16	2,748		くびれ石	4	595
	スタンプ形礫	8	2,885		スタンプ形礫	4	1,098		スタンプ形礫	0	0
	凹凸礫	12	8,257		凹凸礫	5	3,636		凹凸礫	0	0
搬入礫	柱状礫	7	3,969		柱状礫	3	1,585		柱状礫	0	0
	(粗製石棒)	—	—		(粗製石棒)	—	—		(粗製石棒)	—	—
	バナナ状礫	37	13,140		バナナ状礫	11	5,163		バナナ状礫	4	493
	棒状礫	7	835		棒状礫	2	121		棒状礫	1	146
	塊岩	7	4,632		塊岩	2	430		塊岩	3	263
搬入礫	腕状礫	22	3,990		腕状礫	12	1,947		腕状礫	4	286
	円礫	55	14,497		円礫	31	6,883		円礫	31	4,263
	亜円礫	1,326	110,949		亜円礫	865	37,404		亜円礫	578	18,568
	扁平礫	18	1,574		扁平礫	9	827		扁平礫	6	540
	計	4,255	319,903		計	3,361	103,332		計	1,855	147,997

—:未計測資料

表III -2-4-2 SX01 種類別の石礫
総重量（大型礫は除く）

分類別の総重量（①+②+③）		
	種類	個数
剥片石器	尖頭器	7
	石礫	85
	石錐	16
	小型石錐	56
	石匙	11
	石鏡	6
	スクレイパー	18
	微細削離のある剥片	186
	小型スクレイパー	35
	磨	—
磨石・磨石類	磨	16
	門	30
	門+鏡	29
	磨+鏡	2
	石頭	65
台石類	石頭	22,471
	門石	1
	台石	9
	台石鏡	5
	鏡	21
石棒・石製品	石棒	2
	石棒	6
	石刀	4
	石冠	2
	玉類	20
石片・砂利片	線刻鑽	2
	ボタン状石製品	1
	鏡形石製品	2
	石核	21
	石核	613
鉱物	砂片	4,901
	ベンガラ	27
	アスファルト	1
	水晶	1
	メノウ	65
異形礫	有孔礫	29
	軸石	2
	球石	1
	くびれ石	98
	スタンプ形礫	12
搬入礫	円凸礫	17
	柱状礫	10
	バナナ状礫	52
	棒状礫	10
	礫岩	12
計	腕状礫	38
	円礫	117
	亜円礫	2,769
	扁平礫	33
	計	9,471

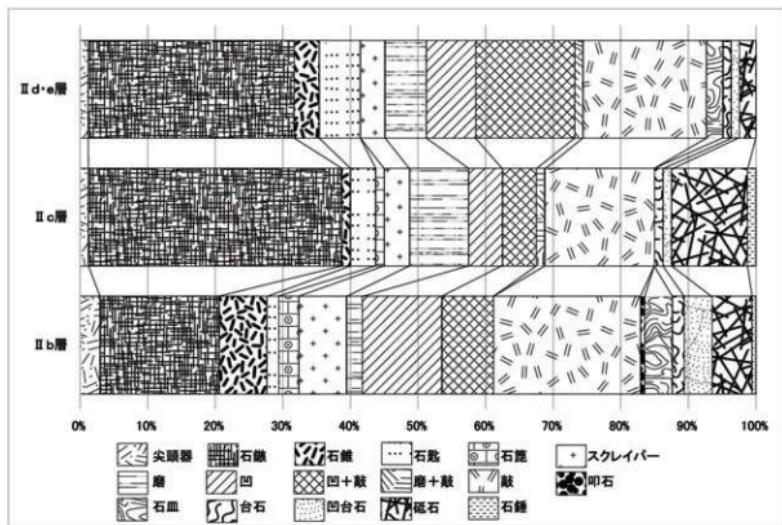
—：未計測資料

表III -2-4-3 SX01 グリッド別の礫石
総重量（大型礫を含む）

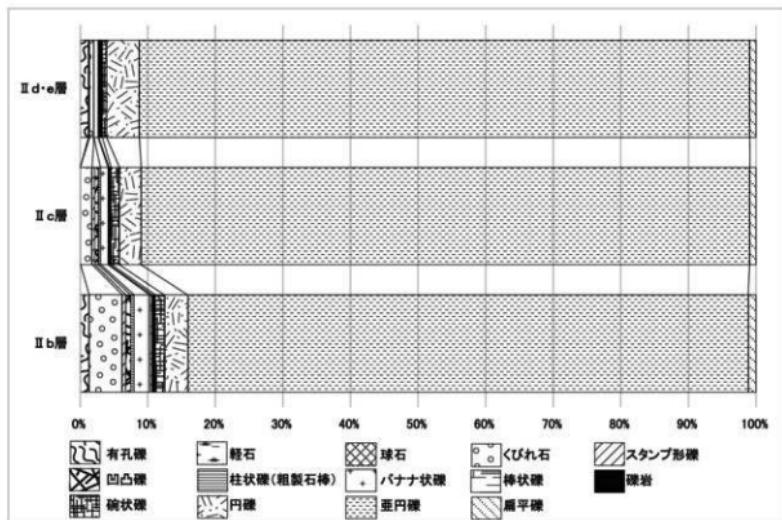
X	Y	重さ(g)
92	54	65,061.6
92	56	134,985.1
92	58	14,595.1
94	54	95,247.6
94	56	160,238.8
94	58	58,966.9
96	54	17,636.3
96	56	94,401.3
96	58	36,912.6
合計		678,045.9

表III -2-4-4 SX01 各層位における礫石器の分類別点数

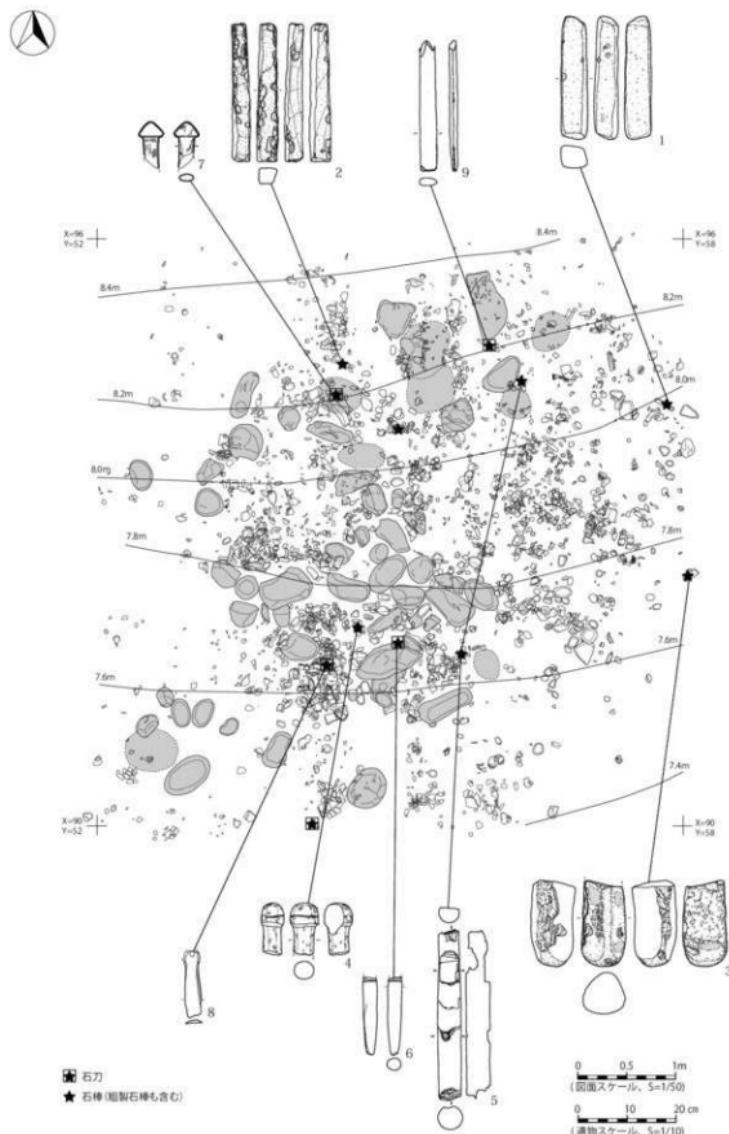
	種類	個数	個数	
			II b 層	II c 層
剥片石器	尖頭器	5	1	1
	石礫	30	30	25
	石錐	12	1	3
	小型石錐	39	14	3
	石匙	3	3	5
	石鏡	5	1	0
	スクレイパー	12	3	3
	微細削離のある剥片	103	49	34
	小型スクレイパー	31	3	1
	磨	4	7	5
磨石・磨石類	門	20	4	6
	門+鏡	13	4	12
	磨+鏡	1	1	1
	鏡	37	13	15
	叩石	1	0	0
	石皿	7	0	2
	台石	3	1	1
	門台石	7	1	1
	砥石	10	9	2
	石鍬	1	1	0
石製品	石棒	6	0	0
	石刀	1	1	2
	石冠	2	0	0
	玉類	2	0	20
	線刻鑽	1	0	1
石片・砂利片	ボタン状石製品	0	0	1
	鏡形石製品	2	0	0
	石核	14	4	3
	砂片	239	250	124
	砂片	2,006	1,960	935
鉱物	ベンガラ	13	10	4
	アスファルト	1	0	0
	水晶	1	0	0
	メノウ	25	29	11
	有孔礫	21	0	8
異形礫	軸石	4	1	0
	球石	0	0	1
	くびれ石	78	16	4
	スタンプ形礫	8	4	0
	円凸礫	12	5	0
搬入礫	柱状礫（粗製石棒）	7	3	0
	バナナ状礫	37	11	4
	棒状礫	7	2	1
	礫岩	7	2	3
	腕状礫	22	12	4
計	円礫	55	31	31
	亜円礫	1,326	865	578
	扁平礫	18	9	6
	計	4,255	3,361	1,855



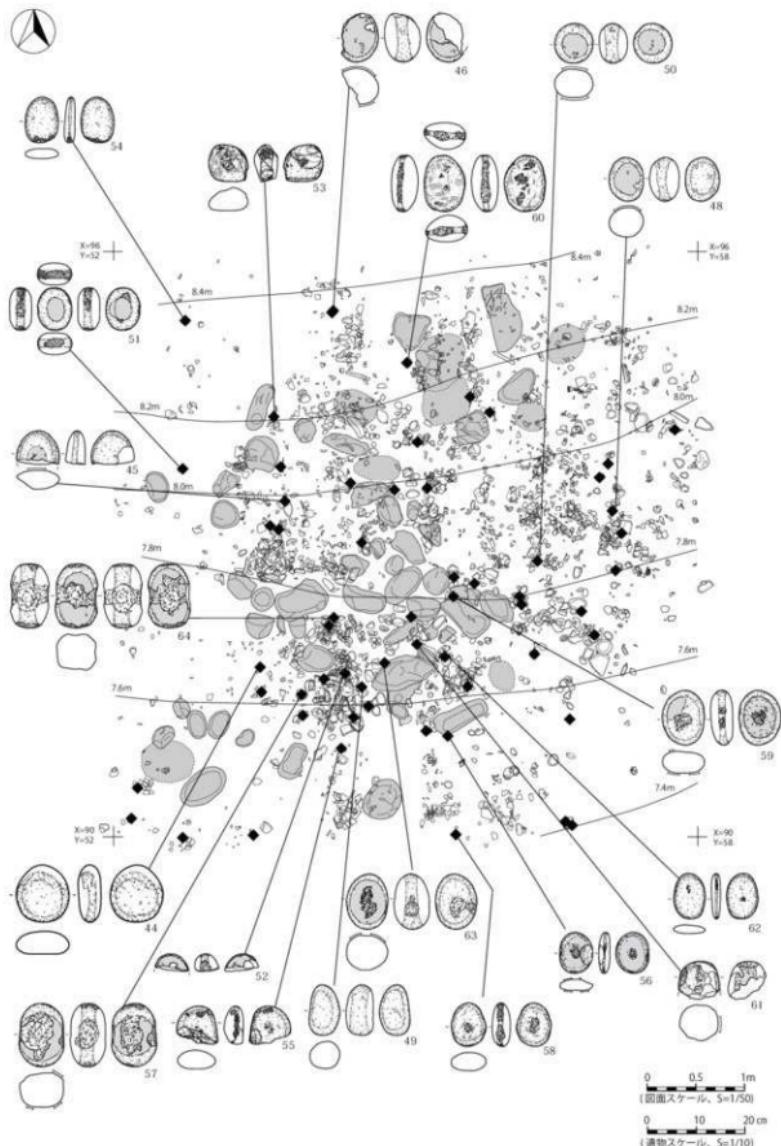
図III-2-4-20 SX01 層位別の石器組成



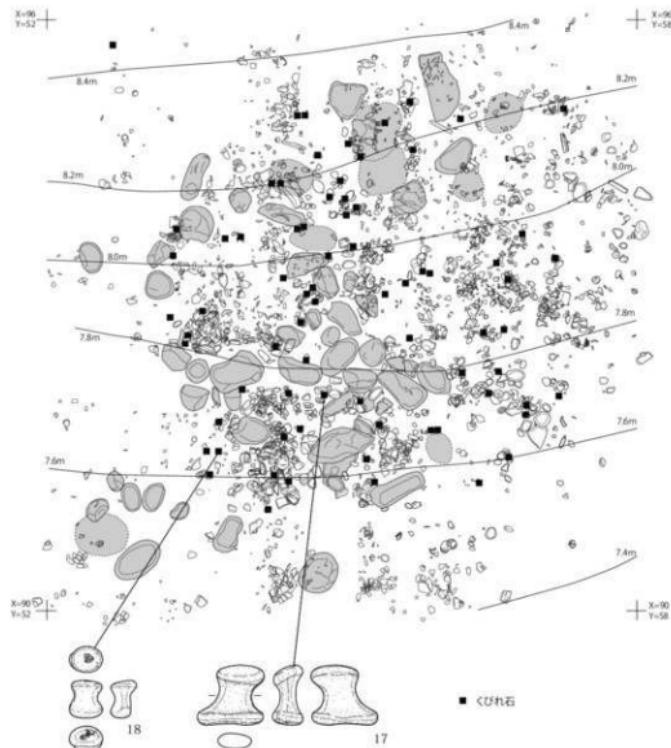
図III-2-4-21 SX01 層位別の搬入碟・異形碟組成



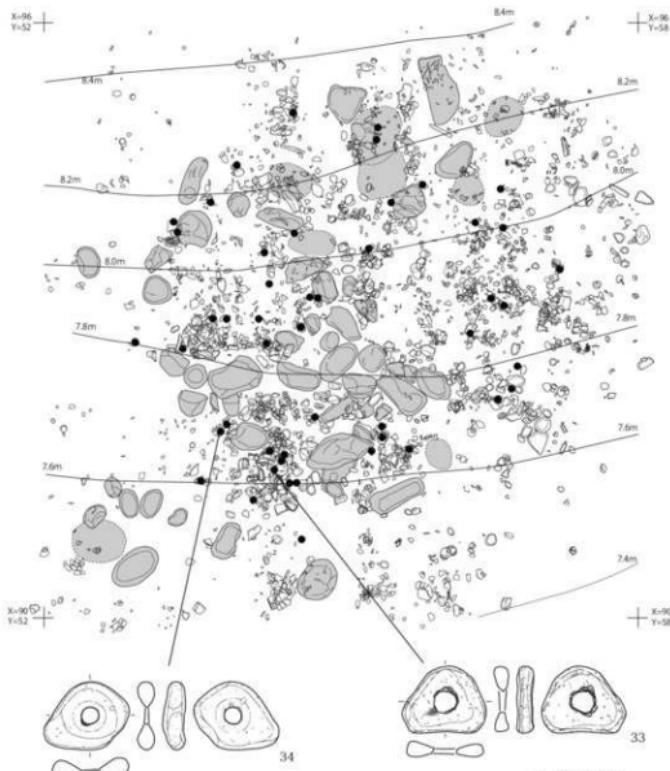
図III-2-4-22 SX01 刀剣形石製品の分布状況



図III-2-4-23 SX01 磨石・敲石類の分布状況



図III-2-4-24 SX01 くびれ石の分布状況



0 0.5 1m
(底面スケール、S=1/50)

0 10 20 cm
(遺物スケール、S=1/10)

図III-2-4-25 SX01 有孔礫の分布状況

2) 石器（図III-2-4-26～34）

尖頭器は7点出土した。形態分類別の内訳は木葉形4点、山形2点、菱形1点である。1は、平面形は菱形である。

石鏃は85点出土し、うち19点を図示した（2～20）。2～18は凸基有茎鏃である。うち、2は凸基辺が直線になるa類、3～17は凸基辺が内湾するb類、18は全体形が棒状を呈するc類である。19・20は破損のため基部が不明である。

2は下半をやや大きく剥離し、先端になるほど細かく剥離する。5・7・9の基部にはアスファルトが付着する。凸有c類の18は、刃部が左側辺は直線刃であるのに対し、右側辺は中央で屈曲する。

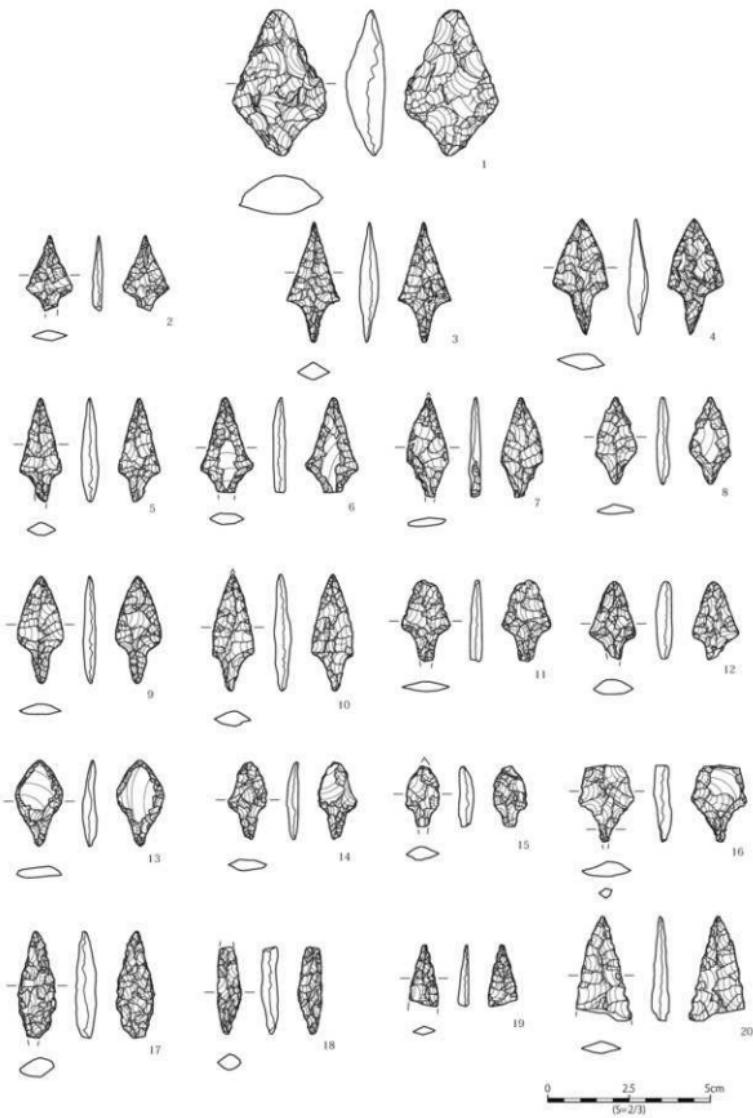
21・22は石錐である。21は頭部を欠く。22は上下端に錐部がある。23は石箇で下辺に向かつて台形状に広がる。24～29はメノウ製の小型石錐である。いずれもクサビ形石器を利用する。24・25は棒状で、下端が磨耗する。26～29は短冊形・三角形の縦型剝片の先端に磨耗痕がある。30～34は石匙である。30・31は横型、32は縦型、33・34は斜形である。33はメノウ製である。35～37はスクレイバーである。3点とも横形剝片で下辺に刃部形成される。うち35は本調査で検出された最大のスクレイバーで長さ23cmである。38～42は長さ2cm未満のメノウ製の小型スクレイバーである。小型石錐と同じ大きさで短冊形の縦長剝片の側縁に微細剝離や磨耗痕が観察される。43は小型の縦型剝片に微細剝離のある剝片である。

44～65は磨石・敲石類である。44～50は表裏面に磨耗痕が観察される磨類である。47は長軸に対して斜め方向の線状痕が観察される。45・46は表裏面に磨耗痕、側面や上下面に敲打痕が認められる磨+敲類である。47～49・50～55・63・64は表裏面に敲打による凹痕、上下面に敲打痕のある凹+敲類である。硬質かつ扁平な安山岩を用いるもの（54～56など）と梢円形を呈する多孔質安山岩を用いるもの（57・64）がある。前者は重さ200g前後で軽く、凹痕は細かく浅い。また上下側面の敲打痕に剥落痕を作り、このことから硬物質である石器製作用のハンマーと推定される。一方後者の凹痕は径2cmほどの円形で断面がレンズ状をなす。この表裏面には磨耗痕を伴う場合もあり、堅果類やオニグルミの加工といった軟物質に用いられたとみられる。65は楕円形で一般的な敲石と異なり、上下面を敲打により平坦にする。

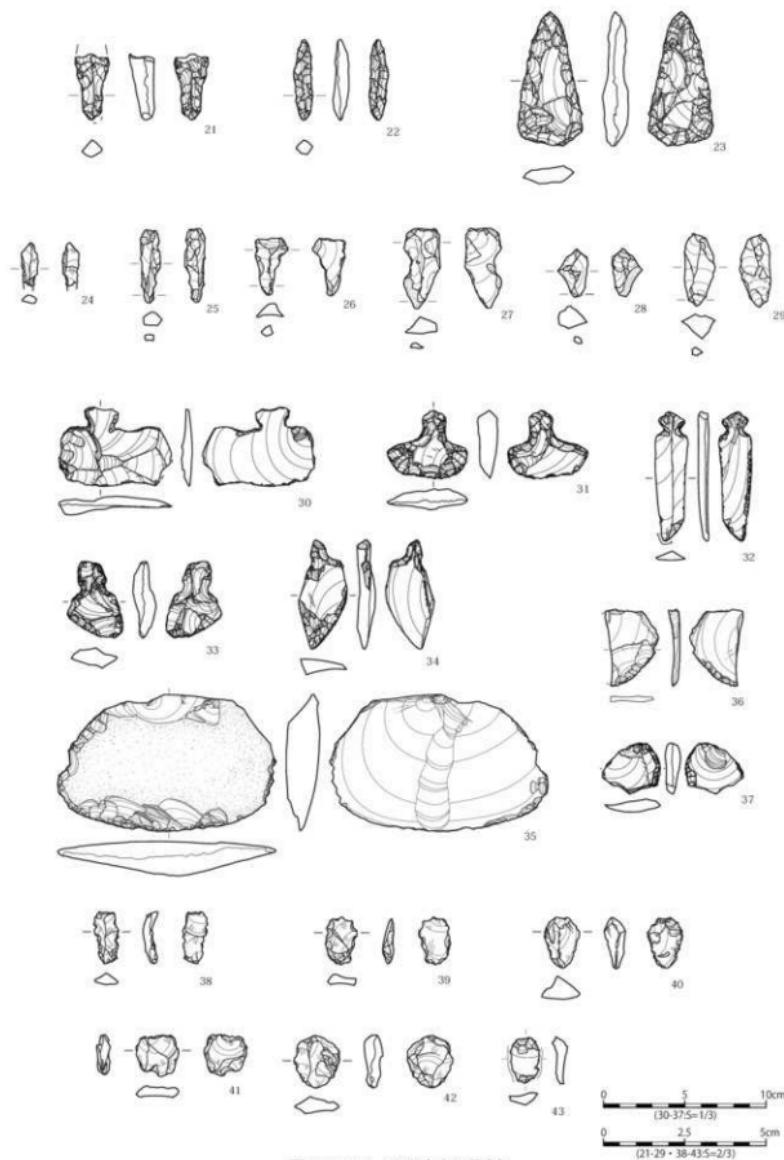
66・67は石錘である。66は長軸方向、67は短軸方向に溝を巡らす。66は擦切技法、67は連続敲打技法を用いる。重さは66が復元で200g、67が840gである。製作法の違いも含めると66・67は用途が異なっていたとみられる。

68～70は石皿である。すべて明瞭な凹部を作り出す有縁石皿である。68・69は円形の脚部を作り出す。凝灰岩、多孔質安山岩が用いられる。71は磨製石斧である。ほぼ完形品で緑色岩を用いる。擦切技法で製作された定角式である。長さ6cm、重さ20gほどで小型品に属す。72～75は砥石である。4点すべて幅1cmほどの長い溝のある玉砥石である。きめの細かい砂岩が用いられている。表裏両面を研ぎ面とする。73は幅3cmほどの研ぎ面が伴っており、玉以外の石製品の研磨にも用いられている。76・77は台石である。76には径12cmほどの円形の磨耗面が認められる。77は半円柱状に凹むが、磨耗面は弱く発達しない。

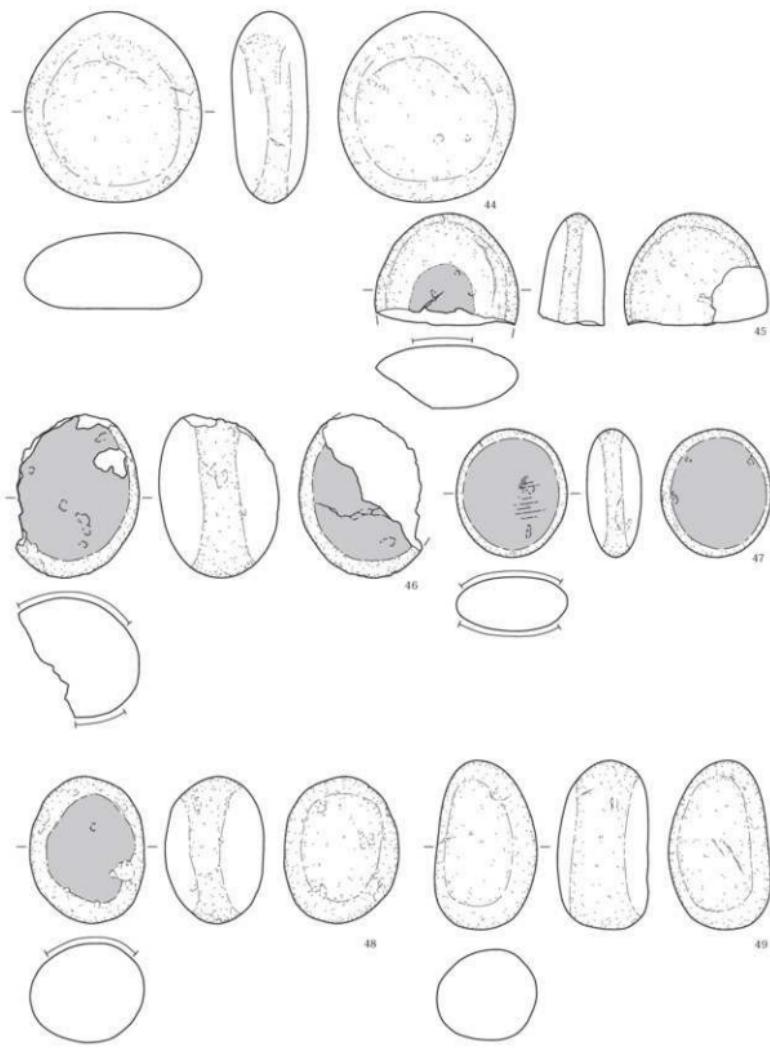
78～80は石核である。78はメノウでできた両極剝離技法の石核である。表裏面で敲打方向を90度変えている。79・80は頁岩の石核で79は原礫の片面に周縁から、求心的に剝片を剥離する。80は相対する上下両端に打面が設けられ、両設打面から交差するように剝片が剥離される。



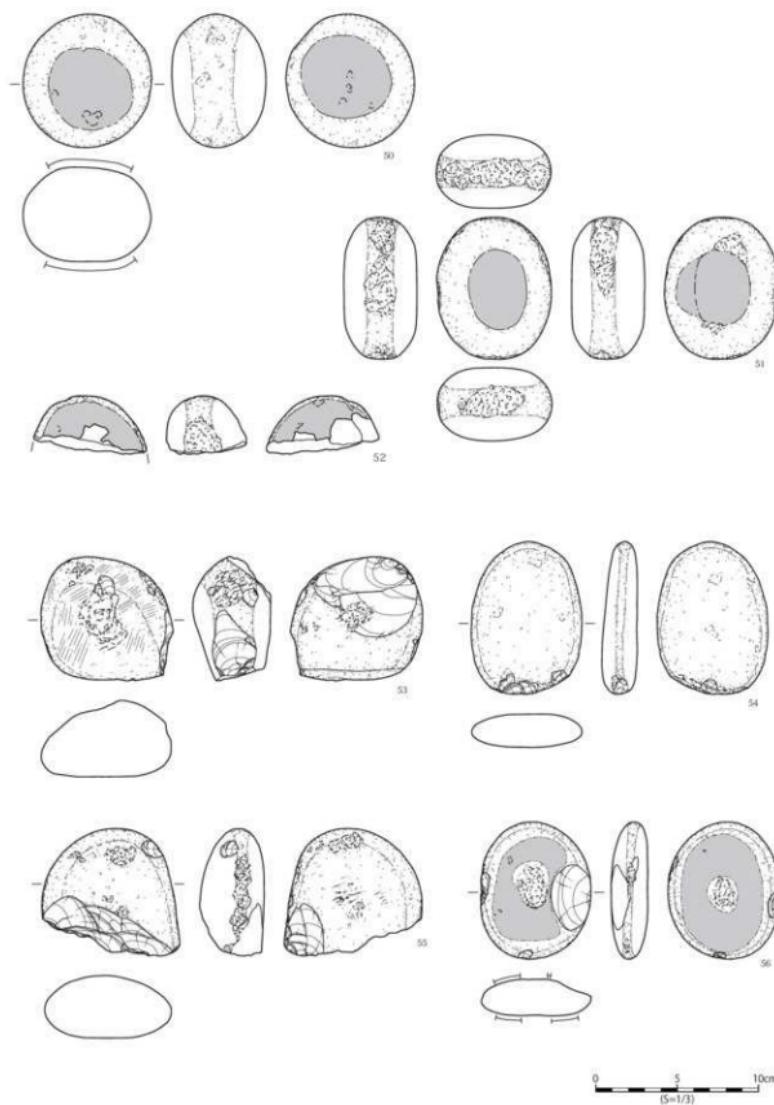
图III-2-4-26 SX01出土石器(1)



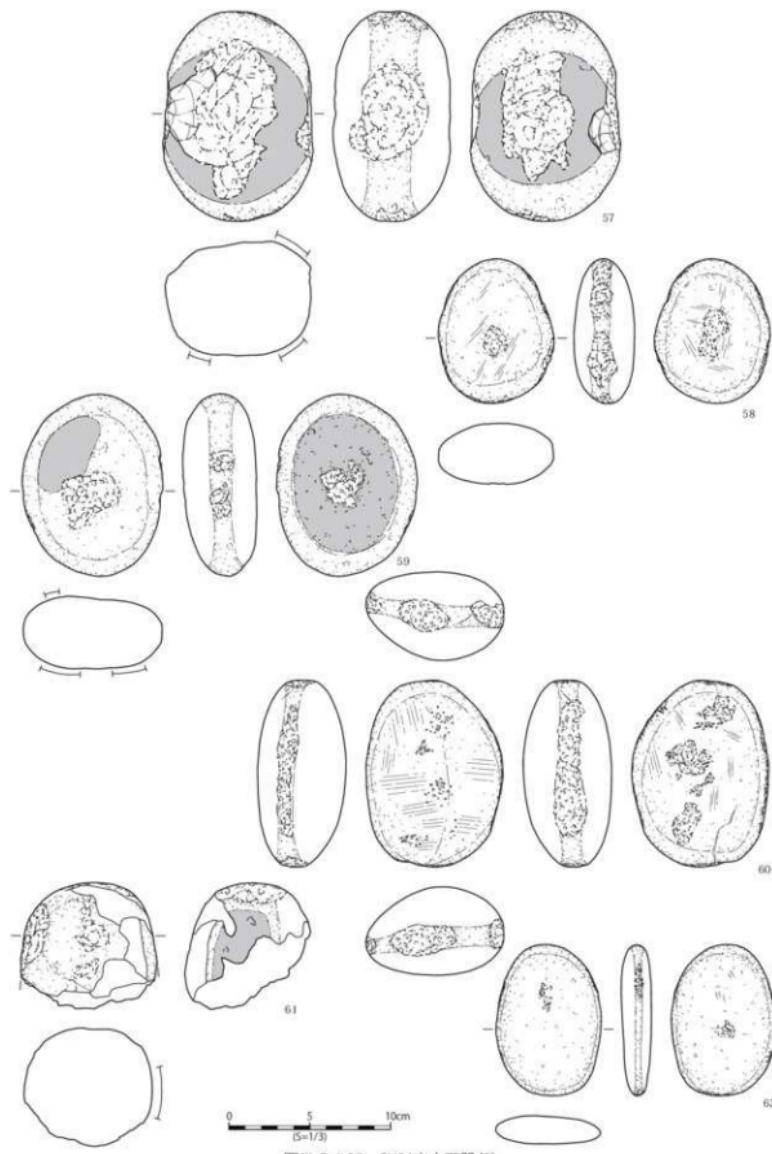
図III-2-4-27 SX01出土石器(2)



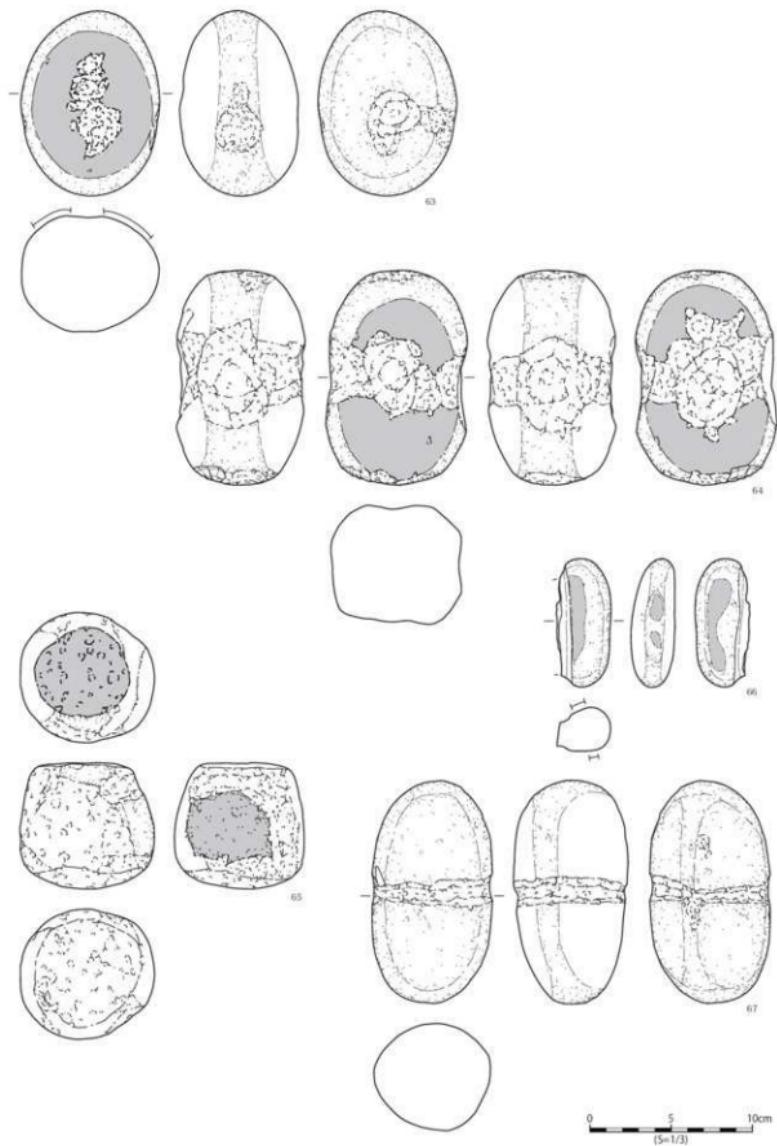
图III-2-4-28 SX01出土石器(3)



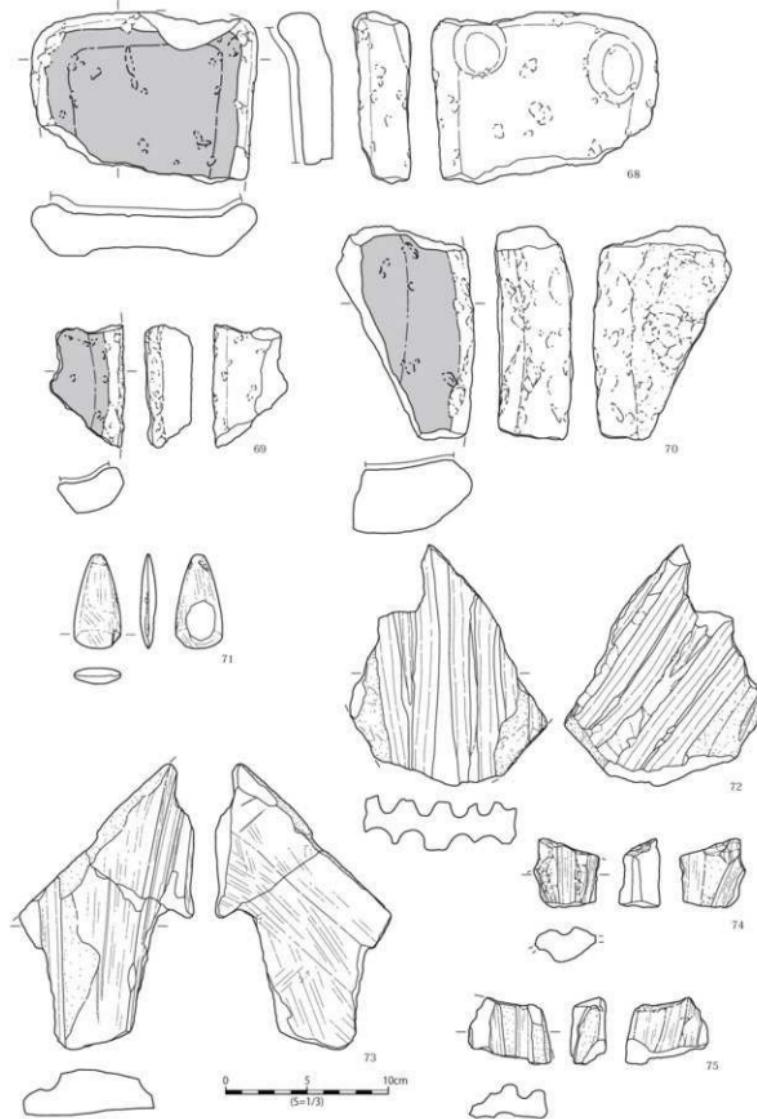
図III-2-4-29 SX01出土石器(4)



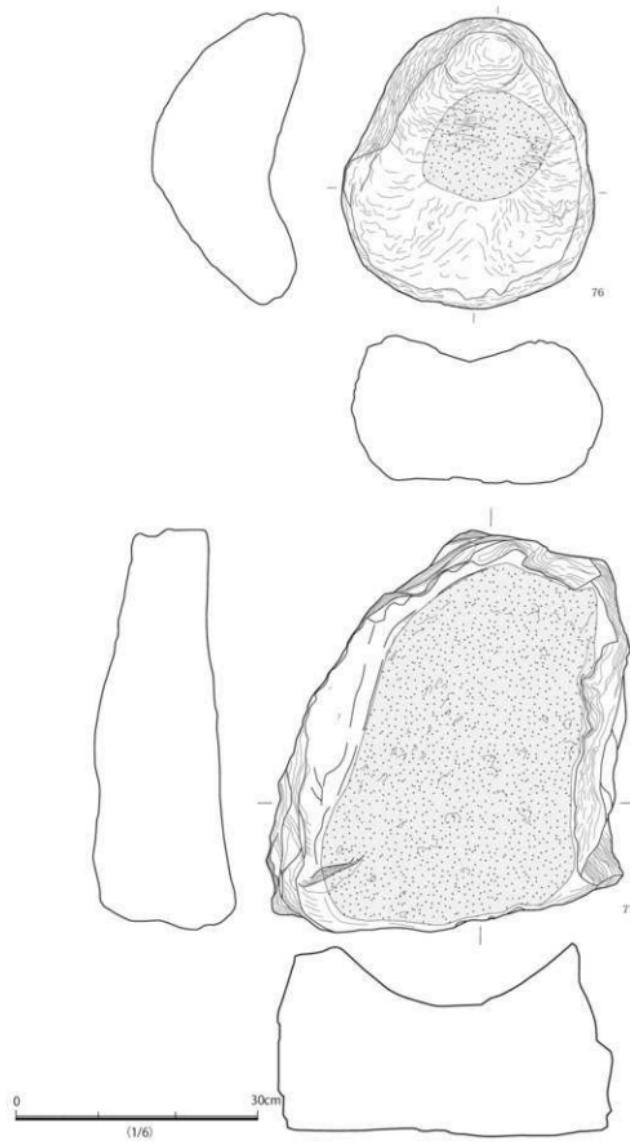
圖III-2-4-30 SX01出土石器(5)



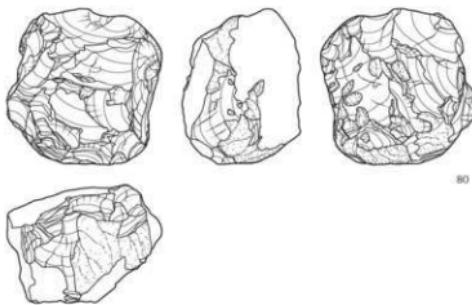
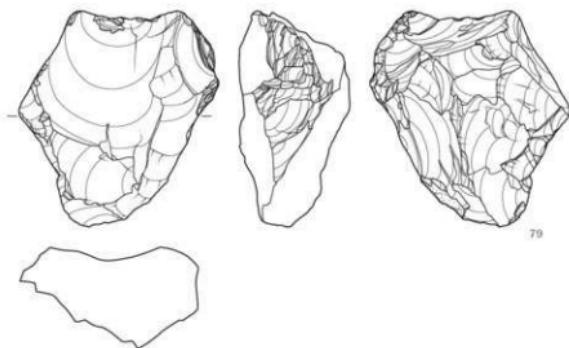
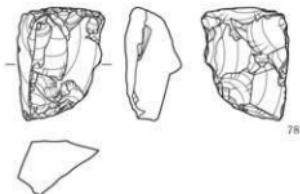
図III-2-4-31 SX01出土石器(6)



圖III-2-4-32 SX01出土石器(7)



図III-2-4-33 SX01出土石器(8)



図III-2-4-34 SX01出土石器(9)

3) 石製品（図III-2-4-35～42）

石製品は石棒・石刀・石冠・線刻礫・碗形石製品・ボタン状石製品・用途不明石製品・玉類がある。そのほか柱状礫は粗製の石棒である。石棒6点・石刀4点・石冠2点・線刻礫2点・碗形石製品2点・ボタン状石製品1点・柱状礫10点・玉類20点、計44点 13.644g出土した。

1～3は柱状礫で粗製の石棒を含む。2は柱状節理のある安山岩で周縁の角を剥離で除去する。3は剥離整形後、連続敲打による整形を行っており、石棒の未成品とみられる。4～6は石棒である。4は頭部片で1条の沈刻線を巡らす。5は大型品で長さ127cmが残存し、推定160cmにのぼる。複数個に割れているが、SX01の別々の位置から検出された。6は無頭で両端が細くなる。下端側に2条の沈刻線を巡らす。7～9は石刀である。7は山形の把頭部がある。9は刃部側に細かな刻みが付く。10は石冠の頭部である。頭部は山形をなす。

11はボタン状石製品である。12はイモムシ形（コッペパン形）の石製品である。本遺跡にはほとんどない緑色凝灰岩製で長さ19cm、径7cm、重さ800gほどである。長軸方向に穿孔され、両端部に組掛け用と見られる孔がある。沈刻線を多数巡らす。13～16は碗形石製品である。凹部、外側ともに敲打整形する。凹部には磨耗痕がある。13は外形が円形、14は三角形である。15は凹面に磨耗面があり、16は凹面のある礫で、敲打によりさらに凹む。

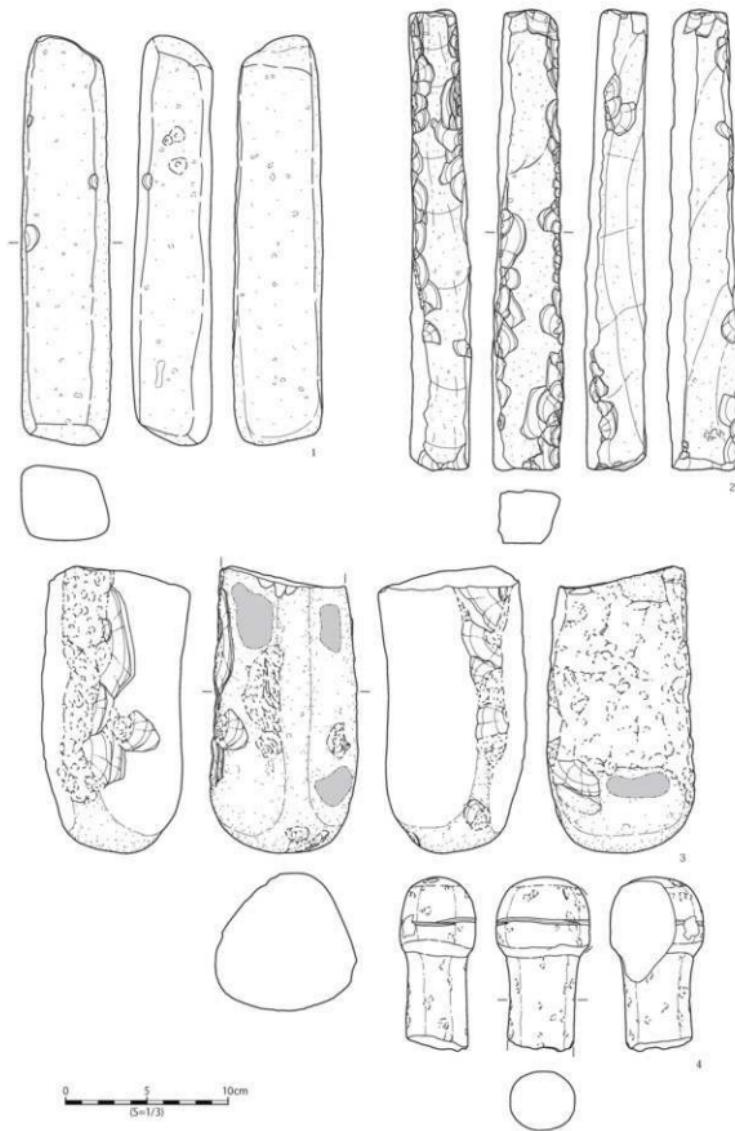
17～37はSX01で数多く検出された異形礫である。271点出土しており、内訳はくびれ石（バナナ状礫・スタンプ形礫を含む）162点、有孔礫29点、棒状礫（粗製石棒である柱状礫を除く）10点、球石1点、礫岩12点、凹凸礫17点、椀状礫38点、軽石2点である。全面自然の作用により摩滅しており、すべて遺跡外の海浜から搬入されたとみられる。石材は摩滅した安山岩、頁岩がほとんどである。17～24・28・29・32・35・36はくびれ石の類で礫中央が抉れる。一般的なくびれ石のほか形態によってスタンプ形礫、バナナ状礫がある。くびれ石は18の上下面には傷状の細かな敲打痕があり、硬物質のハンマーとして用いられたとみられる。28・29はスタンプ形礫で下側が大きい。35・36は板状礫の片側が曲がりバナナ形を呈す。25～27は椀形礫で面中央が凹む。ボタン状石製品の素材にもなる。31～34は中央に孔の開いた有孔礫である。31は自然作用でできたままの孔があるが、32～34は自然に開いた孔をさらに人の手による剥離などで広げる。33は孔の周囲が剥離される。34は孔が円形に磨かれる。37は凹凸礫である。類似するものに礫岩があり、礫表面の凸凹が著しい。

38～57は石製玉類およびその未成品である。SX01からは20点、12.4g出土した。全て緑色凝灰岩製である。分類別の内訳は原石（I類）4点（40～43）、面取りのみ（A II類）4点（47～49・51）、面取りありかつ穿孔途中（A III類）1点（52）、面取りありかつ穿孔あり（完成品：A IV類）9点（38・39・44～46・50・53・55・56）、面取りなしかつ穿孔途中（B III類）1点（54）、面取りなしかつ穿孔あり（完成品：B IV類）1点（57）である。

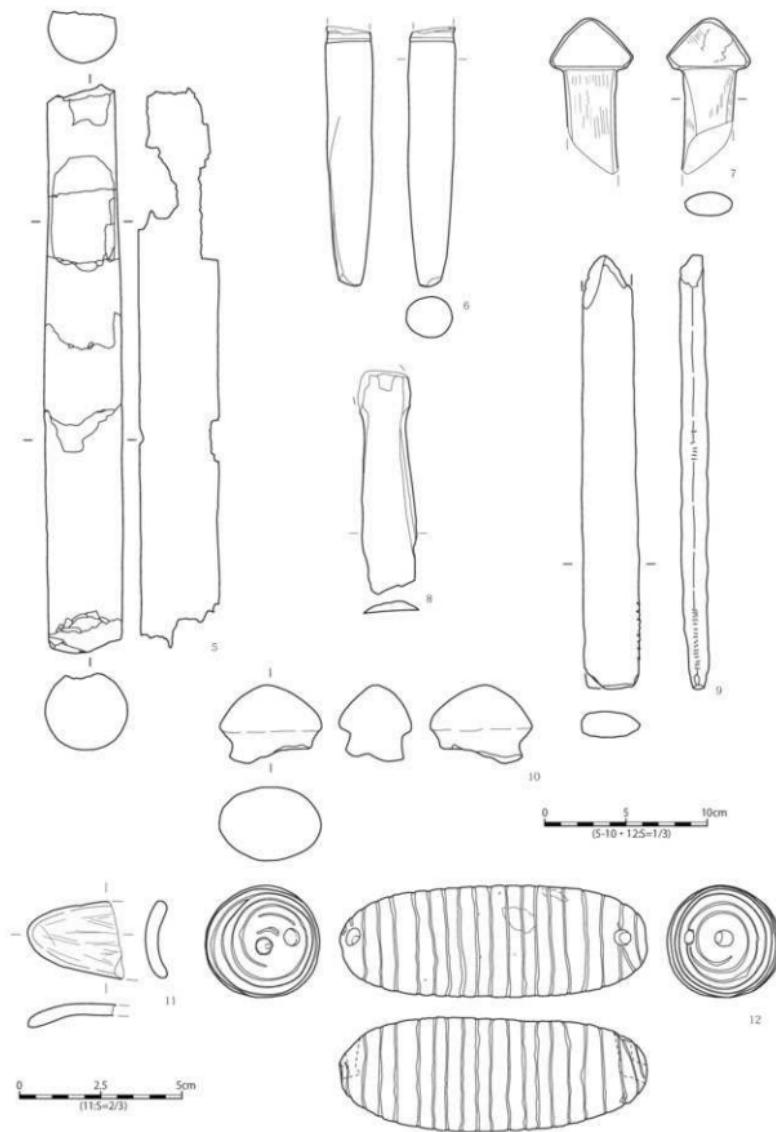
（上條信彦）

6. その他

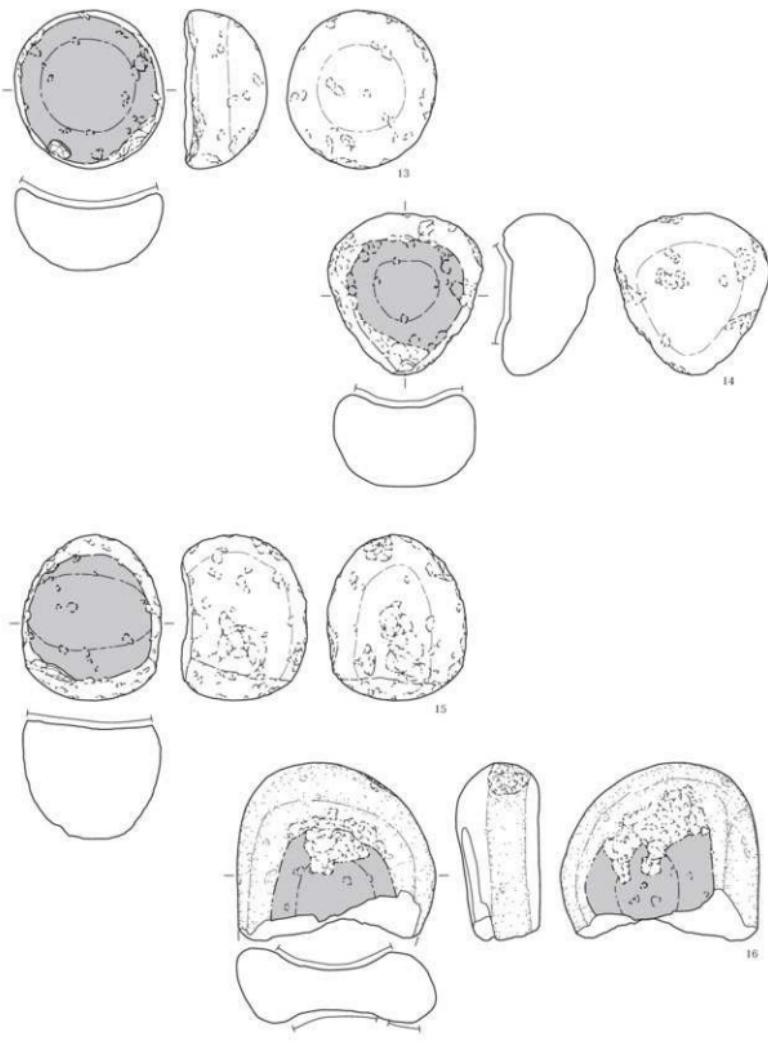
図III-2-4-43-1は珪化したクジラの椎骨である。



図III-2-4-35 SX01出土石製品(1)



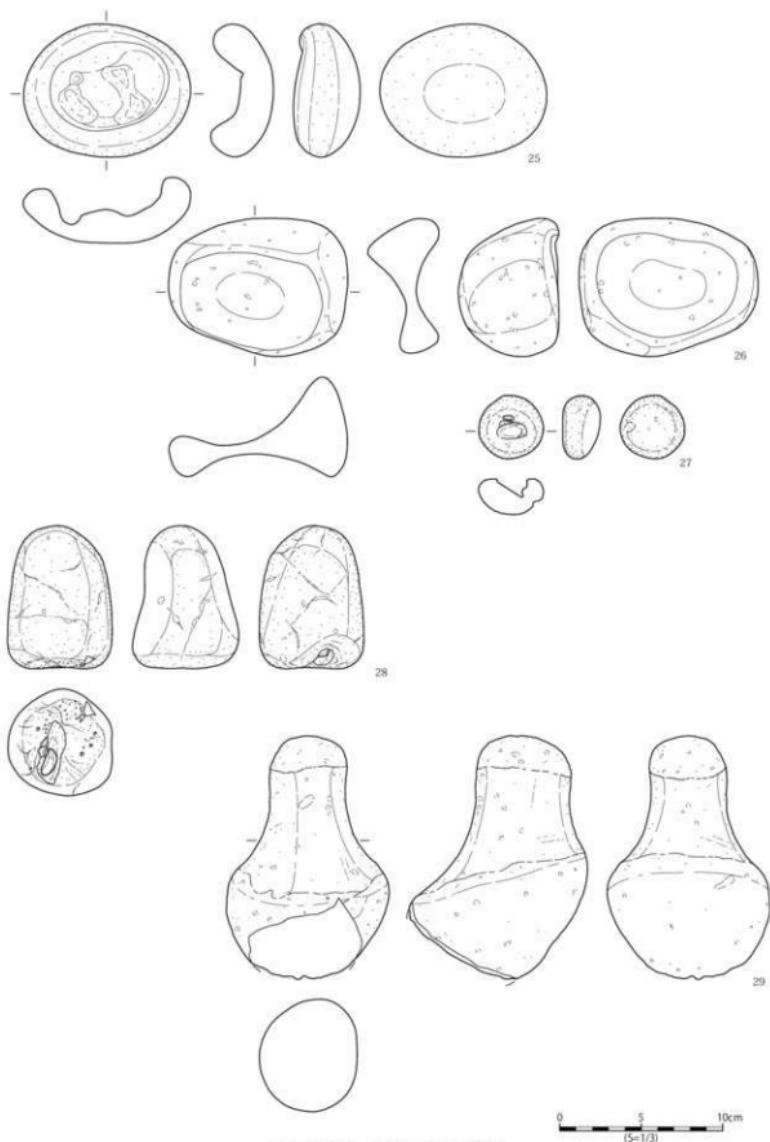
図III-2-4-36 SX01出土石製品(2)



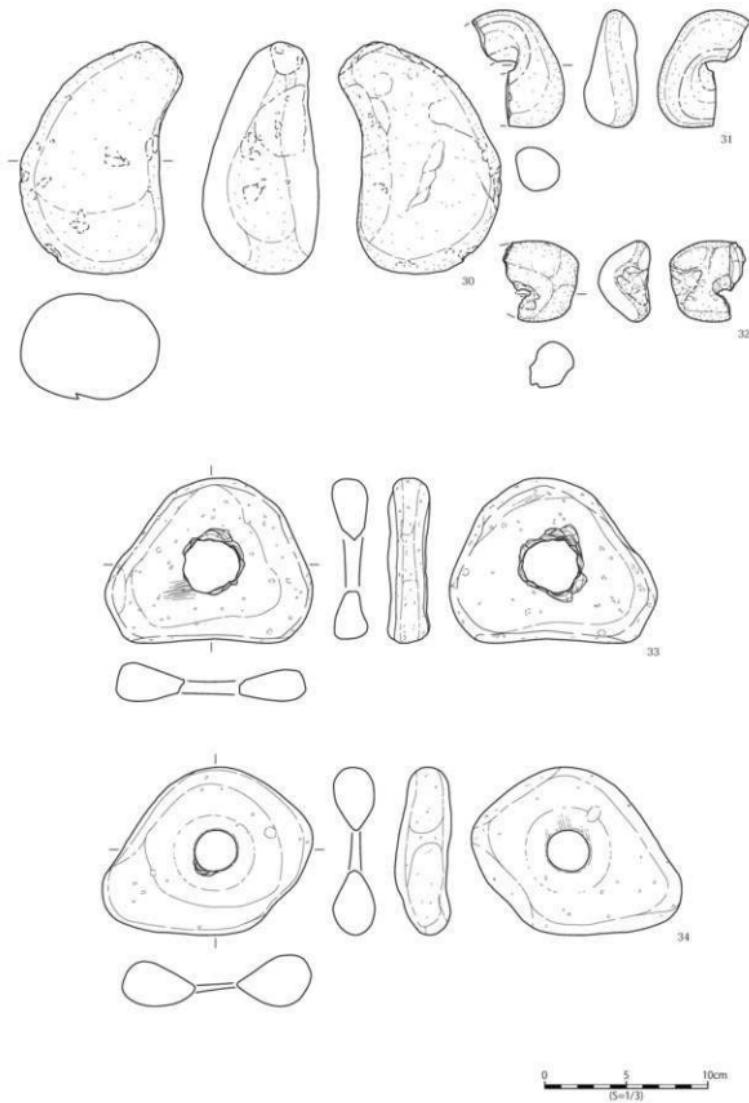
圖III-2-4-37 SX01出土石製品(3)



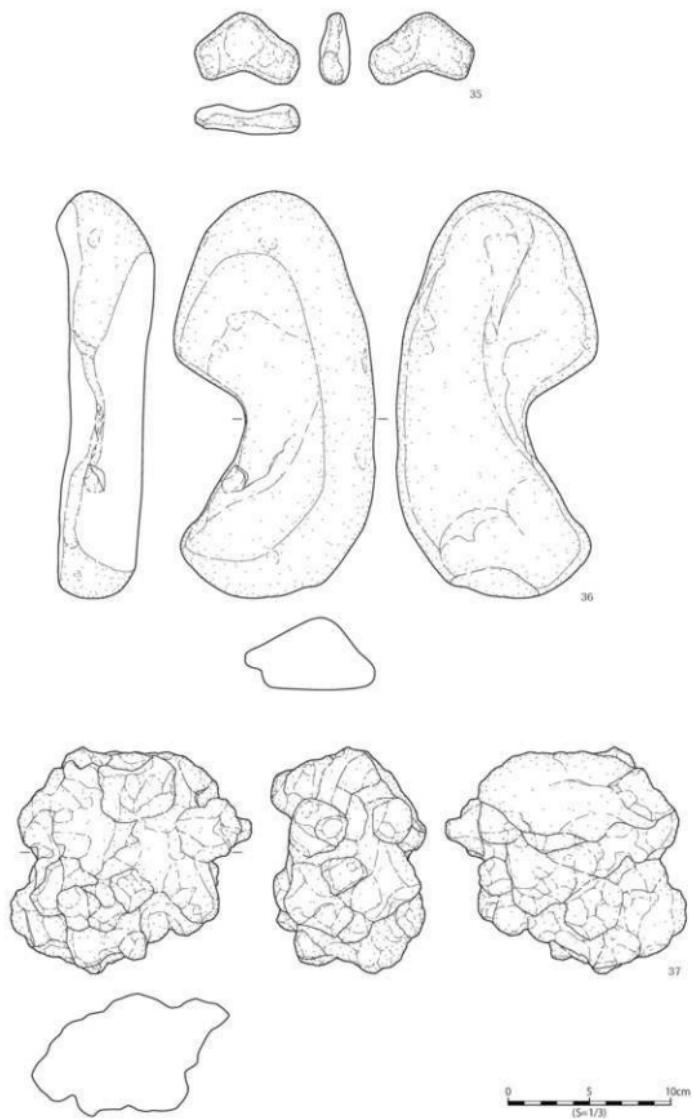
図III-2-4-38 SX01出土石製品(4)



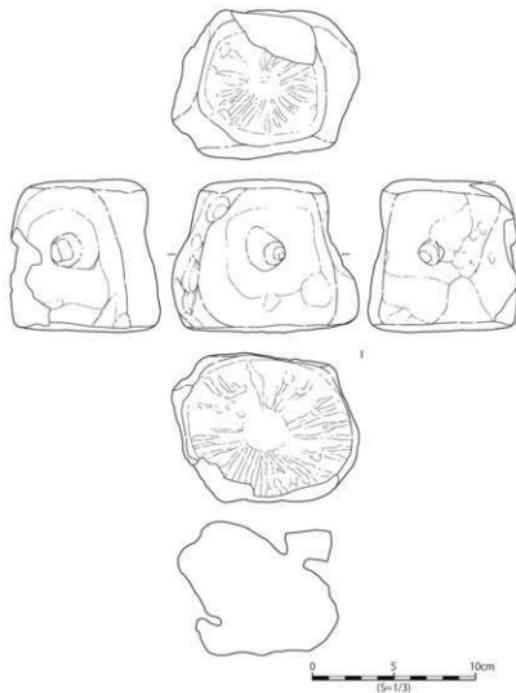
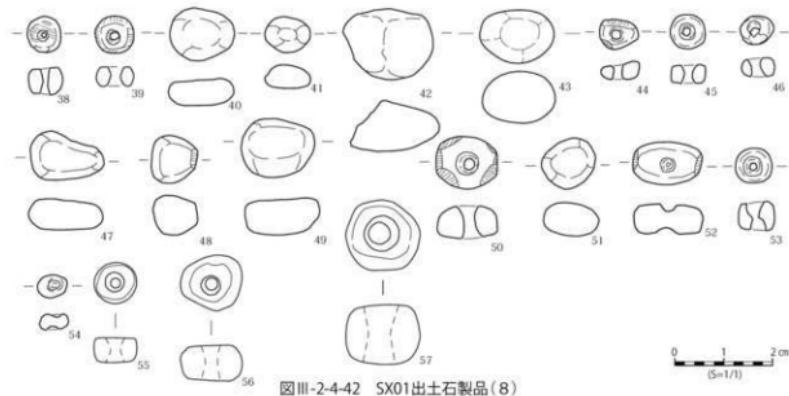
图III-2-4-39 SX01出土石製品(5)



図III-2-4-40 SX01出土石製品(6)



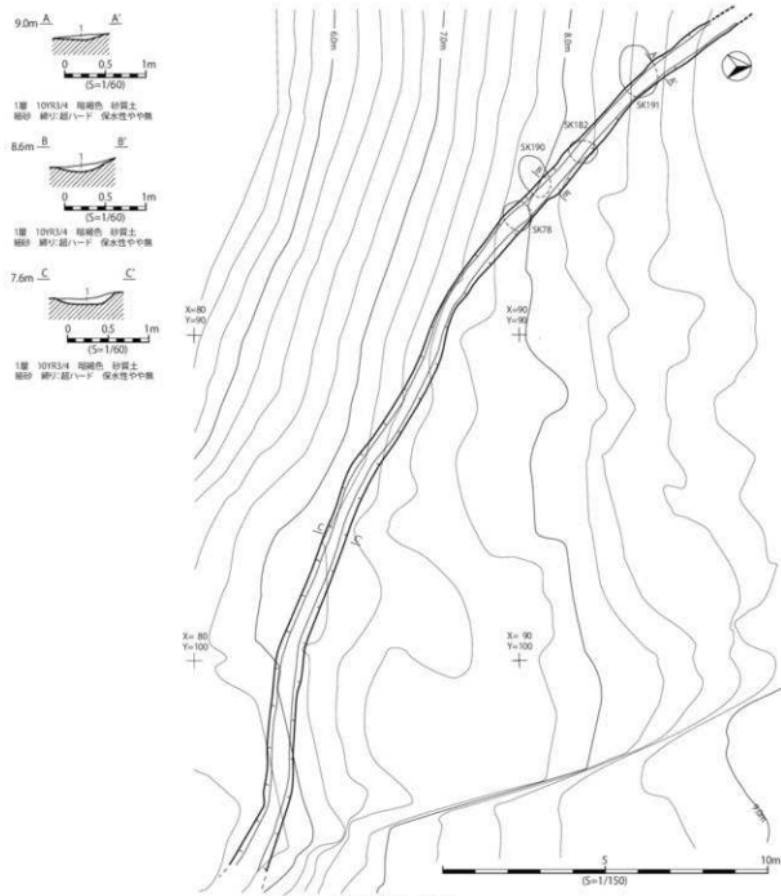
図III-2-4-41 SX01出土石製品(7)



図III-2-4-43 SX01出土珪化したクジラ目椎骨

5. 道路状遺構 (SF01)

【位置・確認】調査区の東南の傾斜変換点付近において地山直上で検出されている。【規模・形状】幅38.6~87.5cm、長さ3,019.4cmの規模で検出された。【重複】SK78・182・190・191と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。【堆積土】土層は3ヶ所で確認したが、いずれも暗褐色を呈する硬化した土層であり、中央がやや深い溝状の堆積である。これは、道を意識的に構築したものではなく、けものの道のように、何度も歩いたことにより、硬化面が形成されたものと考えられる。【出土遺物】特になし。【時期】5群の土坑であるSK192より古いことから、5群以前であると考えられる。



図III-2-5-1 SF01

6. 柵列跡

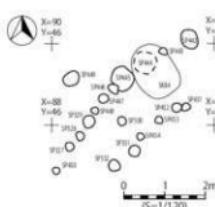
急斜面上に柱穴が複数列をなして検出されていることから、柵列跡として認定した。未調査のため、ここでは確認状況だけ報告するに留める。

第1号柵列跡 (SA01, 図III-2-6-1)

【位置・確認】グリッド X=76 ~ 88, Y=74 ~ 106 に位置し、調査区の東南の急斜面上の等高線と平行な位置で地山直上確認された。【規模・形状】幅 12.4 ~ 71.7cm のビットが 2 列あるいは 3 列をなして計 182 基検出された。【重複】SK91 と重複関係にあり、SK91 よりも古い。【出土遺物】特に無し【時期】SK91 との重複関係から、7 群以前であると考えられる。

第2号柵列跡 (SA02, 図III-2-6-2)

【位置・確認】グリッド X=88 ~ 90, Y=46 ~ 50 に位置し、地山直上確認された。【規模・形状】幅 22.3 ~ 63.1cm のビットが 2 列に 19 基検出された。【重複】SK84 と重複関係にあり、SK84 よりも古い。【時期】時期を特定できる遺物の出土がないため、不明である。



図III-2-6-2 SA02



図III-2-6-1 SA01

五所川原市埋蔵文化財調査報告書 第34集

そとめやち 五月女范遺跡

(第1分冊 本文編1)

発行年月日 2017年3月24日

編集・発行 五所川原市教育委員会
〒037-0202 青森県五所川原市金木町朝日山319-1

印 刷 所 有限会社 アート印刷
〒037-0011 青森県五所川原市金山字亀ヶ岡46-7
